

## 地(知)の拠点大学による 地方創生推進事業(COC+)

### 地域イノベーションを推進する 三重創生ファンタジスタの養成

# 平成30年度 事業報告書

## 事業協働機関

### 他大学・高等教育機関

四日市大学  
皇學館大学  
鈴鹿大学  
鈴鹿大学短期大学部  
鈴鹿医療科学大学  
三重県立看護大学  
四日市看護医療大学  
三重短期大学  
高田短期大学  
ユマニテク短期大学  
鈴鹿工業高等専門学校  
鳥羽商船高等専門学校  
近畿大学工業高等専門学校

### 企業・団体 ※50音順

(株)アーリー・バード  
ICDA ホールディングス(株)  
(株)医用工学研究所  
(有)オズ海島遊民くらぶ  
(株)ZTV  
中外医薬生産(株)  
辻製油(株)  
(株)ドリームエージェント  
日本土建(株)  
速水林業  
万協製薬(株)  
(株)光機械製作所  
(株)百五銀行  
(株)百五総合研究所  
(株)マサヤグループ本社  
三重県商工会議所連合会  
三重県商工会連合会  
三重県中小企業家同友会  
三重県農業協同組合中央会  
(株)三重ティーエルオー  
三重テレビ放送(株)  
(一社)わくわくスイッチ

### 自治体

三重県

## はじめに

平成27年度に文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」に三重大学が採択され、県内全ての高等教育機関、20の企業・団体、三重県を事業協働機関として、事業の推進を開始した。平成30年度には事業協働機関企業を3社増やし、高等教育機関では平成29年度開学のユマニテク短期大学も加わる等、事業推進体制を強化している。本事業は5年間の補助事業であり、その後はCOC+の後継機関である「高等教育コンソーシアムみえ」(以下、「コンソーシアム」という。)がCOC+の機能を備え、継続的に事業を推進していく計画になっている。事業当初から強化してきた高等教育機関との連携体制は、平成30年度に更なる進展を見せ、教育プログラムやCOC+オリジナル授業の継承について、様々な高等教育機関と具体的な継承方法について協議を始めている。

本報告書では、特に注力してきた「教育プログラムの充実」、「資格の啓発」を前段とし、平成30年度に実施した取組内容を記している。本報告書を隔々までご覧いただき、オール三重体制で構築したCOC+を少しでも知っていただければ幸甚である。

三重大学COC+イメージ図

# 地域発 イノベーション

地方創生のエンジンとして活躍

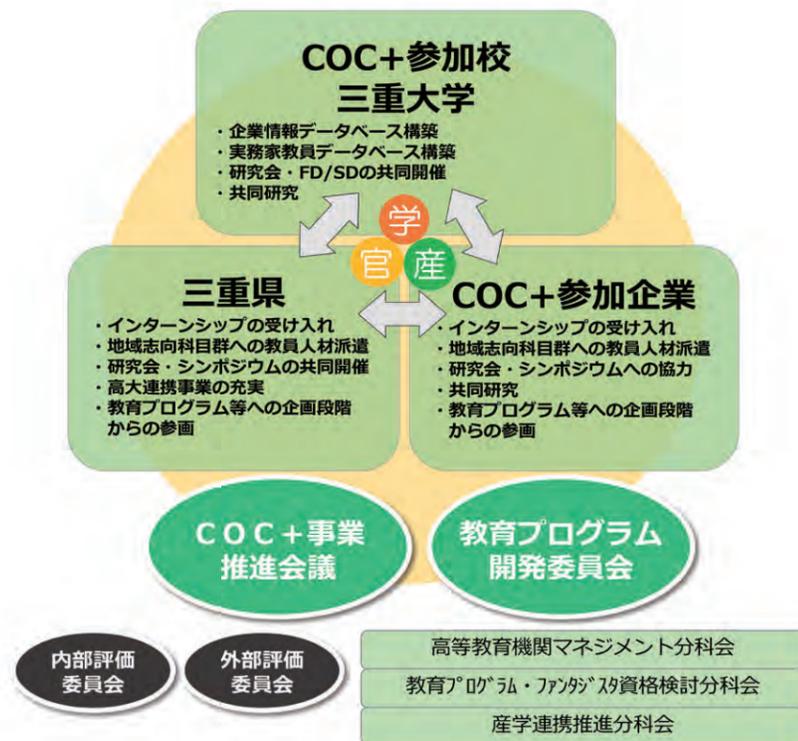


### 目標

- 事業協働地域の県内就職率を5年間で10%向上させる
- 事業協働機関による雇用創出数を5年間で30人とする
- 事業協働機関へのインターンシップ参加者数を5年間で2倍にする
- 事業協働機関からの寄附講座を5年間で6講座とする
- COC+参加校以外の事業協働機関による満足度を100%とする



**COC+推進コーディネーターを配置**



**目次**

<はじめに>

- 三重大学COC+イメージ図 ..... 3
- 教育プログラムの充実 ..... 6
- 資格の啓発 ..... 8

<事業実施体制(運営)>

- COC+の運営体制 ..... 10
- 会議での主な実績 ..... 12
- 平成29年度事業自己評価シート ..... 14
- 外部評価委員会各委員の評価(平成29年度事業評価) ..... 20
- 地域活性化推進コーディネーターの活動実績 ..... 22
- 企業情報データベースの運用 ..... 23

<教育関係>

- 三重創生ファンタジスタ資格 ..... 26
- 三重の歴史と文化 ..... 27
- 三重の産業 ..... 30
- PBL型集中講義(食と観光実践) ..... 33
- PBL型集中講義(次世代産業実践) ..... 37
- 地域発見型インターン ..... 40
- PBL型集中講義(三重の地場産業) ..... 43
- 自然環境リテラシー学 ..... 46
- 地域志向型ループリック ..... 47
- 三重創生ファンタジスタ資格説明会 ..... 49

<地域連携・情報発信 イベント等>

- 三重創生ファンタジスタクラブ(MSFC) ..... 52
- 三重ラーニングジャーニー ..... 58
- Jobキャラバン ..... 60
- 高校生向け公開講座 ..... 65
- みえインターンシップフェスタ ..... 66
- 鈴鹿大学ビジネスプランコンテスト ..... 67
- MIE学生ベンチャーサミット2019 ..... 68
- エースセミナー ..... 69
- COC+インターンシップ事業 ..... 71
- 三重大学地域拠点サテライト ..... 75
- 県内就職率向上のための様々な取組 ..... 77
- 中小企業との共同研究スタートアップ促進事業・地域貢献活動支援事業 ..... 79

<高等教育コンソーシアムみえ(COC+事業の継続性)>

- 高等教育コンソーシアムみえの実施会議 ..... 82
- 高等教育コンソーシアムみえ ..... 84
- 受託事業の実施 ..... 87
- みえまちキャンパス ..... 88
- FD/SD合同開催 ..... 90
- 企業研究会 ..... 91

<資料一覧>

- 各種制作物 ..... 93

## 教育プログラムの充実

### 三重創生ファンタジスタ資格の教育プログラムの広がり

三重大学が平成28年度に先行して開始した「三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コース(12単位以上)」に加え、平成29年度、平成30年度に教育プログラム開発委員会第2分科会(教育プログラム・ファンタジスタ資格検討分科会)(以下、「第2分科会」という。)で検討した結果、以下の高等教育機関が新たに教育プログラムを構築した。

■三重創生ファンタジスタ(ベーシック)資格(6単位以上)(後述P.26参照、以下、「ベーシック資格」という。)  
平成29年度開始校

四日市大学、皇學館大学、鈴鹿大学、鈴鹿医療科学大学、三重県立看護大学、四日市看護医療大学、三重短期大学、鈴鹿工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校

平成30年度開始校

高田短期大学

平成31年度開始予定

鈴鹿大学短期大学部

■三重創生ファンタジスタ(アドヴァンス)資格(12単位以上)(後述P.26参照、以下、「アドヴァンス資格」という。)

平成28年度開始校

三重大学

平成30年度開始校

四日市大学、皇學館大学、鈴鹿医療科学大学

平成31年度開始予定

鈴鹿大学

更に、県内就職に強いインセンティブを持った資格である三重創生ファンタジスタ(エキスパート)資格(以下、「エキスパート資格」という。)について検討し、資格要件や人材像について整理を行った。3つの資格は、各高等教育機関の強みを活かした教育プログラムに仕上がっており、三重県に愛着を持ち、主体性を持った学生を輩出している。

### 各高等教育機関におけるシラバスチェック

高等教育機関との連携を強化できた仕組みは教育プログラム・ファンタジスタ資格検討分科会(第2分科会)にある。全高等教育機関の教務関係者で構成された第2分科会では、各高等教育機関におけるベーシック資格やアドヴァンス資格対象授業のシラバスを相互にチェックし、三重創生ファンタジスタ対象科目として相応しいかを協議のうえ、認定している。自高等教育機関以外のシラバスをチェックし、意見を出し合う仕組みは、高等教育機関が真剣に三重創生ファンタジスタの養成に取り組んでいる証拠でもある。各機関で構築した教育プログラムは、第2分科会での相互チェックのもと、同等の質になるよう調整されており、外部評価委員会からも高い評価を得ている。

### COC+オリジナル授業のコンソーシアムへの継承

平成29年度に開始した2つの座学型講義(三重の歴史と文化、三重の産業)、2つのPBL型集中講義(食と観光実践、次世代産業実践)に加え、平成30年度にはインターンシップ型授業(地域発見型インターン)と柔軟な思考力等を育てる授業(三重の地場産業)を開始した。COC+事務局と各高等教育機関が連携して構築した上記6つの授業に加え、三重大学内のCOC+専任教員以外からも自然を体感する授業(自然環境リテラシー学)が提案され、現在COC+オリジナル授業として7つの授業を位置づけている。これらの7つの授業はコンソーシアムにおける単位互換授業にも位置づけられており、平成29年度は三重大学以外における6高等教育機関の学生総計32名が受講し、南北に長い三重県の地理上の不利をものともせず、他高等教育機関の学生と交流を深めることができた。

平成30年度には、COC+補助期間終了後に授業を継続するため、種々課題について検討をはじめ、第2分科会はコンソーシアムにおける「教育連携部会」として継承することが確認された。また、各授業にかかる費用の試算を共有し、コンソーシアムとして維持するための検討を始めた。第2分科会では教育プログラムを中心に、高等教育機関における種々課題等についても協議しており、協力体制が強化できている。本体制はコンソーシアムでも継承されるため、今後更なる発展が見込める。

### 高等教育機関の声

○四日市大学 小林 慶太郎副学長(第2分科会長)

この事業では、事業参加校が共同で授業科目を開設する試みも行ってきた。例えば私も関わっている「食と観光」の実践科目。参加した学生たちは、各校混成のチームで合宿しフィールドワークをこなしていく。校風も専攻も異なる学生同士、最初は途惑う場面も見られるが、やがて打ち解け、地域の課題について活発に意見交換をしたり取材に向向いたりするようになる。こうした経験が学生たちの成長を促す刺激となっていることも、本事業の一つの成果なのではないだろうか。

○三重短期大学 村井 美代子学長

本学は「地域貢献」の理念をきっかけ、県内の複数の高校と連携協定を結んできましたが、県内高等教育機関とのカリキュラムレベルでの交流は少なく、学生のクラブやサークル活動を通しての交流にとどまっていました。「三重創生ファンタジスタ」資格プログラムを開始した当初は4年制大学の学生とのレベル差などを思い、「ファンタジスタ」資格がどれほど学生の中に浸透するのか憂慮しておりました。しかしながらCOC+オリジナル授業には定員を超える履修希望があり、受講した学生が他大学の学生とともに積極的に課題に取り組んでいるとの報告をいただいています。また平成30年度末時点で10名の学生が「三重創生ファンタジスタ(ベーシック)資格」を取得し、三重県庁や県内団体、県内企業に就職しました。県内で活躍し始める先輩に刺激を受け、1年生からは「ファンタジスタ資格」についての問い合わせが寄せられ、現在2名の1年生が資格を取得して県内で就職活動中です。他大学の学生とともに「地域を知る」ことが自信につながり、さらに交流の輪が広がり、さらに地域を知って地域を愛することにつながっていくようです。

県内の高等教育機関との相互のシラバスチェックを通して、講義を担当する教員側でも「地域連携」の意識が高まりつつあります。本学の県内就職率は6割程度ですが、毎年県外出身学生が県内に就職しています。県内高等教育機関の連携強化を通して、県内学生の連携が強化され、地域を愛する優れた人材の地域への還元につながっていくことを期待しています。

## 資格の啓発

各高等教育機関において、三重創生ファンタジスタが輩出され始め、県内企業への資格周知が更に重要視されるようになってきた。資格を取得した学生のインセンティブになるよう、学生に対しては履歴書の資格欄に「三重創生ファンタジスタ資格」を記載するように指導するとともに、県内企業には学生へ三重創生ファンタジスタでの学びを質問し、学生の資質を確認いただくよう依頼している。また、「企業向け三重創生ファンタジスタ資格啓発チラシ」3,800部を配布するとともに、「人事担当者向け三重創生ファンタジスタ資格紹介パンフレット」を県内企業235社に郵送し、資格啓発を強化している。その結果、早くも県内企業から三重創生ファンタジスタ資格取得者が就職面接に訪れたという連絡があり、喜びの声が事務局にも届いてきている。また、県内企業の新卒採用募集要項の提出書類欄に「三重創生ファンタジスタ資格」を記載する等、企業のCOC+への協力体制も強化されている。



▲事業協働機関である(株)マスヤグループ本社 HP 情報

各媒体における資格啓発の他、地域活性化推進コーディネーターにおいても意欲的に県内企業を訪問すること、団体企業の総会や種々合会に出席することを通じ、資格の有用性のアピールや就職面接における質問の依頼を行っている(後述P.22参照)。平成31年度も資格啓発を図り、県内企業全てに資格認知いただけるよう尽力していく。

# 平成30年度 事業実施体制(運営)

## COC+の運営体制

### COC+事業推進会議

COC+における数値目標を達成するため、各会議体及び事業協働機関より挙げられた審議事項やその他COC+推進に関し必要な事項を扱う。

<構成メンバー>平成30年度

三重大学	四日市大学	皇學館大学
三重県立看護大学 (医療系大学代表)	鈴鹿大学短期大学部 (短期大学代表)	近畿大学工業高等専門学校 (高等専門学校代表)
三重県	三重県商工会議所連合会	三重県商工会連合会
三重県農業協同組合中央会		

### 教育プログラム開発委員会

COC+における教育プログラムについて、各会議体及び事業協働機関より挙げられた審議事項やその他教育プログラムの開発及び実施に関し必要な事項を扱う。

<構成メンバー>平成30年度

三重大学	四日市大学	皇學館大学
鈴鹿医療科学大学 (医療系大学代表)	三重短期大学 (短期大学代表)	鳥羽商船高等専門学校 (高等専門学校代表)
三重県	株式会社マサグループ本社	ICDA ホールディングス 株式会社
中外医薬生産株式会社		

<分科会>

各分科会は、教育プログラム開発委員会の直下であり、事業計画に基づき、実務を行う。

### 高等教育機関マネジメント分科会(第1分科会)

COC+数値目標達成に向けた具体的方策や事業協働機関の拡大、県内就職率向上に向けた入口・出口戦略の検討を行う。

<構成メンバー>平成30年度 分科会長 三重県

三重県	三重大学	四日市大学
皇學館大学	鈴鹿医療科学大学	鳥羽商船高等専門学校
株式会社ドリームエージェント	一般社団法人わくわくスイッチ	

### 教育プログラム・ファンタジスタ資格検討分科会(第2分科会)

県内高等教育機関が連携した教育プログラムの開発、資格証書発行の詳細や三重創生ファンタジスタ資格(エキスパート)の検討、企業向け資格紹介パンフレットの制作等を行う。

<構成メンバー>平成30年度 分科会長 四日市大学

全ての高等教育機関(計14高等教育機関)

### 産学連携推進分科会(第3分科会)

企業向け資格紹介パンフレットの制作や、三重創生ファンタジスタ資格(エキスパート)、資格の広報に関する方策、事業協働機関満足度向上に向けた方策の検討を行う。

<構成メンバー>平成30年度 分科会長 株式会社百五総合研究所

株式会社百五総合研究所	中外医薬生産株式会社	株式会社医用工学研究所
三重県中小企業家同友会	株式会社サン浦島	大王運輸株式会社
有限会社深緑茶房	有限会社野瀬商店	扶桑工機株式会社
株式会社ハツメック	株式会社中村製作所	株式会社前田テクニカ
橋本電子工業株式会社	株式会社ヒラマツ	株式会社メディサポジャパン
三重県	三重大学	

### 内部評価委員会

8月には上半期のCOC+進捗状況を確認し、下半期に向けた戦略の検討を行う。12月には下半期のCOC+進捗状況の確認や残り期間の戦略を検討するとともに、次年度のCOC+の内容を検討する。

<構成メンバー>平成30年度 COC+事業協働機関全て

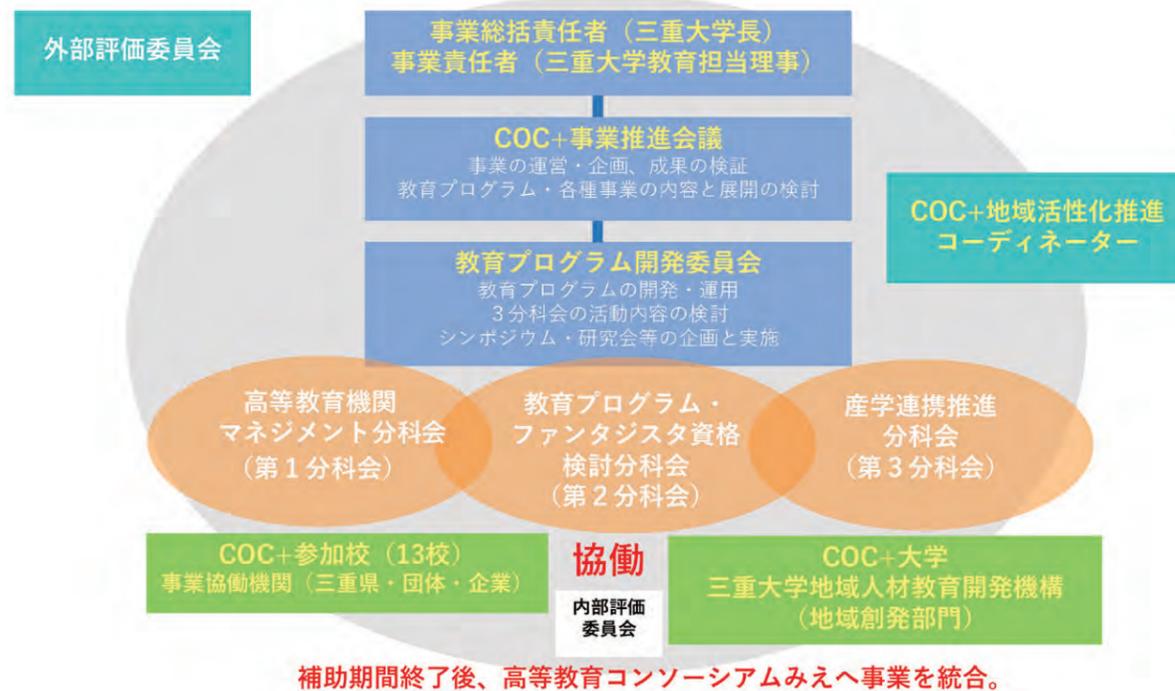
### 外部評価委員会

評価実施年度の年間を通したCOC+の進捗状況を評価し、数値目標達成に向けた助言等を行う。

<構成メンバー>外部評価委員

岐阜大学教授	東海旅客鉄道株式会社 特別顧問
公益社団法人みえ犯罪被害者総合支援センター カウンセラー	三重大学 監事

<事業組織図>



会議での主な実績

- COC+事業推進会議 (平成30年度5月、2月開催)
  - ・ユマニテク短期大学を次年度からのCOC+事業推進会構成員に新たに追加
  - ・COC+数値目標達成に向けた方策を検討
  - ・高等教育コンソーシアムみえへのCOC+移管についての協議
- 教育プログラム開発委員会 (平成30年度5月、2月開催)
  - ・各分科会の実施報告の確認、各分科会の事業計画の検討
  - ・企業に向けた三重創生ファンタジスタ資格の啓発方法の検討
  - ・COC+を高等教育コンソーシアムみえに移管するための方策を検討
- 第1分科会 (平成30年度6月、8月、11月、2月開催)
  - ・前年度の事業協働機関における満足度調査の実施
  - ・県内企業を紹介する企業情報データベースの運用
  - ・三重創生ファンタジスタ認定者数及び卒業後の進路についての調査  
(参考：平成29年～平成30年度の三重創生ファンタジスタ認定者における就職者数は、鈴鹿工業高等専門学校4名、鳥羽商船高等専門学校9名、三重短期大学4名の計17名)
- 第2分科会 (平成30年度6月、9月、10月、12月、2月開催)
  - ・三重創生ファンタジスタ資格啓発チラシ、資格紹介パンフレットの制作 (第3分科会と協働)
  - ・エキスパート資格について協議を行い、資格要件等の確認
  - ・高等教育コンソーシアムみえでも分科会を継続するための検討、教育部会創設に向けた協議

- 第3分科会 (平成30年度5月、7月、9月、11月、1月、3月開催)
  - ・三重創生ファンタジスタ資格啓発チラシ、資格紹介パンフレットの制作 (第2分科会と協働)
  - ・エキスパート資格に対する産業界の意見を集約及び協議
  - ・三重創生ファンタジスタ資格取得見込者との意見交換
- 地域創発部門会議 (平成30年度4月～3月の8月除く、各月開催)
  - ・三重大学における三重創生ファンタジスタ資格にかかる対象科目の検討
  - ・三重大学における三重創生ファンタジスタ資格意向届提出に関する啓発の実施
  - ・三重創生ファンタジスタ資格見込証明書の発行
  - ・三重創生ファンタジスタ資格の継続及び各種イベントの検討
- 内部評価委員会 (平成30年度9月、12月開催)
  - ・外部評価を受けての事業実施の再検討
  - ・各分科会における実施状況の確認及び、意見交換
- 外部評価委員会 (平成30年度7月開催)
  - ・平成29年度の事業実施状況の評価

評価内容は下記のとおり

- I…計画を実施していない
- II…計画を十分には実施していない
- III…計画を十分に実施している
- IV…計画を上回って実施している

平成 29 年度の評価結果

	自己評価	外部評価委員会
総合評価	III	III
達成状況の要因分析と改善	III	III
運営		
① 事業実施体制の整備に関する事	III	IV
② 事業の推進に関する事	III	IV
教育		
① 教育プログラムの開発に関する事	IV	IV
② 教育プログラムの実施に関する事	IV	IV
地域連携・情報発信		
① 地域との連携に関する事	III	IV
② 事業の情報発信に関する事	III	III
数値目標の達成状況	II	II





### 平成29年度事業協働機関へのインターンシップ実績一覧

分野	項目 数値目標の達成状況	自己評価									
		H26	H27		H28		H29		H30	H31	
		実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標
数値目標	事業協働地域就職率	49%	50%	48.9%	51%	48.8%	53%	48.9%	56%	59%	
	うちCOC+大学	33%	34%	32.1%	35%	32.9%	37%	33.5%	40%	43%	
	事業協働機関へのインターンシップ参加者数	75人	80人	63人	90人	90人	110人	139人	130人	150人	
	うちCOC+大学	47人	50人	52人	60人	73人	75人	76人	90人	110人	
	事業協働機関からの寄附講座数 (申請時に「寄附講座」以外の取組を記載した場合その名称とすること)	3講座	3講座	3講座	4講座	2講座	4講座	8講座	6講座	6講座	
	うちCOC+大学	3講座	3講座	3講座	4講座	2講座	4講座	8講座	6講座	6講座	
事業協働機関雇用創出数	0人	1人	1人	3人	17人	6人	14人	10人	10人		

### 平成29年度COC+参加校県内就職者数

(参考:平成26年度)

大学等名	卒業生数(A)	就職者数(B)	うち県内就職者数(C)	比率(C/B)
三重大学	1,386人	886人	297人	33.5%
四日市大学	169人	144人	36人	25.0%
皇學館大学	683人	522人	339人	64.9%
鈴鹿大学	72人	51人	26人	51.0%
鈴鹿医療科学大学	513人	459人	205人	44.7%
三重県立看護大学	97人	95人	56人	58.9%
四日市看護医療大学	105人	100人	58人	58.0%
鈴鹿大学短期大学部	128人	105人	99人	94.3%
三重短期大学	318人	208人	128人	61.5%
高田短期大学	237人	231人	227人	98.3%
鈴鹿工業高等専門学校	234人	142人	43人	30.3%
鳥羽商船高等専門学校	118人	100人	15人	15.0%
近畿大学工業高等専門学校	168人	126人	22人	17.5%
合計	4,228人	3,169人	1,551人	48.9%

大学等名	卒業生数(A)	就職者数(B)	うち県内就職者数(C)	比率(C/B)
三重大学	1,392人	874人	292人	33.4%
四日市大学	194人	125人	53人	42.4%
皇學館大学	688人	521人	307人	58.9%
鈴鹿大学	107人	80人	37人	46.3%
鈴鹿医療科学大学	445人	385人	160人	41.6%
三重県立看護大学	94人	93人	48人	51.6%
四日市看護医療大学	113人	104人	68人	65.4%
鈴鹿大学短期大学部	125人	108人	102人	94.4%
三重短期大学	301人	191人	125人	65.4%
高田短期大学	240人	230人	226人	98.3%
鈴鹿工業高等専門学校	219人	132人	32人	24.2%
鳥羽商船高等専門学校	110人	89人	13人	14.6%
近畿大学工業高等専門学校	111人	84人	19人	22.6%
合計	4,139人	3,016人	1,482人	49.1%

受入企業名	四日市	皇學館	鈴鹿	鈴鹿医療	県立看護	四日市看護	鈴鹿短期大学部	三重短大	高田短大	鈴鹿高専	鳥羽商船	近大高専	三重大	計
株)アーリーバード														0
EDAホールディングス 株)														0
伊藤工機 株)														0
株)医用工学研究所														0
有)オズ海島遊民くらぶ													3	3
株)ZTV		18											4	22
中外医薬生産 株)										1			1	2
辻製油 株)													2	2
日本土建 株)								1						1
速水林業														0
万協製菓 株)										1			8	9
株)光機械製作所													1	1
株)百五銀行		10							4				11	25
株)百五総合研究所		3							4				4	11
株)マサグループ							2						2	4
三重県商工会議所連合会														0
三重県商工会連合会														0
三重県農業協同組合中央会								1					2	3
株)三重ティーエルオー														0
三重テレビ放送 株)		2									1	1	2	6
三重県庁		7											30	37
自学								7					6	13
計	0	40	0	0	0	0	2	9	8	2	1	1	76	139

参考:平成26年度)	1	20	0	0	0	0	0	1	0	6	0	0	47	75
参考:平成27年度)	0	7	0	0	0	0	1	2	0	1	2	2	52	63
参考:平成28年度)	0	9	0	0	0	0	0	1	1	5	0	1	73	90

# 外部評価委員会 各委員の評価(平成29年度事業評価)

総合評価	総合 Ⅲ	委員長 Ⅲ
	◎平成29年度は事業期間の折り返し地点にあり、中間評価結果もAであったことから順調に事業は進展し、目的の方向に向かい着実かつ具体的に進んでいると見える。 ●三重大学は学長を先頭チームワークを駆けており、オール三重体制も行政の施策と整合性がとれており、相乗的な効果も期待されている。 ●事業実施体制、教育プログラム、地域連携・情報発信等の骨格は形成され、開発期を終えて実施期へと移行している。 ●実施期における事業改善を著実なものとするPDCAのための分担組織、会議等は既に機能し始めており、他の高等教育機関でも同レベルの資格取得への動きがあり、質の保証や共通項のチェック等も進められており、着実な改善が継続されるものと期待される。 ○本事業における多様な取組において、資格取得を目指すとする学生は増加しており、学生から見た魅力度を高めるためにも「学生」の活躍をどのように位置づけ、活躍の舞台に上られるように組織するか今後の重要課題となると考える。 ○数値目標の地域就職率の達成は、目標設定の経緯、外部要因の大きさ等、難しい事情を含んでいるが、最終年度における達成状況は今以上に重視される。このために、下位目標等を設定するなど対応が検討されることを期待する。 ○今後、育成人材が地域で活躍できる場を創出することに、COC+大学、参加校、事業協働機関一丸となって注力いただきたい。 ○コンソーシアム全体でどのような県内就職率を上げていくかについて事業が推進されている。他方、県内就職率アップのためには、大学による学生への啓発だけでなく、県内企業が、自社が学生から見て、魅力があるように見える努力が必要であり、自治体による支援も期待される。	平成29年度は事業期間の折り返し地点にあり、中間評価もAであったことから順調に事業は進展しているといえる。 ●事業実施体制、教育プログラム、地域連携・情報発信等の骨格は形成され、開発期を終えて実施期へと移行している。 ●実施期における事業改善を著実なものとするPDCAのための分担組織、会議等は既に機能し始めており、着実な改善が継続されるものと期待される。 ○本事業における多様な取組において、「学生」をどのように位置づけ、活躍の舞台に上られるように組織するか今後の重要課題となる。 ○数値目標の地域就職率の達成は、目標設定の経緯、外部要因の大きさ等、難しい事情を含んでいるが、最終年度における達成状況は今以上に重視されることも予測される。このために、下位目標等を設定するなど対応が検討されることを期待する。
達成状況の要因分析及改善	総合 Ⅲ	委員長 Ⅲ
	◎平成28年度事業評価を受けて、新規に「達成状況の要因分析及改善」の評価観点を設定しており、着実にPDCAを実施しようとする真摯な取組として高く評価できる。 ◎昨年度の実績を踏まえ、事業協働機関の追加、インターンシップ数増増等の結果を上向きさせた上、着付調定増を意味づけ直す等、個別の取組での成果が確認できる。 ◎数値目標の達成に向けた課題を整理し、「数年後を見据えた「長期戦略」と就職活動を行う学生にむけた「短期戦略」が必要」と整理し、高等教育機関の特徴や傾向を分析したうえで、各戦略に基づく具体的な取組を明確にしたことと評価している。 ◎就職立上げの要因分析及び「マッチング」が不十分でなく、設定される取組が適切ではなく、その結果が次の取組に影響するような組織を構造的に表現しながら関係者で連携することを期待する。進捗の取組を常に整理し、進捗の取組を常に整理し、取組の進捗不足を再検討することも重要である。 ●「県内就職率」の目標は本事業の中核目標であるので、これを構造的に達成すべく、「人材育成(教職員、地域を含む)」「促進取組」「学生、地域の満足度」 地域への愛着、就職、等の各取組結果とどのような状態にあるかを意識を含めて定期的に調査することにより時系列に分析し改善する体制を期待する。	本年度から新規に設定された評価分野である。昨年度の外部的評価委員会の結果を反映させて着実にPDCAを実施しようとする意欲的な取組として評価できる。実施調査を踏まえた課題分析により戦略立案する方針は評価されるが、戦略立案については畢竟でなくBSC等を用いて因果構造が可視化されると取組の関係性が明確となると期待される。 ◎昨年度の達成状況を踏まえて未達成2課題に焦点を当てて課題分析、戦略立案に取組む手法は適切である。 ○着付調定増に向けた課題は、現実的な対応であり県外支援を具体的に意味づけるもので今後の波及効果も期待できる。 ●県内就職率向上について「入口戦略」は既習シラチの配布にとどまらず、入試改革や高大連携等におけるファンタジスタ活躍の場形成等、戦略の充実に期待される。
運営	総合 Ⅳ	委員長 Ⅳ
事業実施体制の整備に関すること	Ⅳ	Ⅳ
事業の推進に関すること	Ⅳ	Ⅳ
	◎実施事業の変化や展開のスピードに応じて組織の改編を柔軟に行い、恒常的な事務機能や教育体制、推進体制等が副学長の下に強化され、大学事務局を巻き込んだ学推進体制が構築されている。 ◎オール三重体制が進展かつ深化している。大学、三重県、企業等との間で人的、物的、財政的にコストシェアが行われ、様々な場面で協力が進展しており、コンソーシアムによる持続的成長が期待できる。 ◎事業推進に関する会議及びWG及びコーディネーターを含めた関係者の活動等は実質的に機能し始めており、各々が課題に意欲的に取組み、検討結果を迅速に具現化、実施する等、一丸となって事業を推進している。 ◎内部評価、外部評価を着実に実施しながら、トータルでのPDCAサイクルを意識して運営されている。 ◎地域の取組をベネチアフォーラムにて、調査等により情報収集し本事業の特色や課題を相対化する視点を組み込むような取組が期待される。 ◎本事業の特色を顕化させた新時代を切り拓くことのできるファンタジスタに活躍の場を積極的に用意し、育成人材の姿を共有できるようにすることを期待する。	昨年度に続き人材の雇用と配置による体制整備は着実である。とくに、副学長の教育+COC+担当、学生総合支援+インターンシップ担当、地域創生担当の3名の配置と役割分担は特筆すべきであり、事務局体制も巻き込んだ学推進体制が強化されたことと評価できる。 事業推進については、会議及びWG等が実質的に機能し始めており、具体的な成果を出しつつある。今後は、1000名を超えて登録されている「三重学生ファンタジスタ」の意欲的な学生をどのように活躍させるかが重要な課題となろう。 ○副学長3担当による体制は、COC+事業の実効性を高めるとともに今後の大学の方向性を決する重要なメッセージであると評価できる。 ○三重県による財政支援をはじめ、事業協力機関による人的・物的支援は強固であり、コンソーシアムによる持続的成長が期待できる。 ●ファンタジスタの学生が運営に関わるような活躍の場を組織することに期待したい。
教育	総合 Ⅳ	委員長 Ⅳ
教育プログラムの開発に関すること	Ⅳ	Ⅳ
教育プログラムの実施に関すること	Ⅳ	Ⅳ
	◎教育プログラムの開発・充実は顕著であり、整備段階をほぼ終了しており、授業評価改善に加えて各事業等との有機的な連携による質の向上を図る段階へと移行している。 ◎「三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コース」の履修状況が新入生ガイダンスに組み込まれる等により副専攻コース登録者を増加させており、学生への周知が大学として標準化されつつある。 ◎参加校がベネチア資格として教育プログラムを実施し、さらに平成30年度から3校が「三重創生ファンタジスタ」教育プログラムを開始する等、着実に実施の広がりを見せている。 ◎教育プログラムの授業の質はファンタジスタ養成の要となるが、授業評価は満足できる水準であり、PBL科目のルーブリック活用など、さらなる授業改善が確認できる。 ◎COC+大学、COC+参加校、事業協働機関、それら組織に所属する大学教員、職員、企業人等がそれぞれの特色や専門性を活かしながら、連携、実施した教育プログラムが複数を進展している。健全な実施体制が構築されつつあり、ファンタジスタ育成の視点からの授業改善が継続していくことで、これからの教育プログラムの開発、展開が進展して、実施体制も増加している。 ◎学生サークル「三重創生ファンタジスタクラブ」が組織化され、学生が地域活動に積極的に参加し、学生間のつながりが強化されるとともに、ロールモデルとなる等、大いに今後を期待する。 ◎学生が行っている地域での研究活動や地域における社会貢献活動を集約、整理し、教育プログラム実施の成果として地域に広く発信することを期待する。	教育プログラムは、整備段階をほぼ終了しており、授業評価改善に加えて各事業等との有機的な連携による質の向上を図る段階へと移行している。とくに、ファンタジスタクラブ立ち上げに意欲的な学生を主体にし始めていることは高く評価される。 ◎COC+参加校によるベネチア資格取得者は順調に増加され、実施機関も増加している。 ◎第2分科会教育WGは教育プログラムに関する各大学シラチを評価し、ファンタジスタ育成の質の確保に努めたことは高く評価される。 ○科目整備が順調に進み、インターンシップ等との関連も密に設計されるようになり、体系的な教育プログラムとしての差が顕現化してきた。 ○ファンタジスタ資格の周知は事業を支える広範囲を広げるために重要であるとの認識から副専攻コース登録者を増加させる取組は適切に機能し始めている。 ◎教育プログラムの授業の質はファンタジスタ養成の要となるが、授業評価は満足できる水準であり、PBL科目のルーブリック活用など、さらなる授業改善が確認できる。 ○ファンタジスタクラブの設立は、学生の地域活動への能動的な参加、学生間のつながり強化だけでなく、ロールモデルとなることが期待できる。 ●今後は、異学年や異大学の学生間での多様な学びを意図的に組織化する教育プログラムに期待したい。
地域連携・情報発信	総合 Ⅳ	委員長 Ⅳ
地域との連携に関すること	Ⅳ	Ⅳ
事業の情報発信に関すること	Ⅲ	Ⅲ
	◎学長が精力的に県内企業を訪問しオール三重による事業推進という強いメッセージを伝えたり、三重県の関係者や地域の経営者から、三重大学の学長を中心とした推進体制を評価する声も聞かれる。 ◎コーディネーターの活用は多岐にわたる。県内市の町村、企業、団体等と大学の連携し等、組織的に機能し始めており、企業情報データベースへの掲載企業数の増加、学生の就職活動等の相談活動等も第一歩が現れ、地域との連携の幅が広がりつつある。 ●事業協働機関との連携も進んでいるほか、コンソーシアム内の連携も実質的に、顔の見える関係が築かれた。 ◎ファンタジスタの能力を具体的に周知する企業向け資格取得動画の制作、広報紙「三重ファンタジスタNews」等により企業等への情報発信も充実してきている。本評価委員会においても、企業経営者の方々から「当社の就職希望者が増えたのは活動の効果が表れたからではないか」という発言があったことも強く、県内就職率アップに役立ちつつある一方が認められる。 ◎サテライト、地域活動、就職支援等は順調に展開され、対象者は児童・生徒へ拡張されるとともに、保護者説明会が展開するなど意欲的な展開である。 ◎Jobキャラバン、産業展、エースセミナー、インターンシップ等の事業が意欲的に展開されており、教育プログラムとの有機的な関連の高度化が期待できる。 ◎情報発信の内容について、当事者である受講者、活動者の生の意見は、第三者が事業や教育プログラムの効果・成果を理解する上で参考になる情報である。育成した当事者の意見・感想などを積極的に収集し、発信されることを期待する。 ●情報発信は積極的に進めるが、より浸透的になっている部分にフォーカスしたり、ターゲット層に合わせた紙以上の情報媒体の選択、表現や内容の工夫を促進する等、さらに効果を高めるための工夫改善を期待する。 ●企業情報データベースは、平成29年度アクセス数が限定的である。掲載企業数を増加させるだけでなく、学生の活用利便性や計画的な活用場面の設定等も併せて周知し、活用を促進することを期待する。	学長の県内企業訪問は三重大学の極めて特色ある点であり、このアピール力を活かしながら組織の機能向上や新規事業への意欲的な展開も推進されている。 ◎学長の県内企業訪問は強いメッセージを関係者に浸透させており、各種の事業活動等を円滑に進める基盤となっている。 ◎コーディネーターは組織的に機能し始めており、県内市の町村、企業、団体等と大学の連携を推進するとともに、学生を対象とすることで活動が多彩になっている。 ◎企業向けの資格啓発ビデオの制作は、ファンタジスタの能力を具体的に周知する手法として今後の採用等への影響が期待できる。 ◎サテライト、地域活動、就職支援等は順調に展開され、対象者は児童・生徒へ拡張されるとともに、保護者説明会が展開するなど意欲的な展開である。 ◎Jobキャラバン、産業展、エースセミナー、インターンシップ等の事業が意欲的に展開されており、教育プログラムとの有機的な関連の高度化に期待できる。 ◎情報サイト、ホームページ等による広報が充実してきている。 ●企業情報DBは掲載企業数を増加させているが、利用数が限定的である。 ●学生ブログ等は、Facebook、Instagram等のSNSを利用して学生ネットワークの醸成を検討しても良いのではないかと考える。
総合評価	総合 Ⅱ	委員長 Ⅱ
数値目標の達成状況	Ⅱ	Ⅱ
	◎インターンシップ参加者数、着付調定数、雇用創出数が目標を達成している。とくに着付調定数、雇用創出数は平成31年度目標を上回っており最終年度に向けても確実な達成が期待できる。雇用創出数については、正規雇用の浸透等、今後の動向を注視したい。 ◎数値目標は、その達成のための施策により取組の着実な実施及び質的な向上が重要である。その意味では開発の充実に回られ、前進していると認められる。 ●地域就職率は目標に届かず、前年度からは増増で、事業開始前からほぼ横ばい状態が続いている。景気や本社登録地等の要因が影響していると考えられ、このままでは「就職率10%アップ」という最終目標の達成には及ばない。中間地点は正常なものである。すでに人材育成についての基盤整備の進捗は立派な点である。今後は、それを少しずつフラッシュアップしつつ、育成人材が地域で活躍できる場を創出することに、COC+大学、参加校、事業協働機関一丸となって注力されることを期待する。	インターンシップ参加者数、着付調定数、雇用創出数が目標を達成している。地域就職率は未達成であるので、この下位目標を設定する必要があるのではないかと考える。 ●地域就職率は未達成であるが、景気や本社登録地等の影響が大きき長期目標なため手の打ちようがないとの劣悪感がある。この場合、構造的な分析による下位目標の設定を試みて短期的な指標を設定する等の対策も必要となると考えられる。 ◎インターンシップ参加者数、着付調定数、雇用創出数は目標を実績が上回っている。とくに着付調定数、雇用創出数は平成31年度目標を上回っており最終年度に向けても確実な達成が期待できる。
事業の継続性	総合 Ⅲ	委員長 Ⅲ
	◎後継組織である「高等教育コンソーシアムみえ」の自立化に向けた体制が検討され、事務機能や財政基盤の整備に向けた取組が着実に進められている。 ◎三重大学が事務局を担当することで、三重県からの委託事業をベースに、COC+事業と連動させ、高等教育機関間連携の連携強化やコストシェア等に役立っている。これにより自立性の確保も期待できると考えられる。 ◎コンソーシアムの法人形態や新たな収入確保等、検討課題は多いと考えられる。中長期的なコンソーシアムのビジョンが策定されることを期待する。	コンソーシアムの自立化に向けた取り組みが推進されている。具体的なコンソーシアムとしての運営、経費、事業内容等の設計が重要となり、事業を創出して推進する等の部もみられている。 ○組織運営のノウハウも具体的になりつつある。 ○県の財政支援、委託授業等により当該の運営を継続することは可能と考えられる。 ●中長期的なコンソーシアムのビジョン策定が期待される。
その他のコメント	総合	委員長
	○県内就職率の向上について、長期的に見れば、入口戦略(高等学校への啓発)も重要と考えるが、入口戦略に偏することなく、現在の出口戦略における具体的な取組の推進も併せて進めたい。 ○実用には県内で働いていても、本社が県外となる企業等への就職は、県内就職としてカウントされないとのことであった。三重県は、北勢地域における工業地帯であるが、工業系への就職率が弱く見えてしまう原因の一つとなっている。実態と数字に乖離があるのではあれば、向うへの調整が必要と考える。がんばっても達成できない目標値は、関係者の意欲を削ぐ原因ともなる。文部科学省には、一考いただきたい。 ○新入生を対象とするJobキャラバンやインターンシップなどは、県内企業を知ってもらう機会として有効であると思うものの、キャリア教育の側面が強いように感じる。就職活動(実用)に活用でき、学生が主体的に利用できる・利用したいと思える情報媒体などの整備も考慮いただきたい。	◎入職率の向上について、長期的に見れば、入口戦略(高等学校への啓発)も重要と考えるが、入口戦略に偏することなく、現在の出口戦略における具体的な取組の推進も併せて進めたい。 ◎実用には県内で働いていても、本社が県外となる企業等への就職は、県内就職としてカウントされないとのことであった。三重県は、北勢地域における工業地帯であるが、工業系への就職率が弱く見えてしまう原因の一つとなっている。実態と数字に乖離があるのではあれば、向うへの調整が必要と考える。がんばっても達成できない目標値は、関係者の意欲を削ぐ原因ともなる。文部科学省には、一考いただきたい。 ○新入生を対象とするJobキャラバンやインターンシップなどは、県内企業を知ってもらう機会として有効であると思うものの、キャリア教育の側面が強いように感じる。就職活動(実用)に活用でき、学生が主体的に利用できる・利用したいと思える情報媒体などの整備も考慮いただきたい。

委員	委員 Ⅲ	委員 Ⅲ	
	事業全体は、目的の方向に向い「着実かつ具体的に進んでいる」といえる。 ●人材育成のための基盤整備は、目指し立ったことと思う。今後、PDCAを回しながら、ブラッシュアップしていただければと思う。 ◎数値達成率は、事業開始年度から「事業協働地域就職率」の横ばい状態を続けていることである。このままでは「就職率10%アップ」という目標は達成できないものと思う。今後、育成人材が地域で活躍できる場を創出することに、COC+大学、参加校、事業協働機関一丸となって注力いただきたい。 資格取得を目指すという学生が増えているのも、施策進展の現れとみる。(数値目標としてとらえたらどうか?) オール三重体制も、行政の施策と整合性がとれており、相乗的な効果が期待される。 また三重大学は、学長を先頭でチームワークで動いている。他の高等教育機関でも、同レベルの資格取得への動きがあり、また質の保証や共通項のチェックなどすすんでいる。これらを見れば、大きな流れができ、動いてきた感じを持つ。この流れを加速していくことが重要となる。	◎全般的に、意欲的、着実に、計画を実施しており、PDCAも回っており、PDCAも回っており、PDCAを回しながら、ブラッシュアップしていただければと思う。 ◎人材育成のための基盤整備は、目指し立ったことと思う。今後、PDCAを回しながら、ブラッシュアップしていただければと思う。 ◎数値達成率は、事業開始年度から「事業協働地域就職率」の横ばい状態を続けていることである。このままでは「就職率10%アップ」という目標は達成できないものと思う。今後、育成人材が地域で活躍できる場を創出することに、COC+大学、参加校、事業協働機関一丸となって注力いただきたい。 資格取得を目指すという学生が増えているのも、施策進展の現れとみる。(数値目標としてとらえたらどうか?) オール三重体制も、行政の施策と整合性がとれており、相乗的な効果が期待される。 また三重大学は、学長を先頭でチームワークで動いている。他の高等教育機関でも、同レベルの資格取得への動きがあり、また質の保証や共通項のチェックなどすすんでいる。これらを見れば、大きな流れができ、動いてきた感じを持つ。この流れを加速していくことが重要となる。	実現可能性の極めて高い案件の中で、コンソーシアム全体で、どのように県内就職率を上げていくかについて事業を推進していることと評価。 県内就職率アップのためには、大学による学生への啓発だけでなく、県内企業が、自社が学生から見て、魅力があるように見える機会が必要。それは、高等教育機関の仕事ではなく、企業がコンソール会社に委託すると思われる。かつては自治体が「魅力アップ事業」などで補助事業や委託事業を行っていたが、現状では予算が厳し中、打ち切られているケースが多い。自治体も、卒業生の県内就職が非常に大切であれば、覚悟をもって予算化するようにして頂きたい。
委員	委員 Ⅲ	委員 Ⅲ	
	事昨年の実績に比べ、全体的に上回って推移している。 ◎数値目標達成に向けた課題として、「数年後を見据えた「長期戦略」と就職活動を行う学生に向けた「短期戦略」が必要」と整理し、高等教育機関毎の特長や傾向を分析した上で、県内就職率の向上に向けた「長期戦略」=「入口戦略」を位置づけ、具体的な取組を明確にしたことは優れている。 ●「短期戦略」については、「長期戦略=入口戦略」以外のものが当てはまるものと思うが、「各高等教育機関における戦略」、「コーディネーターによる戦略」、「地域による戦略」、「インターンシップ拡大による戦略」等、特に見直しや改善の形跡が見受けられない。「現状維持」と受け止めていただいた。具体的な取組も取組めたいと思える業務もあるが、少しでも実績が向上できるよう今後の効果に期待する。	◎平成28年度事業評価を受けて、早速、平成29年度から「達成状況の要因分析及改善」に取り組まれたことには、まずは敬意を表したい。 ◎数値目標達成に向けた課題として、「数年後を見据えた「長期戦略」と就職活動を行う学生に向けた「短期戦略」が必要」と整理し、高等教育機関毎の特長や傾向を分析した上で、県内就職率の向上に向けた「長期戦略」=「入口戦略」を位置づけ、具体的な取組を明確にしたことは優れている。 ●「短期戦略」については、「長期戦略=入口戦略」以外のものが当てはまるものと思うが、「各高等教育機関における戦略」、「コーディネーターによる戦略」、「地域による戦略」、「インターンシップ拡大による戦略」等、特に見直しや改善の形跡が見受けられない。「現状維持」と受け止めていただいた。具体的な取組も取組めたいと思える業務もあるが、少しでも実績が向上できるよう今後の効果に期待する。 ◎平成28年度未達成であった目標の一つ「事業協働機関からの着付調定数」については、平成29年度中に定数を検討、確認し、再組みを整理。その結果、平成29年度中には目標達成に至っている。全体として状況が改善され、事業終了年度における目標達成の目途がついたものと考えられる。 ●地域志向があっても、未知、未知、前面に出る学生が多いたると思うので、傾向やニーズを分析し、県内企業に関する情報提供の仕方、マッチングなどに活かしていただきたい。	取組自体は、事業協働機関の追加、インターンシップ数増など意欲的に進められており、前回の外部評価委員会の指摘事項を活かした活動をしており、学生の県内定着も数少ない工場増設の機会を捉えており、高く評価できる。 今後の県内企業の工場増設の機会も把握しており、収集した企業データベースを整理してより評価できる。しかし、高等教育機関だけで進めることは現状があり、行政と更なる企業誘致等、県内就職の場を新たに創出することを期待したい。
委員	委員 Ⅲ	委員 Ⅲ	
	内部評価、外部評価を含めたトータルのPDCAサイクルがなされている。 ◎実施事業の変化や展開のスピードに応じて組織の改編を柔軟に行い、恒常的な事務機能や教育体制、推進体制などが強化されている。 ●平成29年度、三重大学において、2名の副学長(教育+COC+担当、学生総合支援+インターンシップ担当)副学長が新たに配置され、地域創生副学長と共に、3名が役割を分担し、学内でのCOC+推進体制が整備、強化されている。 ●専任教員や特任教員が中心となり、三重創生ファンタジスタ養成講座を科目(学位2、P型2授業3)を実施し、専任教員オリジナル科目を構築するなど、教育プログラムの強化が行われた。 ◎COC+事業の実施について、COC+大学、COC+参加校、三重県、企業等との間で、人的、物的、財政的に、コストシェアが行われ、様々な場面で協力が進んでいる。 ◎内部評価委員会を配置し、PDCAサイクルを推進した運営が期待できる。 ◎事業の推進を行うCOC+事業推進委員会や教育プログラム開発委員会3つの分科会(高等教育機関マネジメント、教育プログラム・ファンタジスタ資格検、情報システム)、分科会直下の2つの分科会(教育、学習)、地域活動部会を設置し、運営を推進し、それぞれ明確な役割・役割分担が明確になり、一丸となって事業を推進していることがわかる。 ●地域でのCOC+の取組について、他地域の状況、工夫を学ぶ上で有益だったと考える。中間調査以来、「地域就職率」の優れた大学という視点での選択もあれば、ベネチアマークとして、数値目標達成という課題に向け、補助責任を果たすための情報収集ができたと思う。	◎実施事業の変化や展開のスピードに応じて組織の改編を柔軟に行い、恒常的な事務機能や教育体制、推進体制などが強化されている。 ●平成29年度、三重大学において、2名の副学長(教育+COC+担当、学生総合支援+インターンシップ担当)副学長が新たに配置され、地域創生副学長と共に、3名が役割を分担し、学内でのCOC+推進体制が整備、強化されている。 ●専任教員や特任教員が中心となり、三重創生ファンタジスタ養成講座を科目(学位2、P型2授業3)を実施し、専任教員オリジナル科目を構築するなど、教育プログラムの強化が行われた。 ◎COC+事業の実施について、COC+大学、COC+参加校、三重県、企業等との間で、人的、物的、財政的に、コストシェアが行われ、様々な場面で協力が進んでいる。 ◎内部評価委員会を配置し、PDCAサイクルを推進した運営が期待できる。 ◎事業の推進を行うCOC+事業推進委員会や教育プログラム開発委員会3つの分科会(高等教育機関マネジメント、教育プログラム・ファンタジスタ資格検、情報システム)、分科会直下の2つの分科会(教育、学習)、地域活動部会を設置し、運営を推進し、それぞれ明確な役割・役割分担が明確になり、一丸となって事業を推進していることがわかる。 ●地域でのCOC+の取組について、他地域の状況、工夫を学ぶ上で有益だったと考える。中間調査以来、「地域就職率」の優れた大学という視点での選択もあれば、ベネチアマークとして、数値目標達成という課題に向け、補助責任を果たすための情報収集ができたと思う。	企業情報データベースの整理はかなり進んだことが確認できた。データベースの整理と共に、それを活用した県内定着(就職)活動にも効果があったと見られる。また、他地域の動向があったこと、コーディネーターの動きが格段に改善されたことなどは高く評価。
委員	委員 Ⅲ	委員 Ⅲ	
	地域との連携は、着実に進んでいると考えられる。 また、三重県との関係者や地域の経営者から、三重大学の学長を中心とした推進体制を評価する声も聞かれる。 ◎コーディネーターの活用は多岐にわたる。県内市の町村、企業、団体等と大学の連携し等、組織的に機能し始めており、企業情報データベースへの掲載企業数の増加、学生の就職活動等の相談活動等も第一歩が現れ、地域との連携の幅が広がりつつある。 ●事業協働機関との連携も進んでいるほか、コンソーシアム内の連携も実質的に、顔の見える関係が築かれた。 ◎ファンタジスタの能力を具体的に周知する企業向け資格取得動画の制作、広報紙「三重ファンタジスタNews」等により企業等への情報発信も充実してきている。本評価委員会においても、企業経営者の方々から「当社の就職希望者が増えたのは活動の効果が表れたからではないか」という発言があったことも強く、県内就職率アップに役立ちつつある一方が認められる。 ◎サテライト、地域活動、就職支援等は順調に展開され、対象者は児童・生徒へ拡張されるとともに、保護者説明会が展開するなど意欲的な展開である。 ◎Jobキャラバン、産業展、エースセミナー、インターンシップ等の事業が意欲的に展開されており、教育プログラムとの有機的な関連の高度化が期待できる。 ◎情報発信の内容について、当事者である受講者、活動者の生の意見は、第三者が事業や教育プログラムの効果・成果を理解する上で参考になる情報である。育成した当事者の意見・感想などを積極的に収集し、発信されることを期待する。 ●情報発信は積極的に進めるが、より浸透的になっている部分にフォーカスしたり、ターゲット層に合わせた紙以上の情報媒体の選択、表現や内容の工夫を促進する等、さらに効果を高めるための工夫改善を期待する。 ●企業情報データベースは、平成29年度アクセス数が限定的である。掲載企業数を増加させるだけでなく、学生の活用利便性や計画的な活用場面の設定等も併せて周知し、活用を促進することを期待する。	◎COC+大学において、「三重の地産産業」など、新設科目の検討、構築が進み、また、COC+参加校においても「三重創生ファンタジスタ」教育プログラムが検討され、平成30年度から3校において実施される予定であることなど、教育プログラムの開発、拡充が顕著である。 ●「教育プログラム開発委員会」WGなどにおいて、シラチ(チェック)や「三重創生ファンタジスタ」上級資格の検討、「ルーブリック」の策定等が行われ、意欲的に、事業内容の充実や質の向上に取り組んでいる様子が見えつつある。 ●各高等教育機関で活用できる地域教材(トランス、ラーニング)の開発・開発共有している。 ◎COC+大学において、「三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コース」の履修状況が新入生ガイダンスに組み込まれ、学生への周知が大学として標準化されつつある。 ◎COC+参加校がベネチア資格として教育プログラムを実施し、平成30年度からは3校が「三重創生ファンタジスタ」の教育プログラムを開始する等が決定しており、着実に、実施の広がりを見せている。 ◎また、COC+大学・参加校が共同で科目を開発、3つのPBL科目を実施し、その教育プログラムの評価に「ルーブリック」を活用すると、まさに「ファンタジスタ」のように、COC+大学、COC+参加校、事業協働機関、それら組織に所属する大学教員、職員、企業人等がそれぞれの特色や専門性を活かしながら、連携、実施した教育プログラムが複数を進展している。健全な実施体制が構築されつつあり、ファンタジスタ育成の視点からの授業改善が継続していくことで、これからの教育プログラムの開発、展開が進展して、実施体制も増加している。 ◎学生サークル「三重創生ファンタジスタクラブ」が組織化され、学生が地域活動に積極的に参加し、学生間のつながりが強化されるとともに、ロールモデルとなる等、大いに今後を期待する。 ◎学生が行っている地域での研究活動や地域における社会貢献活動を集約、整理し、教育プログラム実施の成果として地域に広く発信していきたい。	地域との連携については、事業協働機関との連携も進んでいるほか、コンソーシアム内の連携も進んだと評価できる。情報発信は、県内就職率アップの命脈が握られている点ではあるが、浸透してきているのが認められる。
委員	委員 Ⅲ	委員 Ⅲ	
	地域との連携は、着実に進んでいると考えられる。 また、三重県との関係者や地域の経営者から、三重大学の学長を中心とした推進体制を評価する声も聞かれる。 ◎コーディネーターの活用は多岐にわたる。県内市の町村、企業、団体等と大学の連携し等、組織的に機能し始めており、企業情報データベースへの掲載企業数の増加、学生の就職活動等の相談活動等も第一歩が現れ、地域との連携の幅が広がりつつある。 ●事業協働機関との連携も進んでいるほか、コンソーシアム内の連携も実質的に、顔の見える関係が築かれた。 ◎ファンタジスタの能力を具体的に周知する企業向け資格取得動画の制作、広報紙「三重ファンタジスタNews」等により企業等への情報発信も充実してきている。本評価委員会においても、企業経営者の方々から「当社の就職希望者が増えたのは活動の効果が表れたからではないか」という発言があったことも強く、県内就職率アップに役立ちつつある一方が認められる。 ◎サテライト、地域活動、就職支援等は順調に展開され、対象者は児童・生徒へ拡張されるとともに、保護者説明会が展開するなど意欲的な展開である。 ◎Jobキャラバン、産業展、エースセミナー、インターンシップ等の事業が意欲的に展開されており、教育プログラムとの有機的な関連の高度化が期待できる。 ◎情報発信の内容について、当事者である受講者、活動者の生の意見は、第三者が事業や教育プログラムの効果・成果を理解する上で参考になる情報である。育成した当事者の意見・感想などを積極的に収集し、発信されることを期待する。 ●情報発信は積極的に進めるが、より浸透的になっている部分にフォーカスしたり、ターゲット層に合わせた紙以上の情報媒体の選択、表現や内容の工夫を促進する等、さらに効果を高めるための工夫改善を期待する。 ●企業情報データベースは、平成29年度アクセス数が限定的である。掲載企業数を増加させるだけでなく、学生の活用利便性や計画的な活用場面の設定等も併せて周知し、活用を促進することを期待する。	◎三重大学長が、精力的に県内企業を訪問し、COC+事業の広報を行っていることで、「オール三重」でのCOC+事業実施という気運を醸成している。 ●学長の企業訪問は、平成27年度からの累計で05を数える。 ●機会を捉えて、COC+参加校の訪問も進んでいる。 ◎コーディネーターの活動は多岐にわたって見受けられているが、企業情報データベースの掲載企業数が50件増えたり、学生の就職活動の相談に乗ったりするなど、地域との連携の幅が広がっている。 ◎COC+大学と参加校の教職員間で、顔の見える関係性が築かれた。 ◎COC+大学では、全学事業として位置づけ、既存の資源を有効活用し、広報の対象者や領域を広げ、地域への浸透を図ると工夫が見られる。 ●地域型サテライトを活用した地域へのCOC+事業の広報(中高生への事前授業、高大連携事業、保護者向け「就職説明会」等) ●三重大学就職支援部会が、連携して開催した「県内企業研究会」 ●県内企業研究会は、県内中堅企業・中小企業と学生が、相互に理解を深める機会として有効であったことがうかがえる。このような取組がCOC参加校においても増えていることを期待したい。 ◎情報発信媒体が、報告書やホームページに加え、企業、三重大学生、高校生を対象とした3種類のチラシ、広報紙「三重創生ファンタジスタNews」など、充実してきている。今回作成したチラシや広報紙は、カラー刷りで写真を使い、詳細QRコードでHPへ誘導するなど、工夫が見られる。 ●企業情報データベースは、平成29年度のアクセス数が200と極めて少ない。平成30年4月以降はアクセス数が増えているとのことであるが、県内企業について調べていただくために作成したDBであると思ってお、掲載企業を増やすだけでなく、学生の活用利便性や活用への周知も心がけ、活用を促進していただきたい。 ●当事者である受講者、活動者の生の意見は、第三者が事業や教育プログラムの効果・成果を理解する上で、参考になる情報である。育成した当事者の意見・感想などを積極的に収集し、発信していただきたい。 ●紙ベースの情報発信は、配布数も重要であるが、ターゲット層の目撃し、共感できる要素がないと、手に取ってじっくり見てもらえないとも考えられるため、ターゲット層に合わせた情報媒体の選択、見やすさやわかりやすさへの配慮など、今後も発信の工夫を期待する。	地域との連携については、事業協働機関との連携も進んでいるほか、コンソーシアム内の連携も進んだと評価できる。情報発信は、県内就職率アップの命脈が握られている点ではあるが、浸透してきているのが認められる。
委員	委員 Ⅲ	委員 Ⅲ	
	数値目標は、達成を目指すことも大事だが、それ以上に重要なのがきちと達成したこと、それが質的に高まっていくことが重要。その意味では前進がみられる。 また、JOBキャラバン、インターンシップの増加など具体的な進展もみられる。 就職率もついてもは各県の異いごとの様相があり、厳しい事情もあるが、上記の人材育成と一体的な推進により、引き続き前年実績を上回るよう努力を積み重ねてほしい。	◎平成29年度目標に対して実績は、「事業協働機関へのインターンシップ参加者数」が「126%」、「事業協働機関雇用創出数」が「233%」と高い達成率を示している。しかし、「事業協働機関雇用創出数」における大幅な増加は、プロジェクト期間での雇用であり、育成人材の県の規程雇用が浸透してきたということだけではなく、今後の動向に注目したい。 ◎平成29年度は、着付調定の定義を整えたことで、購入される講座が増え、「事業協働機関からの着付調定数」は、目標の2倍の「8講座」と大きく実績を伸ばすことになった。 ●平成29年度も「事業協働地域就職率」は目標には届かなかった。前年度からの増加は、COC+全体では「0.1%」、COC+大学に限ると「0.6%」とどちらも増増に過ぎない。また、事業開始時の平成26年度と比較して、ほぼ横ばい状態が続いている。人材育成がすぐに結果が出るものではないが、このままでは「就職率10%アップ」という最終目標の達成には及ばない。中間地点は正常なものである。すでに人材育成についての基盤整備の進捗は立派な点である。今後は、それを少しづつフラッシュアップしつつ、育成人材が地域で活躍できる場を創出することに、COC+大学、参加校、事業協働機関一丸となって注力いただきたい。	◎平成29年度も「事業協働地域就職率」は目標には届かなかった。前年度からの増加は、COC+全体では「0.1%」、COC+大学に限ると「0.6%」とどちらも増増に過ぎない。また、事業開始時の平成26年度と比較して、ほぼ横ばい状態が続いている。人材育成がすぐに結果が出るものではないが、このままでは「就職率10%アップ」という最終目標の達成には及ばない。中間地点は正常なものである。すでに人材育成についての基盤整備の進捗は立派な点である。今後は、それを少しづつフラッシュアップしつつ、育成人材が地域で活躍できる場を創出することに、COC+大学、参加校、事業協働機関一丸となって注力いただきたい。
委員	委員 Ⅲ	委員 Ⅲ	
	数値目標は、達成を目指すことも大事だが、それ以上に重要なのがきちと達成したこと、それが質的に高まっていくことが重要。その意味では前進がみられる。 また、JOBキャラバン、インターンシップの増加など具体的な進展もみられる。 就職率もついてもは各県の異いごとの様相があり、厳しい事情もあるが、上記の人材育成と一体的な推進により、引き続き前年実績を上回るよう努力を積み重ねてほしい。	◎平成29年度目標に対して実績は、「事業協働機関へのインターンシップ参加者数」が「126%」、「事業協働機関雇用創出数」が「233%」と高い達成率を示している。しかし、「事業協働機関雇用創出数」における大幅な増加は、プロジェクト期間での雇用であり、育成人材の県の規程雇用が浸透してきたということだけではなく、今後の動向に注目したい。 ◎平成29年度は、着付調定の定義を整えたことで、購入される講座が増え、「事業協働機関からの着付調定数」は、目標の2倍の「8講座」と大きく実績を伸ばすことになった。 ●平成29年度も「事業協働地域就職率」は目標には届かなかった。前年度からの増加は、COC+全体では「0.1%」、COC+大学に限ると「0.6%」とどちらも増増に過ぎない。また、事業開始時の平成26年度と比較して、ほぼ横ばい状態が続いている。人材育成がすぐに結果が出るものではないが、このままでは「就職率10%アップ」という最終目標の達成には及ばない。中間地点は正常なものである。すでに人材育成についての基盤整備の進捗は立派な点である。今後は、それを少しづつフラッシュアップしつつ、育成人材が地域で活躍できる場を創出することに、COC+大学、参加校、事業協働機関一丸となって注力いただきたい。	◎平成29年度も「事業協働地域就職率」は目標には届かなかった。前年度からの増加は、COC+全体では「0.1%」、COC+大学に限ると「0.6%」とどちらも増増に過ぎない。また、事業開始時の平成26年度と比較して、ほぼ横ばい状態が続いている。人材育成がすぐに結果が出るものではないが、このままでは「就職率10%アップ」という最終目標の達成には及ばない。中間地点は正常なものである。すでに人材育成についての基盤整備の進捗は立派な点である。今後は、それを少しづつフラッシュアップしつつ、育成人材が地域で活躍できる場を創出することに、COC+大学、参加校、事業協働機関一丸となって注力いただきたい。
委員	委員 Ⅲ	委員 Ⅲ	
	数値目標は、達成を目指すことも大事だが、それ以上に重要なのがきちと達成したこと、それが質的に高まっていくことが重要。その意味では前進がみられる。 また、JOBキャラバン、インターンシップの増加など具体的な進展もみられる。 就職率もついてもは各県の異いごとの様相があり、厳しい事情もあるが、上記の人材育成と一体的な推進により、引き続き前年実績を上回るよう努力を積み重ねてほしい。	◎平成29年度目標に対して実績は、「事業協働機関へのインターンシップ参加者数」が「126%」、「事業協働機関雇用創出数」が「233%」と高い達成率を示している。しかし、「事業協働機関雇用創出数」における大幅な増加は、プロジェクト期間での雇用であり、育成人材の県の規程雇用が浸透してきたということだけではなく、今後の動向に注目したい。 ◎平成29年度は、着付調定の定義を整えたことで、購入される講座が増え、「事業協働機関からの着付調定数」は、目標の2倍の「8講座」と大きく実績を伸ばすことになった。 ●平成29年度も「事業協働地域就職率」は目標には届かなかった。前年度からの増加は、COC+全体では「0.1%」、COC+大学に限ると「0.6%」とどちらも増増に過ぎない。また、事業開始時の平成26年度と比較して、ほぼ横ばい状態が続いている。人材育成がすぐに結果が出るものではないが、このままでは「就職率10%アップ」という最終目標の達成には及ばない。中間地点は正常なものである。すでに人材育成についての基盤整備の進捗は立派な点である。今後は、それを少しづつフラッシュアップしつつ、育成人材が地域で活躍できる場を創出することに、COC+大学、参加校、事業協働機関一丸となって注力いただきたい。	◎平成29年度も「事業協働地域就職率」は目標には届かなかった。前年度からの増加は、COC+全体では「0.1%」、COC+大学に限ると「0.6%」とどちらも増増に過ぎない。また、事業開始時の平成26年度と比較して、ほぼ横ばい状態が続いている。人材育成がすぐに結果が出るものではないが、このままでは「就職率10%アップ」という最終目標の達成には及ばない。中間地点は正常なものである。すでに人材育成についての基盤整備の進捗は立派な点である。今後は、それを少しづつフラッシュアップしつつ、育成人材が地域で活躍できる場を創出することに、COC+大学、参加校、事業協働機関一丸となって注力いただきたい。
委員	委員 Ⅲ	委員 Ⅲ	
	数値目標は、達成を目指すことも大事だが、それ以上に重要なのがきちと達成したこと、それが質的に高まっていくことが重要。その意味では前進がみられる。 また、JOBキャラバン、インターンシップの増加など具体的な進展もみられる。 就職率もついてもは各県の異いごとの様相があり、厳しい事情もあるが、上記の人材育成と一体的な推進により、引き続き前年実績を上回るよう努力を積み重ねてほしい。	◎平成29年度目標に対して実績は、「事業協働機関へのインターンシップ参加者数」が「126%」、「事業協働機関雇用創出数」が「233%」と高い達成率を示している。しかし、「事業協働機関雇用創出数」における大幅な増加は、プロジェクト期間での雇用であり、育成人材の県の規程雇用が浸透してきたということだけではなく、今後の動向に注目したい。 ◎平成29年度は、着付調定の定義を整えたことで、購入される講座が増え、「事業協働機関からの着付調定数」は、目標の2倍の「8講座」と大きく実績を伸ばすことになった。 ●平成29年度も「事業協働地域就職率」は目標には届かなかった。前年度からの増加は、COC+全体では「0.1%」、COC+大学に限ると「0.6%」とどちらも増増に過ぎない。また、事業開始時の平成26年度と比較して、ほぼ横ばい状態が続いている。人材育成がすぐに結果が出るものではないが、このままでは「就職率10%アップ」という最終目標の達成には及ばない。中間地点は正常なものである。すでに人材育成についての基盤整備の進捗は立派な点である。今後は、それを少しづつフラッシュアップしつつ、育成人材が地域で活躍できる場を創出することに、COC+大学、参加校、事業協働機関一丸となって注力いただきたい。	◎平成29年度も「事業協働地域就職率」は目標には届かなかった。前年度からの増加は、COC+全体では「0.1%」、COC+大学に限ると「0.6%」とどちらも増増に過ぎない。また、事業開始時の平成26年度と比較して、ほぼ横ばい状態が続いている。人材育成がすぐに結果が出るものではないが、このままでは「就職率10%アップ」という最終目標の達成には及ばない。中間地点は正常なものである。すでに人材育成についての基盤整備の進捗は立派な点である。今後は、それを少しづつフラッシュアップしつつ、育成人材が地域で活躍できる場を創出することに、COC+大学、参加校、事業協働機関一丸となって注力いただきたい。

## 地域活性化推進コーディネーターの活動実績

平成30年度の活動については、平成29年度からの継続業務として、三重創生ファンファンタジスタオリジナル科目への外部講師の派遣依頼、自ら講師となり授業への参画、三重創生ファンタジスタ養成に関する広報活動、事業協働機関との意見交換、Jobキャラバンのサポートなどを実施した。

### 1. 新規に外部講師派遣依頼

- 三重の歴史と文化：第12回「金融・証券の歴史と発展」
- 三重の地場産業：講師と工場見学依頼

### 2. 講師としての授業参画

- 三重の歴史と文化：第2回「三重の歴史的変遷と地理の特色」
- 三重の産業：第4回「三重県の自動車産業の構造変化と生産体制のグローバル化」
- 三重の産業：第11回「航空機産業の取組と展望：みえ航空宇宙産業振興ビジョンより」
- 次世代産業実践：PBL型集中講義のコーディネーター

### 3. 三重創生ファンタジスタ養成に関する広報活動

県内企業や市町を訪問し、平成30年度に制作した三重創生ファンタジスタ資格紹介パンフレットや、啓発チラシを県内企業に配付して、これまでの活動の成果を周知した。県内の優良企業に対しては、企業情報データベースへの掲載依頼をおこなうなど、企業情報データ件数の増加に寄与した。

### 4. COC+事業協働機関への訪問

事業協働機関11社を訪問し、COC+の取組み報告や、事業に関する意見交換を実施した。意見交換の中で『採用応募者に「ファンタジスタ資格あり」と書類に記載してきた三重短大生がいた。ファンタジスタ資格者が当社に応募してくれるのは、ありがたい。』といった言葉を企業から受け、前述の資格啓発周知が進んでいることが確認できた。

### 5. Jobキャラバン実施のサポート(企業の選定、依頼)

- 四日市大学(四日市市、スーパーサンシ(株)、三岐鉄道(株)、長島観光開発(株)、(株)誠文社)
- 三重大学(三重県、(株)百五銀行、三重交通(株)、(株)マスヤグループ本社、中外医薬生産(株)、日本土建(株))
- 皇學館大学(万協製薬(株)、(株)松阪電子計算センター、三重テレビ放送(株)、(株)伊勢萬、(株)百五銀行、鳥羽シーサイドホテル(株)、大王運輸(株)、(有)えびや)
- 鳥羽商船高等専門学校(シンフォニアテクノロジー(株)、住友電装(株)、キクカワエンタープライズ(株)、廣瀬精工(株))
- 鈴鹿大学((株)アクアイグニス、(株)サン浦島、(株)トピア、(株)アスト)

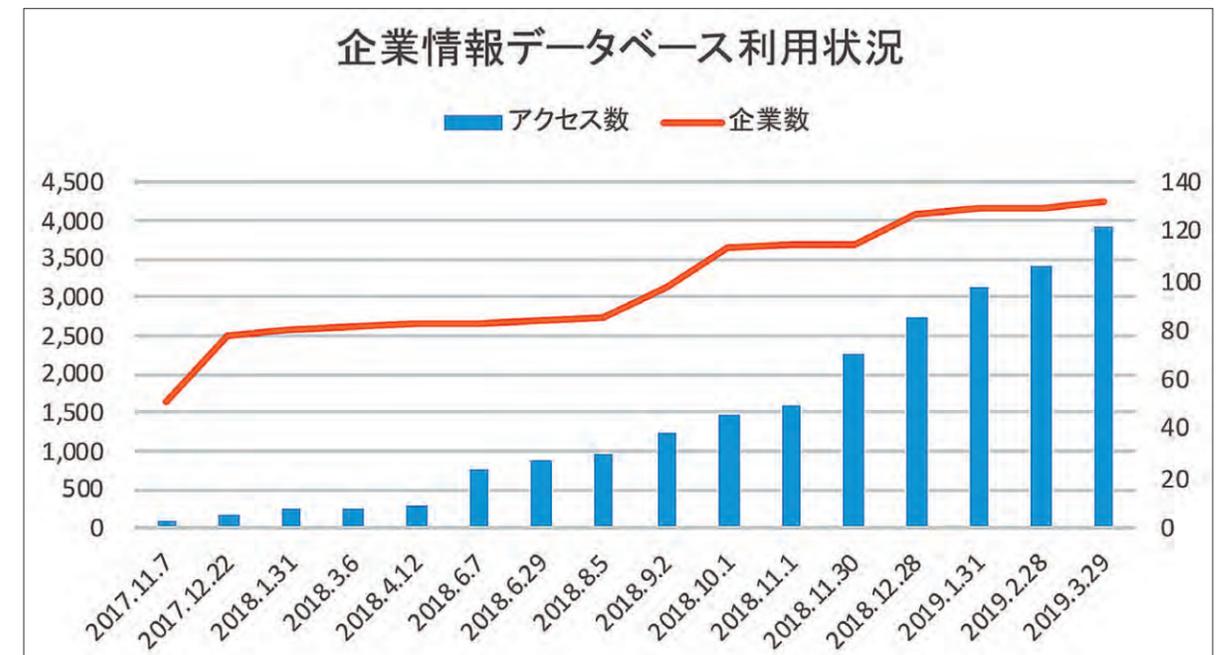
## 企業情報データベースの運用

三重県内企業の情報を紹介する企業情報データベースにて、県内高等教育機関の学生に向けて、情報発信を続けている。地域活性化推進コーディネーターを中心に教職員が一体となり、県内高等教育機関の学生が主に就職している県内企業だけでなく、県内の自治体について情報収集・掲載の依頼を行った。その結果、登録数は昨年度81件から今年度132件へと51件情報を充実させることができた。更なる拡充に向け引き続き企業・自治体等からの情報収集を進めていく。

また、学生への発信については、情報更新の都度メールによる一斉配信をして知らせたり、イベントにおけるチラシ配付などで利用促進を図った。データベースへのアクセス件数も順調に増加している。(下図参照)



▲三重大学地域創発センターHP「企業情報データベース」



▲企業情報データベース 平成30年度利用状況の推移

## 平成30年度 教育

この章では、平成30年度のCOC+の取り組みの中で、教育プログラムの実施状況について報告する。三重創生ファンタジスタ資格は、県内高等教育機関で更に広がりを見せ、ベーシック、アドヴァンス、エキスパートの3つに分類された。コンソーシアムみえの単位互換科目として三重県内全高等教育機関に開放されている、特色ある教育プログラムの現状をご確認いただきたい。

26p … 三重創生ファンタジスタ資格

27p … 三重の歴史と文化

30p … 三重の産業

33p … PBL型集中講義（食と観光実践）

37p … PBL型集中講義（次世代産業実践）

40p … 地域発見型インターン

43p … PBL型集中講義（三重の地場産業）

46p … 自然環境リテラシー学

47p … 地域志向型ルーブリック

49p … 三重創生ファンタジスタ資格説明会



▲三重創生ファンタジスタ  
資格認定選専攻ガイド  
(各学部のオリエンテーションで配布)



▲PBL型集中講義（次世代産業実践）

## 三重創生ファンタジスタ資格

三重創生ファンタジスタ資格は、①ベーシック資格②アドヴァンス資格③エキスパート資格と、資格を3つに分類し、各高等教育機関で独自の教育プログラムを構築している。資格取得のための教育プログラムについては、第2分科会で対象科目のシラバスをチェックしながら各機関の特徴を活かしつつ、同等の内容になるよう協議されることで、資格の構築を通し高等教育機関の連携が強化された。本資格は、地域理解、課題解決力を高めるとともに県内企業等にファンタジスタ人材の養成を広く周知し、県内就職率アップに結びつけることを目的としている。

### ①ベーシック資格

#### ●人材像

三重県の歴史・文化・産業等の特徴を理解し、地域が抱える課題に対して深く関心を持ち、主体的な活躍を期待できる。

#### ●資格要件

三重県や地域を扱う授業6単位以上

#### ●資格養成機関

四日市大学、皇学館大学、鈴鹿大学、鈴鹿医療科学大学、四日市看護医療大学、三重県立看護大学、鈴鹿工業高等専門学校、鳥羽商船高等専門学校、三重短期大学、高田短期大学

#### ●資格発行数

88名(4高等教育機関)

### ②アドヴァンス資格

#### ●人材像

ベーシックで得られた地域への深い知識に加えて、地域が抱える固有の課題(食と観光分野、次世代産業分野、医療・健康・福祉分野)に対して、他者と協働して解決策を提案できる。

#### ●資格要件及び資格養成機関

(三重大学)

地域志向科目群4単位以上+地域実践交流科目群2単位以上+地域イノベーション学科目群2単位以上、計12単位以上

(四日市大学、皇学館大学、鈴鹿医療科学大学)

三重県や地域を扱う授業6単位以上+地域実践交流科目群(三重大学)に資する授業6単位以上、計12単位以上

#### ●資格発行数

502名 ※見込者数(1高等教育機関)

### ③エキスパート資格

#### ●人材像

高度な社会人基礎力を備え、地域課題の解決に主導的に取り組み、地域イノベーションを創出することができる。

#### ●資格要件

アドヴァンス資格取得若しくは取得見込み+地域活動等の主体的な学び+高等教育機関からの推薦+高等教育機関等における面接審査(平成31年度に詳細要件を確定。)



▲3つの資格イメージ

#### 資格証書を持った学生が就職活動を開始



▲資格証書及び資格取得見込証明書イメージ

## 三重の歴史と文化

三重創生ファンタジスタオリジナル科目のなかで地域志向科目群として位置づけられている日本理解特殊講義「三重の歴史と文化」(前期授業)は、三重県の歴史や文化を広く知ってもらうことを目的に平成29年度より開講している。

三重県は、2000年の歴史を有する伊勢神宮を中心として、豊かな文化を育み、いまなお、魅力的な地域資源を数多く残す。本授業は、三重県の歴史的事象、文化的特徴、先人の功績、地域資源を活用した観光展開等に注目し、各テーマに精通したゲストスピーカーを迎え、三重県の歴史・文化を学ぶ授業である。

本年度は、三重大学の1、2年生を中心に17名が受講した。学生たちはゲストスピーカーの話に熱心に耳を傾け、毎回提出するミニレポート(感想文)からは新しい知識や学びを得ていることがうかがえた。

### 授業概要

本授業は三重県の歴史・文化の特色を踏まえて、以下のような幅広いテーマで構成した。

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：三重の歴史の変遷と地理の特色
- 第3回：三重の先史時代：古代生物と古代人の足跡
- 第4回：古代・中世の文化遺産
- 第5回：三重の近世Ⅰ：藤堂高虎と津のまちづくり
- 第6回：三重の近世Ⅱ：伊勢商人と三井高利
- 第7回：三重の近代：世界初の真珠養殖成功
- 第8回：グループワーク
- 第9回：災害の歴史：戦災・災害・公害
- 第10回：豊かな地域資源と観光の展開
- 第11回：三重の食文化
- 第12回：金融・証券業の歴史と発展
- 第13回：伊勢志摩の魅力と新たな観光業のすがた
- 第14回：グループワーク
- 第15回：振り返り

### 学生の感想(一部抜粋)

#### 【第5回授業の感想】

藤堂高虎が築城したお城は、一方は戦いに備えたもの、一方は平和の世を見て城下の発展を見越したものだったということで、冷静かつ計画的な判断ができる人だったのだなと思いました。また、時勢を読み取り、8回も主君を買ったことや津藩32万石の礎を築いたことや、街道を活かして人々の往来・物流を盛んにするまちづくりを行ったことなどから偉大な人物だと思いました。



▲前業泰幸氏(津市長)

#### 【第9回授業の感想】

空襲の話は、祖母が四日市の空襲で疎開してきたときの話を思い出しました。三重県は自然災害や人為的災害の苦難を乗り越えてきた県であり、その経験を将来の災害での被害を最小限におさえるための手がかりとして活かせたらいいなと思いました。



▲吉村利男氏（三重大学社会連携特任教授）

【第11回授業の感想】

伊勢神宮で天照大神に食べてもらうための食事が調理だけでなく、食材、またそれをつくるときの方法までも伝統的な手法で千年以上も前から続いているのを聞いて、三重県の歴史の深さを感じました。雑煮だけでも地域差がいくつもあって「日本の真ん中に位置している」という特色が出ていて面白かったです。



▲大川吉崇氏（大川学園理事長）

【第13回授業の感想】

今回の話を聞かせてもらって、観光業を活性化させるためには、まずその地域の特徴や人々の特技を理解することが必要であり、第3次産業の観光業に第2次、第1次産業が互いに大きく影響しあっているんだなと感じました。また、地元に来てくれたお客さんを幸せにしよう、喜ばせてあげようという気持ちをもつことも大切になるのかなと思いました。それが達成されれば、その仕事がやりがいにつながり人生が楽しくなるのかなと思いました。

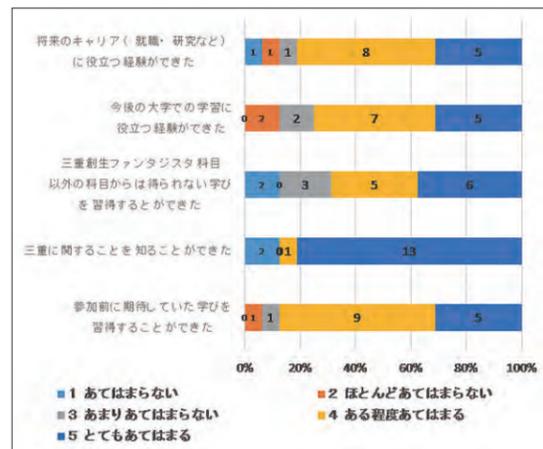


▲江崎喜久氏（海島遊民くらぶ）

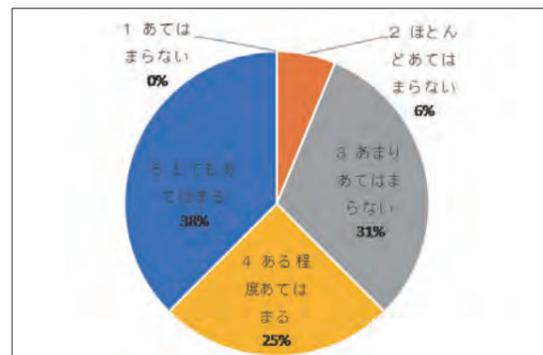
授業アンケート（一部抜粋）

授業終了後に実施したアンケートでは、本授業の総合満足度は、4.7 (MAX5.0) と非常に高評価であった。また、COC+でおこなったアンケートでは、以下のような結果が得られた。

Q. 本科目を振り返り、それぞれの項目から最もふさわしいものを選択してください。(n=16)



Q. 三重に対する捉え方や考え方は変わりましたか。(n=16)



Q. 上記質問で「4. ある程度あてはまる」、「5. とてもあてはまる」を選択した方はどのように変わったか25字以内で説明してください。

- ・三重をより誇れるようになった。
- ・今まであまり興味なかった地元を調べようと思った。
- ・三重県にも有力な企業や産業が存在していることが知れた。

Q. 「身についた」と感じた能力は、具体的にどのような場面で、どのような行動をした結果、身についたと思いますか。

- ・二回のグループワークを通じて、現状の三重県の課題に対して、自らの意見を積極的に発表していく力が伸びたと思います。与えられた情報の中で着目すべき情報と、それほど重要でない情報の取捨選択で、よりよい発表ができるようになったと思います。
- ・毎回の授業後に講義をとっている受講者全員が講義をしてくださった方々に提出するレポート。書く内容は、主に講義を聞いて考えたことについて述べる。それと、講義をしてくださった方に対して質問最低一つ書くことが課題。多くの字数を書くことと、なるべく質の高い文章を短時間で書くことを自分の中の課題としていた。それと、相手に自分の言いたいことが理解されないという事態にならないようにするため、相手に自分の言いたいことが伝わるような文章を書くことも課題としていた。

Q. 本科目を履修することによって得られる経験について、自由に記述してください。

- ・三重について知らなかったことを知ることができて、なおかつ自分が三重県民であることに誇りをもてるし、県外の人に三重の魅力を話せるようになる。
- ・三重県についての知られざる多く歴史が学べるのに加えて、これから生活していく中で生きてくるであろう人生観、こういう人生もあるんだということを学ぶことができ、良い機会だった。
- ・三重県について知らないことが多くあったにも関わらず三重県民以上に三重県に詳しくなることができた。
- ・自分の知りたいことがあると専門家の方が丁寧に説明してくれるため、とても勉強になる。
- ・三重県が積み上げてきた文化や知恵について学ぶことができる。得意とする分野が何であるのかということがよくわかる。
- ・様々な業界の方に講義を行っていただけなので、自分が視野に入れていなかったような業界に目を向けられること。

## 三重の産業

現代社会理解特殊講義「三重の産業」(後期授業)は、「三重の歴史と文化」(前期授業)と同じく地域志向科目であり、三重創生ファンタジスタオリジナル科目のひとつとして三重県の特徴ある産業を理解することを目的として開講している。

三重県は、ものづくりの世界センターである東海圏の一角を占める産業拠点として、輸送機器類を中心とした製造業が発展するとともに、農林水産業や、それを活かした食品製造業も盛んである。他方、三重県も全国の傾向と同様に、高齢化が進展し、医療や介護産業が伸長するなど、三重県の経済は多様な産業から構成され、各産業が相互に関係性をもちながら発展している。本授業は、科学技術の発展や国際化、健康志向、高齢化等の時代の趨勢を踏まえ、三重の経済を支える産業に着目し、その歴史的発展や現状、課題を客観的なデータを用いて学術と実務の両面から学ぶ授業である。

本年度は、三重大学の人文学部および工学部の学生24名が履修した。本授業でも、マイ授業ミニレポート(感想文)を提出させ、授業の理解度を確認した。

### 学修内容

授業は、「三重の歴史と文化」と同様に、毎回、三重県を代表する産業を取り上げ、それぞれのテーマに精通したゲストスピーカーを迎えて講義を行った。

- 第1回：ガイダンス
- 第2回：東海圏の経済・産業構造にみる三重県経済の位置づけ
- 第3回：三重の産業構造からみた製造業の特色：企業立地と企業投資促進制度
- 第4回：三重県の自動車産業の構造変化と生産体制のグローバル化
- 第5回：身近な財政と社会保障：地方財政の観点から
- 第6回：オンリーワン企業：ナノテクノロジーの正体～社会実装例を中心に～
- 第7回：医学と工学の融合から生まれた三重大学発ベンチャー
- 第8回：三重の農林水産業の特色：六次産業化の観点から
- 第9回：三重で活躍する食品製造業：大企業が地域経済に果たす役割
- 第10回：高齢化・過疎化時代を見守る情報サービス
- 第11回：航空機産業の取組みと展望：みえ航空宇宙産業振興ビジョンより

- 第12回：地域の発展を支える地域金融機関の役割：過去、現在、未来
- 第13回：農業の技術革新：生産性向上に向けた取組み
- 第14回：地域資源を活用した医薬品や機能的食品の開発：三重県の取組みから
- 第15回：総括

### 学生の感想(一部抜粋)

#### 【第7回授業】

今後の日本のまち・ひと・しごと創生長期ビジョンで、もちろん出生率を上げることで社会のシステムを維持することを大切であるけれども、少子高齢化社会で人口が減少したけど機能を果たす社会のシステムを構築していくことも大切だと思いました。

医用工学研究所という会社は津市にあるにもかかわらず知りませんでした。今後重要となってくる仕事だと思いました。病院内で発生する医療データを集めて整備することは、今後高齢者がどんどん増加していく中で医療サービスを受ける人の数が増えていくと思うのでとても必要なことだと思いました。



▲北岡義国氏(株医用工学研究所 代表取締役社長)



▲浅井雄一郎氏(株浅井農園代表取締役)

#### 【第9回授業】

「守成は創業より難し」という守りつつ成長していくというのは、時代の変化に対応する力が重要で創業するよりも難しいという言葉は心に響いた。-中略-独創性は長く続ければ普遍になるということを知り、最初は批判などがあっても長い間続ければそれは認められていくんだと感じた。



▲浅田剛夫氏(井村屋グループ(株) 代表取締役会長)

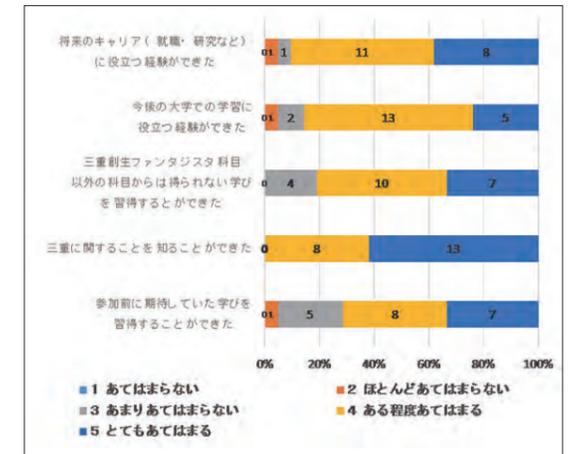
#### 【第13回授業】

農業においてもグローバル化が進展し、既存の商品に新たな付加価値をつける研究開発が行われていることがわかりました。農業の仕事にも“作業”としてではなく“研究”としての側面を持たせる企業体制がすごく新鮮で魅力的であると感じました。-中略-人手不足が深刻な農業ですが、自動収穫ロボットなど工業と合わせた技術開発がされていて、技術の進化を感じました。工業でも農業でも従業員一人一人が仕事に対して価値を見出しつつ、新たなことに挑戦していくことが企業の発展や人としての成長に大切だと思いました。

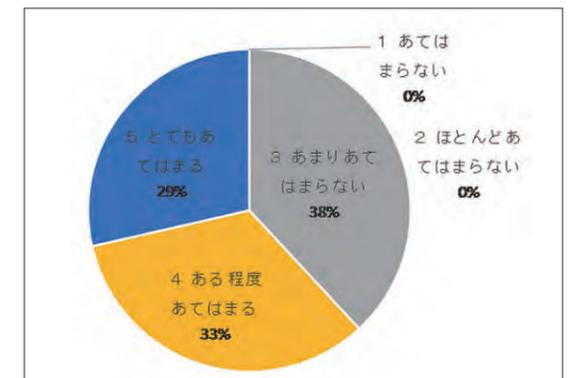
### 授業アンケート(一部抜粋)

授業終了後のアンケートでは、本授業の総合満足度が、4.2(MAX5.0)となり高評価であった。COC+でおこなった授業アンケートは、以下のとおりである。

Q. 本科目を振り返り、それぞれの項目から最もふさわしいものを選択してください。(n=21)



Q. 三重に対する捉え方や考え方は変わりましたか。(n=21)



Q. 上記質問で「4. ある程度あてはまる」、「5. とてもあてはまる」を選択した方はどのように変わったか25字以内で説明してください。

- ・三重県にもビジネスチャンスがある産業がたくさんある。
- ・魅力的な産業や企業があることを感じた。
- ・思っていたよりもたくさんの企業があった。

Q. 「身についた」と感じた能力は、具体的にどのような場面で、どのような行動をした結果、身についたと思いますか。

- ・感想を書く体制を作ることでただ講義を受けるだけの場合よりも講義の理解が深まったと思いました。90分の授業なので情報量がとても多いけれど、その中から自分の興味がある内容を引き抜いたり、新しい知識を頭の中で整理したりする機会を得ることができたので、充実した講義を受けることができたなと思います。全部で14回ほどの講義で様々な企業について知ることができていい経験になったと思いました。
- ・幅広い業種のゲストスピーカーの方の話を聞いたうえで、最終的に私たち自身で特定の地域の農業分析をすることにより、これまでの業者の方たちのお話を思い出しながらデータの変化の仮説をたて、実際に文献などで確認することで、実証に基づいた分析と考察をすることができた。
- ・三重県の企業や産業についての講義を受けて、三重県についての知識が増えました。私は三重県出身だけど知らない企業や産業分野があったため、このような講義を受けて私は就職の幅が広がったように感じました。
- ・プレゼンテーションで、自分の担当が決まっている部分があった。その状況が、自分に責任を感じさせ、ある程度のレベルに達した発表をしなければならないと思った。全てを一人で発表するわけではなく、担当する部分が決まっていることが、人を奮起させるのだと思った。(一部抜粋)

Q. 本科目を履修することによって得られる経験について、自由に記述してください。

- ・三重県の産業についてよく知ることができるので、就職活動に対して前向きになれました。
- ・自分の通う大学のある県、地域について様々なことを知ることができた。
- ・様々な企業の方の話を聞いて考え方を学ぶことができるし、産業の在り方を学ぶことができる。
- ・地域のすごさや、強みを知ることができました。

## PBL型集中講義(食と観光実践)

県内高等教育機関教員が協働して構築した地域実践交流科目群である「食と観光実践」は、伊勢・志摩の食文化・観光文化の現状を知り、課題の抽出や解決策の提案を目的とする2泊3日のPBL型集中講義である。三重大学8名、四日市大学7名、皇學館大学1名、鈴鹿大学3名、三重短期大学5名の計24名が受講した。

平成 30 年 5 月 12 日 (土)

<事前学修1:大川学園>

事前学修1回目では大川学園を訪問した。大川学園・大川吉崇理事長から伊勢の歴史的な食文化について講義をいただいた。江戸時代の食文化や、伊勢の神様に奉納する食事、お伊勢参りの文化について、系統立てて写真や古文書を交えて学んだ。

2部では現代の食文化であるご当地グルメについて、四日市大学・小林慶太郎教授より講義があった。三重県四日市市のご当地グルメである「四日市とんてき」を活用した四日市市の“まちおこし”について、実践的取組を含めた盛り上げ方を学んだ。

授業は終始、学生と教員のやり取りがあり、活発なものであった。



2部では館内見学を実施した。三重県内各地の食文化が紹介される中で、とくに伊勢には豊かな食文化があり、全国からの参拝客が集まるからこそその交流から多様な食の開発が進んでいった様子が学べた。



平成 30 年 6 月 16 日 (土)

<事前学修2: MieMu >

事前学修2では MieMu (三重県総合博物館) を訪問し、お伊勢参りの観光文化について学んだ。1部ではグループ分けの後に、それぞれテーマを設定して博物館内において何を集中的に調査するかをグループワークで実施した。



さらに3部では、MieMu 太田光俊学芸員よりお伊勢参りの歴史的変遷と、伊勢街道や鉄道といった交通路がどのように形成されていったかについて講義があった。

平成 30 年 9 月 2 日 (日) ~ 4 日 (火)

<合宿実習1日目>

1日目は伊勢志摩地域の観光文化について学んだ。まず、伊勢神宮の外宮を参拝した。伊勢市駅から外宮までは参道が整備され、比較的新しい観光地となっている。



次に「はちまんかまど」を訪問し、海女さんの話を聞きながら、海女料理を堪能した。現役の海女さんから貴重な体験談を聞くことができた。



午後からは鳥羽市にある、女性の願いをかなえてくれる石神神社を訪問した。続いて海の博物館を訪問して、海女文化について講義を受けた。海女さんが採ってくる海産物の種類など、詳しく教えていただいた。館内見学も実施し、鳥羽市の歴史や文化について学んだ。



その後、宿泊施設に戻り、翌日の調査に備えてグループワークを行って1日目は終了した。

### <合宿実習2日目>

2日目は朝食前に伊勢神宮内宮を早朝参拝した。次におかげ横丁を管理する伊勢福・橋川社長と、おはらい町のエリアマネジメントを担う前田氏からおかげ横丁の取組について講義をいただいた。また建築家・高橋氏からは実際におかげ横丁を歩きながら、まちづくりについて説明していただいた。伊勢神宮の参拝客に向けた観光のあり方について学ぶことができた。



午後にはグループに分かれて、自分たちで調査対象を決めてヒアリング調査を行った。自分たちで聞きたいことを決め、突撃取材という経験ができた。



午後いっぱい調査に費やして、最後はグループワークで調査内容をまとめた。それぞれテーマを設定し、実際に観光客や地域住民の意見を調査したことにより、自らの仮説に裏付けを取りながら議論できた。

### 平成30年9月8日(土)

#### <事後学修：三重大学>

合宿実習3日目が台風接近のため、午前中で解散となったため、事後学修までの期間でグループ内で連絡を取り合いながら取りまとめを進めた。

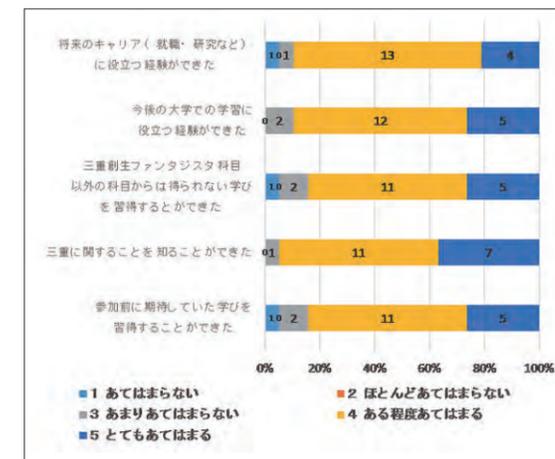
事後学修においては、全5チームによる発表会を実施した。全チーム、自分なりの伊勢志摩の食と観光についてまとめ、それに伴う課題を発表した。



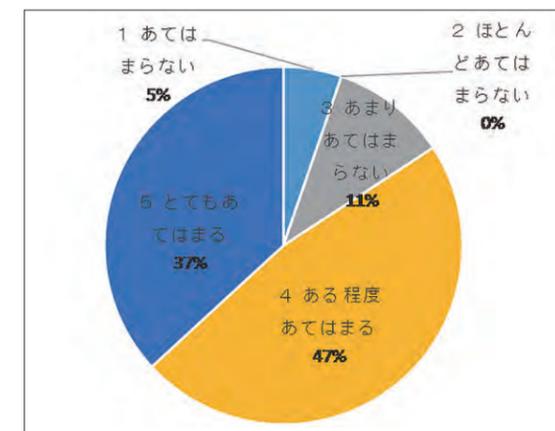
様々な専門性や学年のグループで、自らテーマを設定し、そのテーマについて資料や現地調査を実施し、仮説検証を踏まえた発表資料を制作する過程を通じて、学生たちの成長が著しく感じられた。

### 授業アンケート(一部抜粋)

Q. 本科目を振り返り、それぞれの項目から最もふさわしいものを選択してください。(n=19)



Q. 三重に対する関心・意欲は高まりましたか。(n=19)



Q. 上記質問で「4. ある程度当てはまる」、「5. とても当てはまる」を選択した方はどのように変わったか25字以内で説明してください。

- ・伊勢志摩だけではなく、他の地域の特徴も知りたくなった。
- ・自分の市内も何を取り組んでいるのか知りたくなった。
- ・三重県の文化、食は面白い関係があるなど思ったから。

Q. 「身についた」と感じた能力は、具体的にどのような場面で、どのような行動をした結果、身についたと思いますか。

- ・最初は何をどのようにすれば良いのかわからなかったが、グループワークのメンバーと共にフィールドワークで得た情報を元に2日目の夜などのグループワークなどをする際や、それ以前にどこへ行って何をどのような目的で情報を得るのかを話し合っていた結果、最終的には得た情報を取捨選択する力が身についたように感じた。
- ・観光客と地元の人に聞き取り調査を行い、ケースごとの共通点や相違点を分析しようとした時、何に注目すればいいかを話し合いそこから現状や課題の抽出ができた。また、調査前の仮説と調査の結果のギャップについて仮説では何を見逃していたかなども分析することができた。私はフィールドワークに関する講座を受講していたが実際行うことは初めてで分析しているなかでもっと聞き取りで訊かなければならないことがあったと感じたが班のメンバーと意見交換するなかで不足を埋めることができた。
- ・他大学の全く知らない人達と一緒に行動することでコミュニケーション能力が高くなった。

Q. 本科目を履修することによって得られる経験について、自由に記述してください。

- ・ほとんど初対面である他大学の生徒達と交流をし、共に意見を出し合い共有することができた。また、三重県の観光についてインタビューをし、情報を得るなど本科目を履修しなければ得なかった経験をする事が出来た。
- ・初めての会う人と討論をしたり、現地の方に直接インタビューしたりたくさん色々な人と関わりを持つことでコミュニケーション能力が付く。
- ・実際に見たり食べたりすることで自分で体験することができる。他大学の人と交流できるし、学びたいテーマがあり目的がはっきりしているから関わりを持ちやすい。

- ・伊勢神宮について詳しくなれることに加えて、他大学と交流するので、コミュニケーション能力の向上に繋がる。また、グループで物を考える事で自分だけでは発見する事の出来なかった事柄や物の見方を知る事ができた。
- ・いろんな経験をすることができたが、特に印象的なのが、情報を整理しまとめる力、他大学との交流を得られたことだと思う。
- ・三重県のことを知れるだけでなく、グループの人達と協力して、1つのテーマに向かって、意見を出し合えたことが良かった。

本授業は学修効果を可視化するために、前年度に引き続き、ルーブリックを実施した。(詳細は P47 参照)

## PBL型集中講義(次世代産業実践)

県内高等教育機関教員が協働して構築した地域実践交流科目群「次世代産業実践」は、三重県の主要産業である航空宇宙産業の現状を知り、三重県における課題の抽出や解決策の提案を目的とする2泊3日のPBL型集中講義である。

三重大学9名、鈴鹿工業高等専門学校5名、鳥羽商船高等専門学校4名、三重短期大学4名の計22名が受講した。

平成30年8月11日(土)

<事前学修：三重大学>

事前学修はオリエンテーション及びグループ分けを実施し、各高等教育機関の学生がシャッフルされる形でグループワークを実施した。



続いて、イノベーションに関する講義を実施し、身近にある製品のなかでどのような技術開発や市場創出が続けられてきたか、グループワークで調査・発表した。

平成30年9月5日(水)～7日(金)

<合宿1日目>

鈴鹿青少年センターにて、集中講義を開始した。これまでの航空産業の歴史および産業としての拡がりについて、みえ・航空宇宙産業推進協会会長であり、COC+事業の地域活性化推進コーディネーターである雲井氏から説明していただいた。



午後からはグループに分かれ、ドローンや航空宇宙産業を活用して新たな事業を生み出すワークショップを実施した。学生それぞれの専門分野を踏まえ、新技術を導入することでいかに地域課題を解決するかをグループで検討した。



夜にはそれぞれのグループで、三重の航空産業に対して自分たちに何ができるかを議論した。各グループ自らテーマを決め、必要に応じて調査をして発表資料を作成した。1つの解を求めるプロセスを経験することで、一体感を持つようになっていったのが印象深かった。



<合宿2日目>

2日目は三重県ドローン協会・山田氏にお越しいただき、ドローンを活用した観光振興や地域防災の取組についてご説明いただいた。さらに実際にドローンを飛ばしてみる体験を実施し、活用方法を検討した。



午後からは、三菱重工業株式会社において日本の液体ロケット N-1、N-2、H-1、H-2、H-2A、及び HOPE の開発を担当され、現在は名古屋大学特任教授である小林氏から宇宙産業について講義をしていただいた。

ロケット開発の現場ややりがい、種子島宇宙センターの話など、とても興味深い内容であった。

講義終了後は学生と講師による交流会を実施し、自分たちの学びと航空宇宙産業のつながりについて意見交換があった。学生からも多くの質問があり、活発な議論が行われた。



**<合宿 3 日目>**

午前は小牧市にある MRJ ミュージアムを訪問し、夢の国産ジェット機を製造する工場を見学した。三菱重工業株式会社をはじめ、様々な企業が参加した国家プロジェクトとして、大きな期待を背負いながら乗客の安全性や快適性に配慮した開発方法をご説明いただき、就航の暁には是非とも乗ってみたいと感じた。



午後からは MRJ の部品を製造している大起産業株式会社木曾岬工場を見学した。それぞれの部品が厳格に基準管理され、1つ1つが手作業で組み上げられている現場を体験し、ものづくりの品質の重要性を理解した。

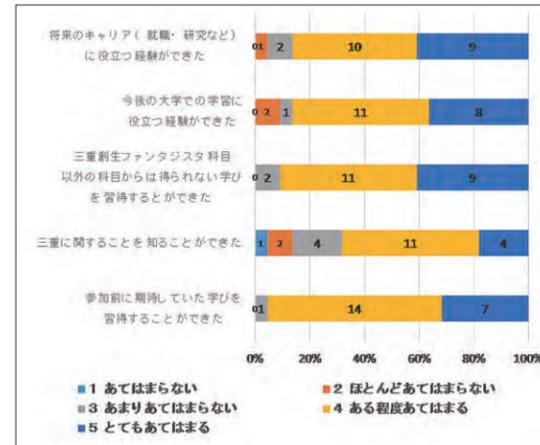


**学生の感想 (一部抜粋)**

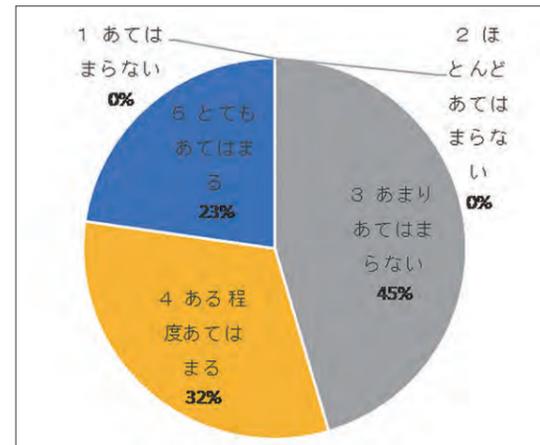
- ・ドローンを初めて飛ばしてみても、意外と簡単に操縦できるのに驚いた。
- ・MRJ に代表されるジェット機が、厳しい安全対策を経て製造されていることが理解できた。
- ・グループワークを通じて、自分の意見を持つためには正しい知識と経験をもっと身に着けなければならないと感じた。

**授業アンケート (一部抜粋)**

Q. 本科目を振り返り、それぞれの項目から最もふさわしいものを選択してください。(n=22)



Q. 自らの専門分野(学部・学科)に対する見方や考え方が変わりましたか。(n=22)



Q. 上記質問で「4. ある程度未だはまる」、「5. とても未だはまる」を選択した方はどのように変わったか 25 字以内で説明してください。

- ・新たに見方や考え方を1つ得ることができた点。
- ・授業で習ったことが実際の社会で使われているのが新鮮だった。
- ・全く別の分野の方達とのディスカッションから新たな視点を得た。

Q. 「身についた」と感じた能力は、具体的にどのような場面で、どのような行動をした結果、身についたと思いますか。

- ・授業の中で得られた新しい様々な知識や、実際に MRJ や大起産業の工場見学をすることで本物の機体やその組み立て現場を目で見て実際に工場内で働く人やガイドの方の話を耳で聞いて感じる事がとても多く、それらを集中講義や事後学習の中で、班の中で意見や感想を出し合い、同じ意見や異なる意見を1つの発表としてまとめることができた。
- ・グループワークとディスカッションをあまりしたことがなかったので、他校の人との話し合いがとても新鮮だった。そこで、自分の意見を述べたり、まとめたりすることで、グループワークの能力を高められたと思う。
- ・自分は人見知りでも人前で話すのが苦手でしたがグループワークで初めて会った人と積極的に意見交換する中で、自分の意見に自信を持つことができ、発表の時に堂々と話すことができた点です。相手に自分の言いたいことを伝えることはとても難しいことですが、今回の経験でどうしたら相手により分かりやすく伝えられるかということが分かりました。今後の学校生活でもこれらの点は活かしていきたいです。

本授業は学修効果を可視化するために、前年度に引き続き、ルーブリックを実施した。(詳細は P.47 参照)

## 地域発見型インターン

本年度より開設された現代社会理解実践「地域発見型インターン」(前期集中講義)は、地域実践交流科目群に位置づけられ、三重県の企業(第一次～第三次産業)を深く理解し、職業観の醸成と仕事への理解を深めることを目的としている。本科目の特徴は「体験型」インターンシップにあり、多くの県内企業の実態を理解し、それについて深い分析・考察を加え、自らの考えを社会に還元する素養の修得を目指していることである。本年度は、三重大学1名、四日市大学2名、三重短期大学1名の学生が参加した。

### 授業概要

本授業では、事前学修としてインターンシップを行うための心得やマナー研修、インタビュー特訓を行うとともに、レポート課題としてインターンシップ先の企業研究を課し、より効果的なインターンシップが実施できるような授業設計を行った。

また、インターンシップ先は、第一次産業からサービス業まで幅広い業種を学べ、各業界でトップランナーとして業界をけん引する魅力的な企業を選定している。

2回目の事前学修では、インターンシップとはどういうものかについて、講師を招いて授業を行った。インターンシップで何を学びたいかや目標を明確にし、より効果的にインターンシップを行うための準備をおこなった。また、マナー研修やインターンシップ先でのインタビュー方法などについても学んだ。なお、事前学修では、インターンシップコーディネートを専門とする事業協働機関の方々にもご協力いただいた。

### 【授業スケジュール】

事前学修①	Jobキャラバン 自己分析ワークショップ
事前学修②	オリエンテーション インターンシップに関する講義 マナー研修 インタビュー特訓
インターンシップ	速水林業(紀北町) ポモナファーム(多気町) アクアイグニス(菰野町) ZTV(津市)
事後学修	インターン報告会 振り返り

### 事前学修

事前学修の1回目では、「三重大学Jobキャラバン」に参加し、県内企業の方々から企業の特徴や働くとはどういうことかなどを学ぶとともに、自己分析のためのワークショップを実施した。

ワークショップでは、自分がどのような経験をし、何を学んできたのか、何に興味を持っていて、どんな人間なのかを他者に伝えるためのスキルを学んだ。



▲事前学修の様子



▲事前学修の様子

### インターンシップ

インターンシップ先では、企業説明・見学後、それぞれ若手社員を交えたグループワークを実施した。グループワークでは、業界や企業の課題をテーマとして取り上げ、ディスカッションした。学生たちは難しい課題に四苦八苦する場面もあったが、大学では学べないビジネスの現場を体感していた。



▲速水林業(紀北町)でのインターンシップ



▲ポモナファーム(多気町)でのインターンシップ



▲アクアイグニス(菰野町)でのインターンシップ

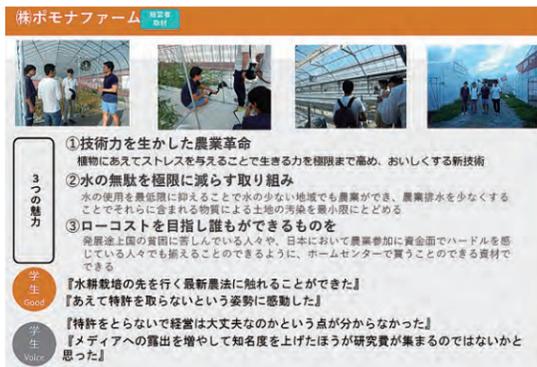


▲ZTV(津市)でのインターンシップ

### 事後学修

事後学修では、インターンシップの振り返りとして、訪問した企業についてそれぞれ報告書を作成し、自分たちの将来の目標についても改めて考えた。

グループワークでは、他者の主張と自分の主張を整理して、文章化したり、わかりやすく報告するなど、グループワークを通じて、リーダーシップや協調性などを身に付けることができた。



▲学生が作成したインターンシップ先の報告書



▲事後学修の様子

**授業アンケート(一部抜粋)**

Q.「身についた」と感じた能力は、具体的にどのような場面で、どのような行動をした結果、身についたと思いますか。

- ・事前学習の時に中村さんから取材の仕方を教えていただき、グループワークで実践し、改善点を出しました。その経験を生かし実際に企業へ行き、取材をする時に実践しました。回数を重ねるごとに意識しなくともできるようになり、身に付いたと感じました。
- ・会社見学と社員インタビューの後に行ったグループワークにおいて、一緒にインターンに参加した他大学の生徒や若手の社員さんたちと会社側から与えられたその会社業務に関連のある問題(例えば農業では若者の野菜離れをどうすれば解決できるのかや、観光業では新しい観光資源を作るとしたらどのようなものがあるかなど)に対してKJ法などの方法を用いて学生の視点で議論を通

してある一定の結論を出すという活動をしている場面。

Q. 本科目を履修することによって得られる経験について、自由に記述してください。

- ・議論をしたり社会人と交流するという経験。
- ・就職の考え方や視野が広がりました。インターンシップの企業とのグループワークでその企業の課題の解決策を考えることができました。

**PBL型集中講義(三重の地場産業)**

PBL型集中講義「三重の地場産業」は地域イノベーション学科目群に位置づけられ、三重県の地場産業において、第一線で活躍されている方々をゲストスピーカーとして招き、現場見学を通じて、各地場産業が抱える課題の発見と、実現可能な解決策を提案することを目的とする授業である。現場見学もある実践的な科目であり、本授業を通して、三重県経済が抱える課題に対して果敢にチャレンジする積極性と行動力をもった人材の養成を目指している。本授業は、三重大学、三重短期大学から2名が受講した。

**授業概要**

本授業は、4日間の集中講義となっている。本年度は三重県の数ある地場産業の中で、萬古焼、伊勢木綿、酒造をピックアップし、それぞれ現場を訪問した。

**萬古焼の工場見学**

1日目の午前は四日市市にある公益財団法人三重北勢地域地場産業振興センター「じばさん三重」(以下:じばさん三重)にて、三重の地場産業に精通する西浦氏に萬古焼の歴史と現状について講義をいただき、学術的に地場産業について学んだ。



西浦氏の講義を受けて、三重の地場産業について理解を深めた後、午後からは萬古焼に関わる企業、工場を3カ所訪問した。大手家電メーカーと提携し萬古焼の技術をより先進的に発展させて量産体制も整えている(株)ミヤオカンパニーリミテド、萬古焼専門の流通業者にして、各メーカーの商品開発や提案、マーケティングまで行う(株)スズ木、小さい町工場ながらも独自の技術と商品開発で高付加価値を生み出す(有)藤総製陶所、の3カ所である。学生たちは、特色の異なるこれらの3つの企業を巡り、萬古焼の業界の様々な側面や状況を学ぶことが出来た。



(株)ミヤオカンパニーリミテドでは、三重大学の卒業生が対応してくださり、受講学生は将来のキャリアプラン形成の面でも興味を示し、多くの質問をしていた。





(株)スズ木では倉庫内に高く積み上げられた商品群を見ながら流通に関する話をいただき、メーカーへの商品開発の提案の手法や、現在進行中の新製品についても話して頂いた。学生たちは新商品を手に取りながら開発秘話について「企画の発想はどのように浮かんでくるのですか?」など、多くの質問をしていた。



(有)藤総製陶所では藤井社長の商品開発への情熱や、考え方、マーケティングについて学んだ。藤井社長と受講生の距離が近いこともあり、小さい町工場で如何に付加価値を生み出すかについて活発に議論が交わされていた。学生からは「どのようなプロモーション戦略をとったのですか?」といった質問が上がった。



#### 伊勢木綿の工場見学

2日目は伊勢木綿を現在唯一生産している白井織布(株)の白井社長に講義をしてもらい、伊勢木綿についての歴史や現状について理解を深めた後、工場を見学した。



工場では100年前の豊田自動織機製の機械が現役で稼働しており、かつての活気が伺えた。その中で白井社長が手掛ける新商品や大

手デザイン会社との共同開発についてもお話いただき、学生は意外と身近に伊勢木綿の商品があることに親しみを感じたと言っていた。

#### 河武醸造の酒蔵見学

同じく2日目には、日本酒造りにおいて、三重県内で様々な取り組みを行っている河武醸造(株)の河合社長にも講義いただいた。河武醸造(株)では日本酒だけではなく、酒かすケーキや柚子を用いたりキユール酒、醸造と同じ地域の天然水で作ったサイダーなど様々な商品開発を行っていることを紹介されていた。



講義の後は、河武醸造(株)の酒蔵に見学に行った。実際にどのように下処理、発酵させ商品にするのかといった一連の流れを工場内を回りながら説明いただき、学生たちは非常に繊細な職人技に驚いていた。



▲振り返りと発表会

受講生は三重の地場産業について学術的知見と様々な統計データを分析し、現場で得た情報とこれまでの学びを活かし、各産業が抱える問題点や課題点に関して、その改善に対する具体的な提案をプレゼンテーション形式で発表した。

#### 学生の感想 (一部抜粋)

- ・ 中小企業にもそれぞれ大きな努力があり、合理的ではない心理の変化等があることが分かった。
- ・ 自分の意見だけでなく、他人の意見(他の受講生や各産業の社長)も聞くことでより一層理解が深まった。
- ・ 信念を貫くことの重要性を知った。
- ・ 自分が弱者であることを認識し専門性を持つことは「無知の知」と同じだと思う。
- ・ この授業では地場産業を客観的に見ることで、様々なデータを分析する手法が身についた気がする。今後の学びに活かしたい。
- ・ 普通に検索すると埋もれている情報も、現場を見たり、関係者に直接話を聞くことで裏側が良く分かり、自分の足で情報収集する大切さを思い知った。事前に調べたときはわからなかった情報も、現場で沢山手に入った。

## 自然環境リテラシー学

本授業は、県内の自然を多くの人に体験してもらう「三重まるごと自然体験構想」の一環として、自然を体験できるプログラムの開発や魅力を伝える人材の養成を目的に県と協働で今年度より開設された。三重創生ファンタジスタ科目の地域実践交流科目群として位置づけられ、三重大学から40名が受講し、自然環境を体系的に理解するとともに、海や山での体験を通じて安全管理や技能を修得した。

平成 30 年 8 月 26 日 (日) ~ 30 日 (木)、  
9 月 7 日 (金) ~ 11 日 (火) ※ 2 回に分けて実施  
＜1日目＞

三重大学から実習場所となる尾鷲市須賀利に移動し、限界集落となっている漁村の現状について地元の住職さんより話を伺った。夕食後は世界的な海洋ジャーナリスト内田正洋氏より、海と陸の天気の関係と風や雲の流れから天候を読む方法についてレクチャーしていただいた。



＜2日目＞

2日目より実際に海上に出て、カヤックの漕ぎ方、転覆した場合の戻り方など、安全面を中心に実習を行った。また、実習後には海岸清掃活動を実施し、海のアクティビティを体験する上での心構えを学んだ。夕食後には持続可能な地域体験プログラムについて、地域の暮らしと観光を両立する考え方について意見交換を行った。



＜3日目＞

3日目は体験プログラムを組み立てるための自然環境の捉え方、海洋環境の見方について、実際にカヤックに乗りながら実習を行った。午後からは自転車によるツーリングに切り替え、元須賀利まで走ってテントを設営するまでの一連のプログラムを通じて、アドベンチャー体験を考察した。



＜4日目＞

4日目は自転車ツーリングでの自然体験プログラムについて実習を行った。元須賀利から須賀利へと戻る行程で、熊野古道として過去に往来していた旧道や、海の民と山の民が交わる場所などの歴史を学んだ。

夕食後には、実際に自然ガイドとして生計を立てられている方々をゲストに迎え、自然環境とともに生きるライフスタイルについて語っていただいた。



## 地域志向型ルーブリック

昨年度に引き続き本年度も、三重創生ファンタジスタオリジナル科目のPBL 授業「食と観光実践」、「次世代産業実践」、「三重の地場産業」においてルーブリックによる学修成果の可視化に取り組んだ。本年度は、昨年度のルーブリックを改良した地域志向型のルーブリックを実践した。昨年度の相違点としては、学生の負担を軽減するために自己評価型のルーブリックとしたこと、地域課題の解決にかかわる能力5つに焦点を当て学修効果を測定したことである。

### ルーブリックの設計

地域課題の解決に関する能力として、以下の5つの指標を設定し、4段階の評価尺度(レベル1~レベル4)を設けた。

- ・地域課題の解決のため、情報収集し、分析する力
- ・地域課題を解決する力
- ・修得した知識・知見を活用する力
- ・グループをひっぱる力
- ・他者と協働する力

評価は、自己評価を採用し、授業の実施前後で学生自身が現在の自分の状況に当てはまるものに○を付けることとした。

### ルーブリック評価の結果

評価尺度のレベル1~4を順にポイント化し、

授業前後で比較した結果、以下のような結果が得られた。(三重の地場産業については、履修者が少ないため結果は割愛する)

#### 【食と観光実践】

全項目が1ポイント以上の伸びを示した(図1)。グループ毎に問題意識を共有し、学生自らフィールドに出て情報収集を行い、分析して報告するという一連のプログラムが効果的に働いたと考えられる。

#### 【次世代産業実践】

全能力で伸びが見られたが、テーマの性格上、地域の問題解決というよりも今後の展望を中心とした議論が行われたためか、伸び幅は小さかった(図2)。また、食と観光実践と比べると本科目は高等専門学校の学生も受講しており、既に地域課題に即した取り組みを行っている学生もいたため、これらの能力をある程度身につけていたことも影響したと考えられる。

表1 地域志向型ルーブリック

	入門(レベル1)	もう少し(レベル2)	良い(レベル3)	とても良い(レベル4)
1. 地域課題の解決のため、情報収集し、分析する力	インターネットや文献等を検索し、地域課題解決のために、必要な情報を収集することができる	地域課題解決のために、関係者にヒアリング(聞き取り調査)を行うことができる	課題解決のために、様々な情報源から収集した情報を吟味して取捨選択することができる	取捨選択した情報を課題解決の目的に合わせて論理的に分析することができる
2. 地域課題を解決する力	地域の現状を把握することができる	現状とあるべき姿のギャップを明らかにすることができる	現状とあるべき姿のギャップを明らかにした上で、課題を設定することができる	解決策を現実的(具体的に)に計画することができる
3. 修得した知識・知見を活用する力	これまでに修得した知識・知見を地域の課題解決に活かしたいと思う	これまでに修得した知識・知見を地域課題の解決にどのように活用するか説明できる	地域課題に対してどのようなアプローチが有効か理解することができる	これまでに修得した知識・知見を地域課題の解決に活用することができる
4. グループをひっぱる力	グループ活動において、自ら意欲的に取り組むことができる	グループ活動において、自らグループ活動の目的を設定することができる	メンバーとの議論において、自らの主張を出し、かつメンバーの様々な意見を引き出すことができる	グループのメンバーの様々な対立点(コンフリクト)を解消し、目的に合わせて意思決定をすることができる
5. 他者と協働する力	グループにおいて目的を有した協働活動を行うことができる	グループ活動において目的をよく理解し、目的に合わせて段取りすることができる	他者の考えや予定等を調整し、協働作業を前に進めることができる	目的に向かって協働作業に取組み、最終的な成果を実現することができる

ループリックの解析結果に関しては、地域を題材とした実践的授業の成果を公表するため、三重大学地域人材教育開発機構の紀要である「三重大学高等教育研究」に投稿した。

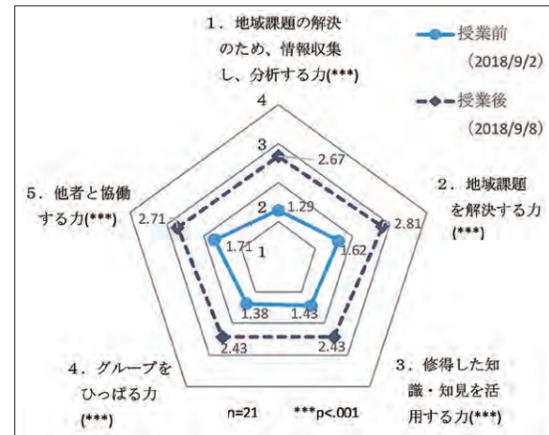


図1 ループリック評価の授業前後の変化 (「食と観光実践」)

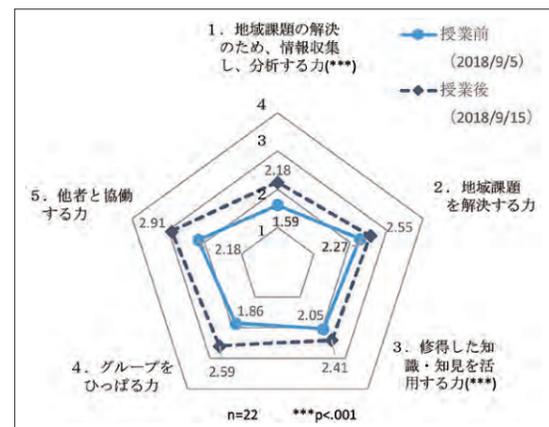


図2 ループリック評価の授業前後の変化 (「次世代産業実践」)

参考文献：  
 原田幸子・山本裕子・黄文哲・富樫健二 (2019) 「高等教育コンソーシアムみえにおけるPBL型授業を対象とした地域志向型ループリックの検討」, 『三重大学高等教育研究』, 第25号, pp.71-84

## 三重創生ファンタジスタ資格説明会

三重大学三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻コースでは、所定の条件を満たした学生に対し、就職活動時に活用できる「三重創生ファンタジスタ資格取得見込証明書」を発行しており、本年度は新入生やこれから就職活動を行う学生向けに説明会を開催した。

### 資格説明会の狙い

本説明会を開催した狙いは、学生に本資格の概要、魅力を認識してもらうとともに、県内企業への資格啓発状況や、就職面接時にどのように活かすべきかを伝えることである。

県内企業には、三重創生ファンタジスタ面接動画や資格紹介パンフレット、資格啓発チラシで広報を行っていることを学生に伝えるとともに、前段(P.8)にあるとおり、採用募集要項に三重創生ファンタジスタ資格を記載している企業が出てきていることを伝え、三重創生ファンタジスタ資格が就職活動に利用できることをアピールできた。



▲熱心に教員の話に耳を傾ける学生たち



▲オリエンテーションでの説明 (学生から)

### 説明会の様子 (新入生向け)

各学部のオリエンテーションにおいて、学生に対し資格取得のための科目履修説明を行った。実際に資格取得を目指す学生から説明があったこともあり、説明後多くの学生が副専攻コースに登録し、地域について学ぼうとする学生の増加につながった。

### 説明会の様子 (3年生向け)

本説明会は3月28日(木)、3月29日(金)の2日に渡って行い、34名の学生が参加した。「自身のこれまで学んできたことをどのように企業に伝えればよいのか」、など積極的な質問が前日同様に多数寄せられ、学生たちの興味、関心の高さが伺えた。今後、三重創生ファンタジスタが三重大学から初めて輩出されることとなり、今後の活躍が期待される。

▲説明会資料について

## 平成30年度 地域連携・情報発信 イベント等

この章では、平成30年度のCOC+の取り組みの中で、地域貢献活動や、学生が県内就職や地域を知るイベント等の実施状況等についての報告をする。三重大学における取組や、県内高等教育機関が実施した事業についてもご確認いただきたい。

52p … 三重創生ファンタジスタクラブ (MSFC)

58p … 三重ラーニングジャーニー

60p … Job キャラバン

65p … 高校生向け公開講座

66p … みえインターンシップフェスタ

67p … 鈴鹿大学ビジネスプランコンテスト

68p … MIE 学生ベンチャーサミット2019

69p … エースセミナー

71p … COC+ インターンシップ事業

75p … 三重大学地域拠点サテライト

77p … 県内就職率向上のための様々な取組

79p … 中小企業との共同研究スタートアップ促進事業・地域貢献活動支援事業



▲Jobキャラバン(三重大学)



▲三重ラーニングジャーニー(第1回)

## 三重創生ファンタジスタクラブ(MSFC)

三重創生ファンタジスタの養成にあたり、授業などにとられることなく学生が主体的かつ自由に地域活動を推進できるよう、三重創生ファンタジスタクラブ(以下、「MSFC」という。)を部活動として立ち上げた。2017年に結成し、当年度は木曽岬町の地域活性化、御浜町のPR動画作成、留学生の支援、三重県内の餅菓子のPRやSNS・ブログを使った広報活動などを行った。2018年度は、津市美杉町の空き家の利活用をはじめ、伊賀組紐のPRや、三重県産の食材を使用したカフェの運営、インスタグラムでの津市の魅力発信などを行った。2019年3月現在で部員は17名の三重大学生が所属している。

### 津市美杉町の空き家の利活用

今年度は津市美杉総合支所の地域振興課の方と協働し、空き家の利活用と移住者呼び込みのための企画を行った。

**課題：空き屋の増加**  
津市の総住宅数、空き家数、空家率の推移

津市の空き家数は5年で1.5倍に！ (単位：戸)

	平成20年			平成25年		
	津市	三重県	全国	津市	三重県	全国
総住宅数	129,210	791,000	57,586,000	142,070	831,200	60,628,600
空き家数	18,000	104,600	7,567,900	27,060	128,500	8,195,600
空家率	13.9%	13.2%	13.1%	19.0%	15.5%	13.5%

出典：「平成20-25年度住宅・土地統計調査結果」(総務省統計局)

まずは拠点とする空き家を任せ、掃除や片づけを行った。その後、古民家の改修作業に興味のある方々に呼びかけ、腐食していた床を修復した。美杉町は林業の町なので、木材については近隣の林業関係者に協力を依頼し、ご厚意で譲っていただいたものを使用した。



ある程度、空き家の改修と片づけや掃除を完了させた後、この空き家を利用した田舎体験のイベントの企画を行った。企画に関しては津市地域振興課から依頼されており、MSFCの学生が様々なアイデアを出し合いながらディスカッションを繰り返した。できたイベント案は地域振興課の方に積極的に説明を行い、企画の実施について快諾いただいた。



**ななな美杉ライフ体験 & 移住相談**

津市美杉町で古民家を利用した田舎ライフ体験しませんか？  
かまどでご飯を炊いたり、丸太を使ったコンロで鍋料理を楽しんだり、美杉の木を使った木工体験もできます！また移住に関する疑問や相談も受け付けます！楽しみながら質問や相談してみてください！  
田舎暮らしを考えている方も、そうでない方も、楽しいことをして寒さを吹き飛ばしたい方もお申込みください！

**①かまど体験**  
田舎の醍醐味、かまどご飯！かまどがある古民家を利用して、自分たちで作った薪を使って火をおこし、お米を炊きます。  
電気ジャーでは絶対に味わえない、ふわふわのご飯と周りのおこげ。炊いているときも蒸気からご飯のいい匂いがします！  
他にも、林業の町ならではの丸太コンロを使って鍋を作ります！美杉地域の幸をふんたんに使用したジビエ鍋です。寒い中でも心身ともにあつまる鍋をみんなで囲みましょう！

**②林業体験**  
三重県の高級材を肌で感じてみましょう。美杉材を利用したいろんなもの作りも体験できます！木に触れ、モノづくりの心地よさ、楽しさが広がります！

**③移住相談**  
田舎暮らし、移住に関する疑問など相談してみてください！

**【とき】H31 3月9日(土) 10時～15時 雨天決行**

**【ところ】道の駅美杉 (三重県津市美杉町上多賀267)**  
【定員】10人程度  
【申込】先着順で受け付けます。申込用紙にてお申込みください。  
【申込締切】平成31年3月4日(月)  
※定員になり次第締め切ります。  
●当日会場にて実費分をお支払いいただきます。  
(飲食の材料代 500円)  
※但し、小学生以下は無料

【お問合せ】津市美杉総合支所 地域振興課 (三重県津市美杉町八町5580-2) ☎059-(272)-8082

イベント実施日の一か月前にチラシを作成し、印刷後、各部員で協力して広報活動を行った。チラシ以外にも津市のHPや、MSFCのSNSアカウントでも掲載した。当日は四日市市より2名、皇学館大学の学生1名、三重

大学の学生1名、計4名の方が参加された。学生たちは調理班、火おこし班、林業体験班に分かれ、それぞれの持ち場において田舎で暮らす魅力を十分に引き出し、お客様に説明をした。





参加者は、田舎暮らしにより興味を持っていたが、津市地域振興課の職員の方と空き家の物件について質問されており、地図上で場所を見ながらじっくり考えている様子だった。



これらのイベントを通して、一連の企画運営を完遂させたMSFCのメンバーからは、「大変だったが、無事成功できてよかった。」「企画に関わったことで、準備には想像以上の手間と時間がかかり、考えなければならない事項がとても多いことがわかりました。今後の活動にどんどん活かしていきたい。」といった声が上がっていた。

### 地域ブランド総選挙

地域ブランド総選挙とは、大学生と地域団体商標権者が協働で行う地域ブランドの魅力PRで、この取組みは特許庁が主催する地方創生に関わる事業としてスタートした。昨年度は九州地区で行われたが、今年度は東海・北陸地区での開催となり、三重県、愛知県、岐阜県など東海や北陸地方から7県、18ブランドが対象となった。PR方法はInstagramで様々な記事を投稿し、その記事に付いた

「いいね」の数で広報力を競う取組である。



MSFCの学生は、三重県の「伊賀くみひも」をPRすることに決め、学生達は何度も伊賀の里伝統伝承館にあるくみひもセンターに足を運び、商品や歴史、体験談などについて毎日Instagramに投稿した。



Instagramでの投稿期間は9月3日から11月3日までと制限されており、その後「いいね」の集計から予選の審査となった。結果は残念ながら予選落ちとなったが、三重の伝統と文化に触れることが出来たことで、悔しいながらも満足した様子であった。



### 津の町の魅力をInstagramで発信

三重大学に所属する学生にとって、津市内はもっとも身近な町だが、その町について知らないことが多い。津市の情報が少なすぎるといった問題意識を持ち始めた部員が、「今若者の間で人気のSNSであるInstagramを使って自分と同じような津の町情報弱者に津の魅力を伝えよう」と提案し、部内で使用できるInstagramのアカウントを作成した。津の情報発信を始めるにあたり、津市に具体的な活動内容を紹介し、了承を得た。



Instagramへの投稿は8月から開始し毎週金曜日を投稿日と定めた。主な内容は10代～20代をターゲットにした津の周辺情報として、大学から徒歩もしくは自転車圏内のカフェやレストラン、洋菓子店、寺社仏閣などを取り上げ、フォトジェニックな写真を撮影し投稿している。





当初目標フォロワー数は 500 人と定めたが、2019 年 3 月 31 日現在で 711 人まで増加している。

この情報発信に関わっている学生は、来年度は後輩に引継ぎ、継続して発信していきたいと話しており、密に引継ぎの打ち合わせを行っている。

#### 学生運営のカフェ&バー

MSFC のメンバーが、三重の魅力を伝える CAFÉ & Bar「森の王様 Tapio」をオープンした。



このお店は、「三重の魅力を発信したい。三重を元気にしたい。」という学生の強い想いがきっかけで始まった。店舗は三重大学病院すぐ隣の飲食店通りにあり、大学生や大学関係者の方々に三重県の魅力を発信することを目的としてオープンした。



メニューには三重県内で生産されている農産物や調味料を使用した料理や飲み物がたくさん用意されており、気軽に「うまし国三重」を堪能できる。なかでも獣害に苦しむ地区の猟師から仕入れた鹿肉のジビエ料理など、珍しいものもリーズナブルに提供しており、店内は三重県産の杉と檜をふんだんに使用した内装で、オシャレで落ち着いた雰囲気を創り出している。



お店をオープンするにあたって、三重県のヒト、モノに「ま三重る」をコンセプトに、農産物や加工品、木材などはすべて学生自身が地域の方と交流し、数多くの方にご支援ご協力を頂き完成した。今後も店舗として留まるのではなく、この機会を最大限に活かし、「交流の場の創出」や「イノベーションが起こる仕組み作り」、「三重の新たな魅力の掘起こし」に挑戦していきたいと語っている。

下記の QR コードに SNS アカウント、ホームページ、学生ブログを記す。



▲左からMSFCツイッターアカウント、MSFCインスタグラムアカウント、森の王様タピオHP

## 三重ラーニングジャーニー

今年度から、三重県内の魅力的な自然や産業を楽しく学ぶことのできる旅「三重ラーニングジャーニー」を企画し、県内の高等教育機関に所属する学生を対象に4回実施した。各回においてテーマを設け、それぞれの現場に赴いて地域課題や実際に産業振興に携わる人々と意見交換する機会を通じて、三重県の産業や先進的な取り組みに対する理解を深めた。

平成 30 年 8 月 31 日 (金)

### <#1：美杉きこり体験>

第1回は映画「WOOD JOB！神去なあな日常」のロケ地となった林業の町、津市美杉町を訪問した。三重大学12名、皇学館大学5名の計17人が参加し、映画のロケ地を回りながら林業現場の伐採から加工、市場を見学した。

林業のプロから基礎的な情報も含めてお話をいただき、現場を回りながら説明を受けた。木こり体験では、実際に伐採に用いるロープワークや梯子を使った枝打ちのやり方など、現場の知識を経験とともに学修した。



▲木材市場での様子

現在の林業界が抱えている問題や厳しさについて、市場、加工事業者、林家それぞれの立場からお話いただく一方で、未来への展望や収益の出し方、林業の魅力についても議論した。参加した学生からは「大きな問題を抱えつつも、やり方次第で可能性があり、とても魅力を感じた。」「木材への見方が変わった。」などの感想があり、満足した様子であった。



平成 30 年 9 月 20 日 (木)

### <#2：多気町に集まる次世代産業>

第2回は次世代農業やバイオテクノロジーをテーマに、多気町を訪問した。三重大学から6名が参加した。

午前は株式会社中部プラントサービスの木質バイオマス発電所「多気バイオパワー」にて電力熱・二酸化炭素の3つの供給を実施している旨の説明を受け、その二酸化炭素を用いて藻類の養殖について研究する株式会社ユーグレナ「藻類エネルギー研究所」にて、藻類にジェット燃料を生成させるプロセスについて見学した。



午後は株式会社ポモナファームにお邪魔して、節水型の次世代農業の現場を見学した。豊永社長から、グローバルな水資源不足から見た近未来に必要な農業の在り方に対するレクチャーを受け、実際に栽培しているハウスを見ながら意見交換を実施した。また事業協働機関である万協製菓株式会社では、松浦社長から会社経営に関する考え方を教えていただいた。



平成 30 年 12 月 1 日 (土)

### <#3：伝統産業「伊勢型紙」と「伊賀くみひも」>

第3回は三重県の伝統産業である「伊勢型紙」と「伊賀くみひも」を学ぶ旅に出かけた。三重大学から留学生も含めて10名が参加し、伝統産業の厳しい現状や課題、近年の新たな動き、今後の展望などについて、体験も交えて学修した。

「伊勢型紙」は、鈴鹿市伝統産業会館を訪問し、林理事長から伊勢型紙の歴史や現在の状況についてお話を聞いた後、実際の型紙用の和紙を使った葉の型抜き体験をした。



「伊賀くみひも」は、伊賀伝統伝承館伊賀くみひも組匠の里を訪問し、伊賀くみひもの第一人者にお話を聞き、キーホルダーやプレスレットの制作を体験した。

制作体験では、最初は少し苦勞していたが慣れるとスピードアップして、インストラクターの方からお褒めの言葉をいただいた。



平成 31 年 3 月 4 日 (月)

### <#4：津周辺の先進的取組み>

第4回は津周辺で興りつつある地域イノベーションの現場を訪問した。三重大学8名、皇学館大学3名の11名が参加した。

午前中は株式会社浅井農園と、事業協働機関である辻製油株式会社が運営する「うれし野アグリ」を訪問し、株式会社浅井農園の浅井社長からミニトマトをはじめとした高付加価値な農業に関してご説明いただき、木質バイオマスを活用したハウス栽培の現地見学をした。



午後は三重県動物愛護推進センター「あすまいる」を訪問し、県として進めている愛玩動物の譲渡活動についてご説明いただいた。近年、動物愛護法改正に伴い殺処分を減らし譲渡を進める取組みが官民連携で進められており、三重モデルとして全国的に注目を集めている。また県民の健康福祉や情操教育・防災の面からもメリットがあると説明を受けた。



## Jobキャラバン

平成29年度に引き続き、平成30年4月20日(金)に四日市大学、4月28日(土)に三重大学、5月9日(水)に皇學館大学、6月5日(火)に鳥羽商船高等専門学校、11月8日(木)に鈴鹿大学にてJobキャラバンを開催した。平成29年度と比較すると、2つの高等教育機関で新たに実施され、三重大学以外の高等教育機関ではキャリア授業や必修授業の中に位置づけたことで、約430人が参加し、受講人数が大幅に増加した。Jobキャラバンは高等教育機関に入学したばかりの意識の高い学生を中心に、県内企業の若手社員と職業観についてざっくばらんに対話を行うことで、大学生活をどのように過ごすべきかのマインドセットを行うことや、県内企業の魅力を知ってもらうなど、県内就職率向上につなげるための取り組みである。企業、学生共に満足度も高い。平成31年度においては、三重大学もイベント以外の授業として位置づけることや、Jobキャラバンを実施する高等教育機関を増やすことも想定している。

### 三重大学会場

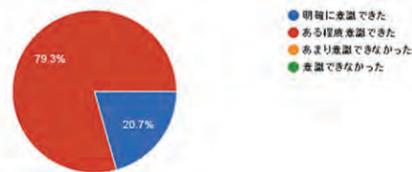
三重大学会場では県内企業等を6社招き、1社あたり5～6名程度の学生を割り当てた。企業から簡単な企業紹介があった後、学生は10分程度で様々な質問を社会人に投げかけ、時間が終わり次第、次の企業と対話をしていくスタイル。

全ての企業と対話することができるため、特定の業種の考え方に縛られることなく、幅広く社会人の考え方を吸収できるところが特徴。三重大学生の他、三重短期大学生、四日市大学生も参加し、アンケートを実施した結果、約97%が満足と回答した。

### 【アンケート結果】

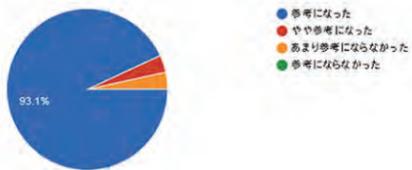
4. 学生生活で何をすべきか明確に意識できましたか。

29件の回答



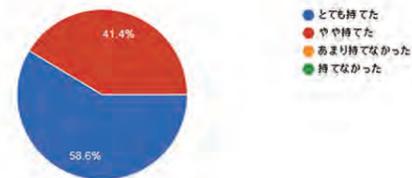
5. 今後のキャリアを考えるうえで、参考になりましたか。

29件の回答



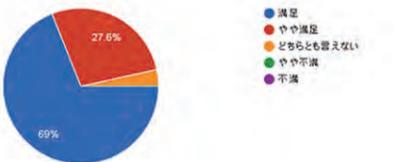
9. 地域で働くことに興味は持てましたか。

29件の回答



10. 今回のJobキャラバンについて、総合的にどのくらい満足していますか。

29件の回答



### 【参加企業等】

(株)百五銀行、三重交通(株)、(株)マサヤグループ  
本社、中外医薬生産(株)、日本土建(株)、三重県



▲三重大学の様子

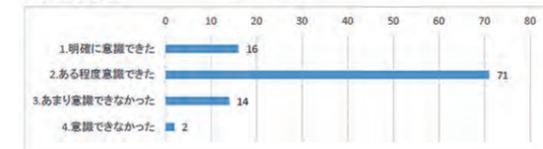
### 四日市大会場

四日市大会場は、四日市大学長が担当教員となる1年生必修科目「人間たれ」に位置づけ、244名を対象に実施した。講義終了後のフリートークでも、学生が熱心に質問をする等積極的な行動も多く見られ、県内での就職を強く意識する姿が見受けられた。

### 【アンケート結果】

⑤ 学生生活で何をすべきか明確に意識できましたか。(103件の回答)

1. 明確に意識できた	16	15.5%
2. ある程度意識できた	71	68.9%
3. あまり意識できなかった	14	13.6%
4. 意識できなかった	2	1.9%



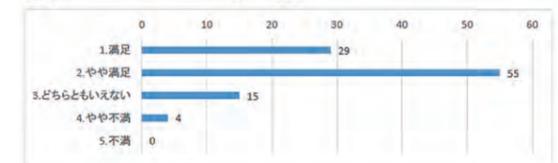
⑥ 今後のキャリアを考えるうえでの参考になりましたか。(103件の回答)

1. 参考になった	40	38.8%
2. やや参考になった	49	47.6%
3. あまり参考にならなかった	12	11.7%
4. 参考にならなかった	3	2.9%



⑧ 今回のJobキャラバンについて、総合的にどのくらい満足していますか。(103件の回答)

1. 満足	29	28.2%
2. やや満足	55	53.4%
3. どちらとも言いえない	15	14.6%
4. やや不満	4	3.9%
5. 不満	0	0.0%



⑦ 地域で働くことに興味を持ってましたか。(103件の回答)

1. とても持てた	32	31.1%
2. やや持てた	55	53.4%
3. あまり持てなかった	15	14.6%
4. 持てなかった	1	1.0%



### 【参加企業等】

四日市市、スーパーサンシ(株)、三岐鉄道(株)、(株)誠文社、長島観光開発(株)

### 皇學館大会場

皇學館大会場では、県内企業等を8社招き、初年次のゼミ授業に位置づけ実施した。1企業に対し10名程度の学生がじっくり対話する時間を設けたことで、各種話題が掘り下げられ、その企業の魅力が十分に伝わる仕組みとなった。またファシリテーターとなる各教員が学生に本授業の目的であるキャリア形成に対して気付きを与えるようにすることで、十分に教育効果も伴ったものとなった。

【アンケート結果】

Q7. 学生生活で何をすべきか明確に意識できましたか。1つ選んでください。

全体	83	
1 明確に意識できた	20	24.1%
2 ある程度意識できた	57	68.7%
3 あまり意識できなかった	6	7.2%
4 意識できなかった	0	0.0%

Q8. 今後のキャリアを考えるうえで参考になりましたか。1つ選んでください。

全体	83	
1 参考になった	52	62.7%
2 やや参考になった	29	34.9%
3 あまり参考にならなかった	2	2.4%
4 参考にならなかった	0	0.0%

Q9. 地域で働くことに興味は持てましたか。1つ選んでください。

全体	83	
1 とても持てた	36	43.4%
2 やや持てた	41	49.4%
3 あまり持てなかった	6	7.2%
4 持てなかった	0	0.0%

【参加企業等】

万協製薬(株)、(株)松阪電子計算センター、三重テレビ放送(株)、(株)伊勢萬、(株)百五銀行、(有)ぶびや、鳥羽シーサイドホテル(株)、大王運輸(株)



▲皇學館大学の様子

鳥羽商船高等専門学校会場

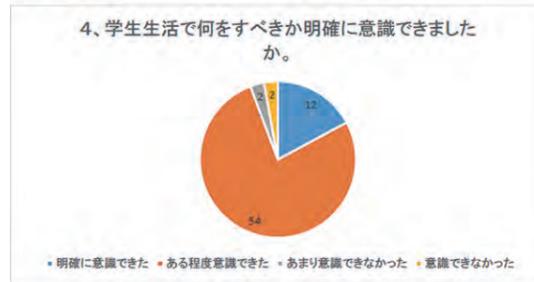
鳥羽商船高等専門学校会場では、県内企業4社を招き、電子機械工学科4年生及び制御情報工学科4年生を対象とする「キャリアデザイン」に位置づけ実施した。各企業の鳥羽商船OBの方から企業や業務紹介をしていただいたことで、高等専門学校での学びが、今の仕事のどこに繋がっているかが明確にイメージ

できるようにしたことが特徴。学生からも積極的に質問が投げかけられ、結果としても高い満足度を得ることができた。

【アンケート結果】

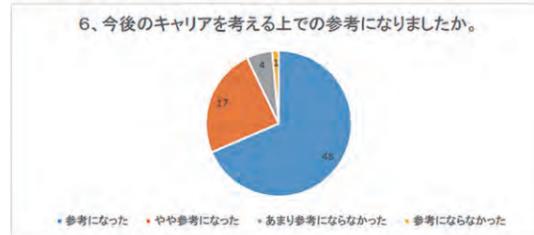
4. 学生生活で何をすべきか明確に意識できましたか。

明確に意識できた	12名	17%
ある程度意識できた	54名	77%
あまり意識できなかった	2名	3%
意識できなかった	2名	3%



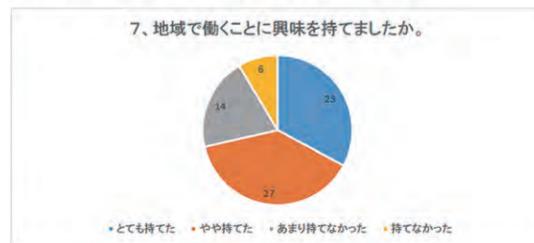
6. 今後のキャリアを考える上での参考になりましたか。

参考になった	48名	69%
やや参考になった	17名	24%
あまり参考にならなかった	4名	6%
参考にならなかった	1名	1%



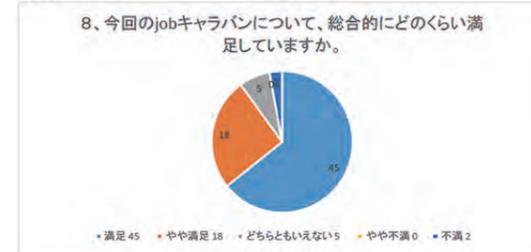
7. 地域で働くことに興味は持てましたか。

とても持てた	23名	33%
やや持てた	27名	39%
あまり持てなかった	14名	20%
持てなかった	6名	9%



8. 今回のjobキャラバンについて、総合的にどのくらい満足していますか。

満足	45名	64%
やや満足	18名	26%
どちらともいえない	5名	7%
やや不満	0名	0%
不満	2名	3%



【参加企業等】

キクカワエンタープライズ(株)、シンフォニアテクノロジー(株)、住友電装(株)、廣瀬精工(株)



▲鳥羽商船高等専門学校の様子

鈴鹿大学会場

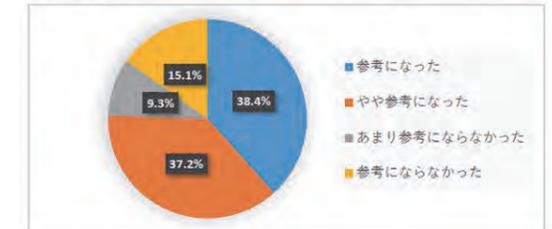
鈴鹿大学会場では、県内企業4社を招き、1年生必修授業「初年次セミナーB」、2年生必修授業「初年次セミナーII」に位置づけ実施した。留学生が多い鈴鹿大学と関わりの深い企業から、求める人材像や鈴鹿大学の卒業生・留学生の採用等について話があり、学生からも積極的に質問が飛び交った。

【アンケート結果】

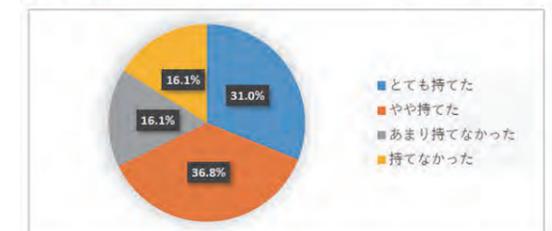
4. 学生生活で何をすべきか明確に意識できましたか。	87件の回答
明確に意識できた	25 28.7%
ある程度意識できた	39 44.8%
あまり意識できなかった	9 10.3%
意識できなかった	14 16.1%



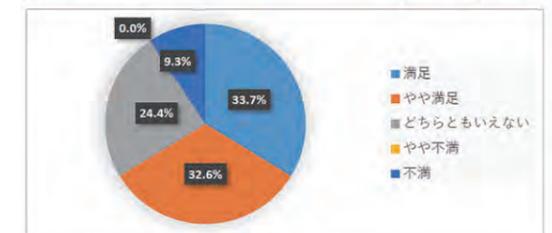
5. 今後のキャリアを考えるうえで参考になりましたか。	86件の回答
参考になった	33 38.4%
やや参考になった	32 37.2%
あまり参考にならなかった	8 9.3%
参考にならなかった	13 15.1%



7. 地域で働くことに興味は持てましたか。	87件の回答
とても持てた	27 31.0%
やや持てた	32 36.8%
あまり持てなかった	14 16.1%
持てなかった	14 16.1%



8. 今回のjobキャラバンについて、総合的にどのくらい満足していますか。	86件の回答
満足	29 33.7%
やや満足	28 32.6%
どちらともいえない	21 24.4%
やや不満	0 0.0%
不満	8 9.3%



## 【参加企業等】

(株)アクアイグニス、(株)サン・サービス、(株)サン浦島、(株)トピア、(株)アスト



▲鈴鹿大学の様子

## 学生の感想

- ・県内企業の情報や社会人の考え方を知ることができた貴重な体験でした。参加企業は初めて知る企業から大企業まで様々で、自由に質問できるので県内企業や社会人のことをガッツリ学ぶことができました。気になっていた企業の方と直接お話できたことで、就活にも役立ったので良かったです！(三重大学生)
- ・講師の方の、仕事をする上で大変なことのお話を聞いてテレビという不特定多数の人間が見る媒体で、中立を保ち、その上で重要な情報や伝えなければならない情報を取捨選択するというのはとても大変で、責任のあることだと感じました。自分の選んだ情報によって見た人の印象や考え方を変えてしまいかねないのはとても怖いと思いました。美味し国駅伝の中継も三重テレビがやっていて、地域を盛り上げるために、スポーツや地域のイベントを積極的に取材し、放送していると聞いて、地元のために何かをしようということを考えて事が無かったのもう少し自分の住んでいる地域のことを考えてみようと思いました。(皇學館大学生)
- ・地元で働きたいと思った。もっとjobキャラバンを開催してほしい。(鳥羽商船高等専門学校生)

## 高校生向け公開講座

県内就職率向上に向けた入口戦略の一環として、三重大学における高校生向け公開講座であるサマーセミナーや、三重大学オープンキャンパスなどの機会を利用し、高校生への資格啓発を行った。高校生にとって身近な存在である大学生の声が一番届きやすいと考え、三重創生ファンタジスタクラブ(P.52参照)の学生に協力を仰ぎ、高校生に三重創生ファンタジスタ資格の魅力等を伝えた。

## 三重大学サマーセミナー

平成30年8月7日(火)に『「見つけよう、自分に合った学習分野」～三重創生ファンタジスタクラブの三重大生によるプレゼン体験～』(担当教員:三重大学アドミッションセンター 宮下伊吉准教授)を実施し、三重創生ファンタジスタクラブ学生5名の協力のもと、高校生21名が受講した。冒頭では、大学生から三重創生ファンタジスタ資格や三重創生ファンタジスタクラブに関するプレゼンテーションを行い、「自分が気になったものはとりあえずやってみる。」等熱いメッセージを高校生に投げかけた。その後、大学生のファシリテートによるグループワークを行い、高校生の進路について考えるきっかけを作った。高校生の満足度は非常に高く、今後も三重創生ファンタジスタクラブの学生と共に、三重創生ファンタジスタのPRを行っていく。

## 【アンケート結果】

- 大学生の話はとても参考になった。

21人中21人とも「5点満足(15人)+4点やや満足(6人)」で平均4.7点(5点満点)

- セミナーに対する評価

21人中20人から「5点満足(11人)+4点やや満足(9人)」で平均4.4点(5点満点)

## 三重大学オープンキャンパス

平成30年8月8日(水)～8月10日(金)に開催されたオープンキャンパスにおいて、生協学生委員会が中心となる「先輩学生と語ろうブース」の中で、三重創生ファンタジスタクラブのブースを設け、高校生や保護者に対してクラブ活動や、三重創生ファンタジスタ資格の魅力を発信した。

ブースには、3日間で計25名(15組、高校生19名、保護者6名)が訪れた。



▲オープンキャンパスの様子



▲サマーセミナーの様子

## みえインターンシップフェスタ

事業協働機関である一般社団法人わくわくスイッチ主催(COC+共催)のもと、県内高等教育機関の学生を対象とした「みえインターンシップフェスタ」を2回開催し、多くの学生にインターンシップの重要性をアピールした。

### みえインターンシップフェスタ Summer

平成30年6月23日(土)に三重大学を会場に開催した本イベントは、6高等教育機関の学生109名が参加した。インターンシップ事前研修会として、インターンシップに臨む前の心構えや名刺交換の方法、正しい敬語の使い方、現場での接し方、インターンシップ体験生の発表、企業・学生との座談会等を行った。その後は希望者のみでインターンシップ見本市を実施し、実際のインターンシッププログラムを紹介するとともに、マッチングを行った。最後は企業、学生双方で感想を共有し、インターンシップの重要性、臨むべき課題解決等を学んだ。



▲みえインターンシップフェスタ Summerの様子

### みえインターンシップフェスタ Autumn

平成30年12月6日(木)に三重大学を会場に開催した本イベントは、4高等教育機関の学生9名が参加した。インターンシップの中身について深掘する対話形式をとり、その後グループワークを行い、企業・学生双方からインターンシップのあり方について検討した。また、インターンシップの受け入れ方が分からない企業に対してセミナーを行う等、県内インターンシップが充実するようなプログラムとなった。



▲みえインターンシップフェスタ Autumnの様子

## 鈴鹿大学ビジネスプランコンテスト

鈴鹿中等教育学校にて、ビジネス・イノベーション研究GLBC(グローバルリーダー・ブート・キャンプ)が開催された。このイベントは、産学官が連携して取り組む『知の探究者～World Explorer Program～「ビジネス・イノベーション研究」』の一環として行われ、「模範解答のない問いに、自分なりの答えを見つけていくことのできる人材の育成」を目的とし、地域人材の育成という観点からCOC+の事業としても鈴鹿大学が中心となり開催された。このイベントで上位獲得したチームは、MIEベンチャーサミットにも出場した。

### 若者よ、学校を飛び出せ!

三重県内から、中学生、高校生、大学生(留学生を含む)約60名が参加し、テラス株式会社中鉢慎氏によるビジネス・イノベーションについての講義を受講した。2030年の世界はどうなっているか?100年時代の人生戦略などについて、学生たちに考えさせる講義が展開され、自分の考えを持って行動し、積極的に外に飛び出すことの大切さが語られた。



▲講義の様子

### グループワークによるビジネスプランの立案

講義後、学生たちがチームに分かれて、ビジネスプランの立案を行った。学年、学校、国籍を超えたビジネスプランの立案は、学生たちの活気で満ち溢れた。



▲グループワークの様子

### 学生によるビジネスプランの発表

審査は、県内の金融機関、自治体、企業、商工会議所に在籍する6名により行われ、ビジネスの投資先として、3つの視点から評価された。

- ①事業の妥当性(実現性)
- ②新規性(優位性)
- ③社会性(地域の視点)

学生たちはチームで考案したビジネスプランを発表し、「本や文章の翻訳システム」や「学校や塾の授業動画をアニメキャラに変化」させたバーチャル授業や「悩みを解決する相談カフェ」などが高評価を得て、MIE学生ベンチャーサミット2019への参加が決まった。

学生たちにとって、学校の中では学べないことを学んで欲しいというテーマのもと、世代を超えてビジネスプランを考える良い機会となった。



▲発表の様子

## MIE学生ベンチャーサミット2019

鈴鹿中等教育学校にて、MIE 学生ベンチャーサミット2019「学生が地域で起こすイノベーション」と題して、三重県内の学生によるビジネスプランの取組事例発表を開催した。県内の大学生、高校生を中心に、鈴鹿高等学校や鈴鹿中等教育学校の学生の取組事例発表も行われた。

### Go Change! Go Innovation!!

シナプテック株式会社代表取締役 CEO 戸田達昭氏による「学生が地域で起こすイノベーション」と題した講演があり、世の中の様々な課題をどのように捉えて、解決していくか、課題の数だけチャンスがあるので、積極的に挑戦して欲しいなど、自身の体験を交えて、学生に語った。当日は、三重県内から、中学生、高校生、大学生(留学生を含む)約160名が参加し、講演内容を聞きながら、行動することの大切さ考えるきっかけとなった。



▲発表会場の様子

### 本音でディスカッション(振り返り)

イベントの最後は、学生、社会人グループに分かれて本音でトークを行った。今回のイベントの振り返りを行い、教員、社会人グループでは、学生に対して、企業家精神をどのように教育し植えつけるか、また、地域課題について学ぶことが一過性にならず、その後も学生の積極的な活動として根付いていくために必要なことは何かなど、教員が抱えている疑問や課題が共有された。

最後に、全体講評では、若い企業家を積極的に支援して行きたいと参加企業から挨拶があり、盛況のうちに終了した。



▲発表会場の様子



▲会場の様子

### ビジネスプランの・取組事例発表

講義後、学生たちが準備してきたそれぞれのビジネスプランについて発表が行われた。講演された戸田氏からは、事業性や、収益性などがどの程度あるのかという観点からの質問もあり、学生たちが事業の可能性や、目的などを質問に丁寧に答えるなど、会場は大いに盛り上がった。

## エースセミナー

県内の企業や地域で活躍する先輩社会人をゲストに迎え、仕事観やこれまでのキャリア、地域社会との繋がりなどを何うセミナーを開催した。また後半には主体性開発メソッド「タクナル」を活用したワークショップを開催し、採用時に役立つコミュニケーションの手法について学修した。

### 平成31年1月9日(水)

#### <1回目>

前半は三重テレビ放送作家および、NPO 法人サルシカ代表理事の奥田裕久氏をゲストに、三重県津市にUターンして地域おこしの活動を立ち上げるまでの経緯をご説明いただいた。後半は「タクナル」を使ったワークショップで、無人島をテーマに議論した。それぞれの思い描く無人島のイメージの違いや、そのイメージを口頭で説明する難しさを実感した。



### 平成31年1月16日(水)

#### <2回目>

前半は(株)百五総合研究所から中村哲史氏と額田夏生氏をゲストにお迎えし、地域シンクタンクとして情報面から地域振興を支える働き方についてお話しいただいた。

後半は、テーマを設けてディベートを実施した。個人の意見とは別に、賛成と反対の立場に分かれて論理的に説明するコミュニケーションの重要性について学んだ。



### 平成31年1月23日(水)

#### <3回目>

前半はJA 三重中央会から村田智広さん、(株)デンソーパワートレインテクノロジーズから中島一志氏・堂田沙樹氏にゲストにお越しいただいた。三重大卒業生として、企業や団体の中核を担う立場から後輩たちに期待することを語っていただいた。

後半は新規企画に関するグループディスカッションを実施し、実際にアイデアを実現する方法について議論した。



### 平成31年1月30日(水)

#### <4回目>

前半は三重県庁から松井未来生氏、四日市市役所から田中宏和氏をゲストに、農業振興や防災といった地域密着型の政策を実行していくための働き方についてご説明いただいた。

後半は新規企画について、その理由とともに説明し発表する機会を設けた。直観的な考えをいかに客観的な共感へと結びつけるかを学んだ。



### 学生の感想

- ・相手に比べて自分の話は回りくどくて長いと自覚した。相手が自分を見てくれないと疎外感を感じるの、自分も相手をちゃんと見て話そうと思った。
- ・他者の意見を変えるのは難しく、また議論を尽くしても言葉だけではどうしようもないところもあることが理解出来た。
- ・社会人の方と話す機会があまりないので緊張したが、話しやすい雰囲気をつくってくれたので有難かった。
- ・自分の考えを意見としてまとめるのが難しく、それを言葉にして発言するのをもっと訓練が必要だと感じた。
- ・自分が思うイメージと、他者の思うイメージの違いをそれぞれ説明するのが難しく、このような認識の違いがギャップを生むのだと感じた。

## COC+インターンシップ事業

事業協働機関へのインターンシップを促進させるために、事業協働機関である一般社団法人わくわくスイッチと連携し、事業協働機関を中心とする三重県内の企業に対してインターンシップを実施することとした。学生に対して三重県内の企業に目を向けてもらうこと、地域で働くことを実感してもらうことを目的とした。

### 事業概要

本事業は、三重県内の学生に対して、事業協働機関である企業へのインターンシップを促進させることを目的に実施した。1月中旬より大学内で説明会や授業内告知を行い、すでに、一般社団法人わくわくスイッチでインターンシップを実施している学生の協力も得て、広報を行った。

結果、三重大学生12名 事業協働機関企業7社 計32件のインターンシップの実施につなげることができた。またプログラムの対象学年を従来のインターンシップ参加層である3、4年生だけに絞らず低学年にも広げ、早い段階から地域の魅力的な企業や働き方を知ってもらうよう工夫を行った。その結果、12名中8名が1年次での参加であることは特筆すべきことである。

事前事後学修やインターンシップを通して、これからの時代のこれからの地域の働き方を考えるきっかけを提供し、キャリア観を養う機会を作ることができた。

気軽に参加できる取材型1dayインターンシップで

### 三重の企業のシゴト&働き方の魅力を感じる!

三重には85,000社も企業があるのに就活に入っても全然知られてない。地元・地域の企業の中には本当に様々な特色のある業種やおもしろそうな職種があるのに知らないなんてもったいない! 勉強・サークル・バイトなど忙しい大学生や休みに参加した若者が参加してちょいちょい自由に短時間で参加でき、かつみんなで学び合える地域理解型インターンシップを用意いたしました!!

#### 取材&見学編

地域企業の「やりがい」や「働き方」を感じてみよう!!

三重県内で事業や働き方で意欲的な取り組みをしている企業にスポットライトをあて、若者が就活時に従事している「やりがい」と「はたらくやすさ」の観点から魅力を深掘りするツアーを開催。従来のバスツアーでは、実現できない少人数&コーディネーター同行の取材型インターンシップです。

#### 地域を業種から見よう!

1日で三重県の主要な産業である「ものづくり・食と観光・生活サポート」を3つ回り、みえのシゴトをマクロな視点で業種から理解する。

**食観光** **生活サポート** **ものづくり**

#### シゴト&働き方の魅力的な企業

<b>テーマ別魅力企業</b> 若手&女性活躍 クロージング イベント企画 若手企業の現況 面白い仕組みの会社 メディアが取り上げる ぶっ飛び企業	<b>表彰も認定企業</b> おもてなし経営企業 いきいき働いている 三重ブランド 若手&学生が憧れを抱いている 地方の中小企業の印象を変え、意識を高める
--	--

見る → 出会う → つながる → 踏み出す

### 1日で三重の業種を体感できる取材型インターン

1日で三重県の主要な産業である「ものづくり・食と観光・生活サポート」を3つ回り、みえのシゴトをマクロな視点で業種から理解する。従来のバスツアーでは、実現できない少人数&コーディネーター同行の取材型インターンシップです。

**特徴①**

マクロで捉える  
特定の業種だけでなく、複数の業種をまとめて見学することによって、地域の産業を俯瞰してみることができる。自分に興味のない業種にもアプローチする。

**特徴②**

取材型で主体的に  
事前面談でインターンシップに臨む目的を明確にし、研修・取材・発表など主体性を発揮する為の工夫やワークショップを取り入れる。

**特徴③**

少人数制で実施  
大人数で実施するバスツアーなどと違い一人ひとりが取材や発表など役割が与えられるため意欲や学習成果の向上が期待できます。

**特徴④**

コーディネーターのサポート  
企業と学生のマッチングや見学・取材時に適切なフォローを実施いたします。

#### プログラムの流れ

事前研修 地域の中小企業の業種・職種のレクチャー マナー研修 インタビュー研修	午前 食と観光 90分	午後1 生活サポート 90分	午後2 ものづくり 90分	事後研修 他の学生が回った企業の話や違う視覚や感想を共有することにより学びが深まる
5分 オリエンテーション 担当教員挨拶 概要説明	25分 社内見学 仕事観察	25分 社長or幹部 取材	25分 社員取材	10分 まとめ 振り返りシート記入 挨拶

※見学する業種の情報は、企業の状況や地理的な要因も踏まえ、コーディネーターが判断いたします。

企業にとっては、採用視点でPRの練習になり、学生からフィードバックを受けられる

▲インターンプログラム概要

説明会・広報

広報に関しては下記チラシを作成し、大学内で説明会や告知を行った。



● 学内説明会・授業内告知			
場所	日程	概要	周知人数
三重大学	2019/01/11	学内説明会	3
三重大学	2019/01/16	学内説明会	2
三重大学	2019/01/23	授業内告知	56
三重大学	2019/01/24	学内説明会	1
三重大学	2019/01/24	授業内告知	14
三重大学	2019/01/25	授業内告知	27
三重大学	2019/01/25	授業内告知	50
三重大学	2019/01/30	授業内告知	120
三重大学	2019/02/01	授業内告知	50
		合計	323

事前事後学修

2月12日、13日にじばさん三重及び、鈴鹿青少年センターで一泊二日の事前学修を実施した。また、3月15日にじばさん三重で事後学修を実施した。

事前学修1日目(2月12日)

	開始	終了	時間	プログラム内容
	9:00	9:50	0:50	準備
	9:50	10:00	0:10	受付
1	10:00	10:10	0:10	マイキャリアラボオリエン
2	10:10	10:30	0:20	アイスブレイク(ペーパータワー)
3	10:30	11:00	0:30	全体自己紹介
4	11:00	11:05	0:05	休憩5分
5	11:05	11:30	0:25	キャリアセミナー: Dream Agent 代表白木
6	11:30	12:00	0:30	キャリア: ワークショップ
7	12:00	13:00	1:00	休憩1時間
8	13:00	13:20	0:20	アイスブレイク(ハイタッチ自己紹介)
9	13:20	13:50	0:30	インターンの心構え
10	13:50	14:20	0:30	ビジネスマナー研修
11	14:20	15:20	1:00	現状調査
12	15:20	15:40	0:20	全体シェア
13	15:40	16:00	0:20	振り返り
17	16:00	17:50	1:50	移動
18	17:50	18:00	0:10	オリエン
19	18:00	18:30	0:30	荷物置き・移動
20	18:30	19:30	1:00	食事(メンター打ち合わせ)
21	19:30	21:00	1:30	Grow&Leap セミナー
22	21:00	22:00	1:00	お風呂
23	22:00	0:00	2:00	フリートークタイム
24	0:00	6:30	6:30	就寝

事前学修2日目(2月13日)

	開始	終了	時間	グローバル	戦略的就活
1	7:00	7:30	0:30		起床・準備
2	7:30	8:30	1:00		食事(メンター打ち合わせ)
3	8:30	9:30	1:00		片付け・移動
4	9:30	12:00	2:30	ワーク①: Active book dialog ライフシフト漫画版	
5	12:00	13:00	1:00		食事(メンター打ち合わせ)
6	13:00	14:40	1:40	【コース別①】アウトプット: グローカルインターンのプロジェクトに対する具体的な提案	【コース別①】アウトプット: 逆指名求人想定して、3分間プレゼンテーション2分質疑応答
7	14:40	15:00	0:20		休憩
8	15:00	16:30	1:30	【コース別②】続き	【コース別②】続き
9	16:30	16:40	0:10		休憩
10	16:40	17:30	0:50		振り返り・目標設定
11	17:30	-	-		終了・解散

事後学修3日目(3月15日)

	開始	終了	時間	全体
	9:00	9:20	0:20	■会場設営&準備
	9:20	10:00	0:40	■スタッフ集合、事前打ち合わせ
1	10:00	10:10	0:10	■導入&アイスブレイク
2	10:10	12:00	1:50	■プレゼンテーション作りこみ
3	12:00	12:45	0:45	■昼食
4	12:45	14:45	2:00	■プレゼンテーションのブラッシュアップ
5	14:45	15:00	0:15	■受付※企業様
6	15:00	15:15	0:15	■導入、挨拶、アイスブレイク
7	15:15	16:05	0:50	■企業様合同の振り返りワークショップ
8	16:05	17:35	1:30	■修了プレゼンテーション
9	17:35	17:45	0:10	■目標設定
10	17:45	17:55	0:10	■感想共有、縮めの挨拶、写真撮影

実施報告

三重大学生が7日間で12名参加。COC+事業協働機関へは8社計32件実施した。以下がその一覧である。COC+事業協働機関は黄色で示してある。

2月14日(木)				
企業名				
午前	ICDAホールディングス株式会社			
午後①	株式会社郷土活性化			
午後②	中外医薬生産株式会社			
学生	大学	学部	学年	氏名
学生①	三重大学	二学部	1年	
学生②	三重大学	人文学部	3年	
学生③				

2月15日(金)				
企業名				
午前	株式会社浅井農園			
午後①	株式会社光機械製作所			
午後②	万協製菓株式会社			
学生	大学	学部	学年	氏名
学生①	三重大学	二学部	1年	
学生②	三重大学	生物資源学部	1年	
学生③				

2月18日(月)				
企業名				
午前	中外医薬生産株式会社			
午後①	野呂食品株式会社			
午後②	株式会社東産業			
学生	大学	学部	学年	氏名
学生①	三重大学	人文学部	3年	
学生②	三重大学	二学部	1年	
学生③				

2月19日(火)				
企業名				
午前	万協製菓株式会社			
午後①	株式会社ポモナファーム			
午後②	露工業株式会社			
学生	大学	学部	学年	氏名
学生①	三重大学	生物資源学部	3年生	
学生②	三重大学	二学部	1年生	
学生③				

2月20日(水)				
企業名				
午前	株式会社アーリーバード			
午後①	万協製菓株式会社			
午後②	株式会社松阪電子計算センター			
学生	大学	学部	学年	氏名
学生①	三重大学	生物資源学部	1年	
学生②	三重大学	二学部	1年	
学生③				

2月21日(木)				
企業名				
午前	ICDAホールディングス株式会社			
午後①	株式会社浅井農園			
午後②	大起産業株式会社			
学生	大学	学部	学年	氏名
学生①	三重大学	生物資源学部	3年生	
学生②	三重大学	二学部	1年生	
学生③				

3月20日(水)				
企業名				
午前	三重テレビ放送株式会社			
午後①	株式会社佐野テック			
午後②	株式会社ドリームエージェンツ			
午後③	一般社団法人わくわくスイッチ			
学生	大学	学部	学年	氏名
学生①	三重大学	人文学部	3年生	
学生②	三重大学	生物資源学部	1年生	
学生③	三重大学	生物資源学部	1年生	
学生④	三重大学	生物資源学部	1年生	
学生⑤	三重大学	人文学部	1年生	
学生⑥				

## インターンシップ実施内容例

以下は事業協働機関の企業4社分のレポートである。

**中外医薬生産株式会社** 社員数 100名 創設年 1970年



**3つの魅力**

- ①新人教育が手厚い  
新入社員も上司に気軽に聞ける環境がある
- ②常にチャレンジ  
創業100年という長い歴史がある中にも、若手社員を中心とした会社づくりがあり、伝統と新しい風の間方を兼ね備えている
- ③半数以上を占める女性社員  
女性が多いことで働きやすい環境となっている

気づき  
学び ジェネレーションギャップ

**ICDAホールディングス株式会社** 社員数 100名 創設年 1980年



**3つの魅力**

- ①密な対話によってお客様の隠れた要望を見抜く  
お客様と真摯に向き合うことで「本当はどうなのか」という部分を聞き出すことができる。満足感→課題解決→お客様の喜び
- ②業務は進めど連携プレー  
お客様の要望のためにかかせない、営業・技術者・カスタマースタッフ間の連携が深い
- ③バリューチェーンクロスミックス  
お客様を取り巻くサービスや従業員、公共性や環境への配慮のすべてがつながり交差している

気づき  
学び お客様を一番に考えている 販売から廃棄までの流れを可視化 大きな買い物だから信頼が大切

**光機械製作所** 社員数 50名 創設年 1960年



**3つの魅力**

- ①女性に配慮した働き方  
女社長ということもあり、女性のワークライフバランスが考えられている
- ②グローバルな販売戦略  
取引先の8割は海外で、韓国やタイ、フィリピンなどが相手国。
- ③人材育成に力を入れている  
チームワークについての研修や観望講座などが社内のワークショップとして行われている。

気づき  
学び 女性がキャリアを歩んでいく特にワークライフバランスを考えられる

**万協製菓株式会社** 社員数 100名 創設年 1950年



**3つの魅力**

- ①カリスマ社長  
絶対的なカリスマ社長の存在。この人のもとで働きたいという思い
- ②社員の積極性を生かすような組織づくり  
社長直行便などのアイデア出しや社員間の旅行など社員の積極性を重んじる。
- ③顧客満足度の高い製品づくり  
品質への取り組みとそれを形に表す

気づき  
学び 社員全員が主体性を持てるような人材育成や、それぞれがやりがいを感じられるような仕組みづくりが行われている

## 学生の声 (一部抜粋)

- ・これまでに1dayのインターンはいくつか経験したことがあったがどれも受動的なもので満足したことはなかった。しかし、今回は話を聞き出すために能動的になり、足りてない部分にフィードバックの時間を与えてくれたことで、もやもやしていた部分に気づきを与えていただけてよかったと思う。
- ・インターンシップに参加するはじめての一步にうってつけだと思いました。次あったらもっと会社のことを調べて、より深掘りできるようにしたいです。
- ・今までに行ったことのない業界の企業の話聞いて、自分の知らない内容が知る事ができて勉強になった。
- ・企業説明会というよりも、企業で働く社員さんや社長さんの生き方、人生設計や格言をもらえたので大変満足である。

## 事業の成果

学生の声にもあるように、受動的なものではなく、能動的に学生がインターンシップを通じて、県内企業のことを学ぶなど、得られるものが多くあった。

コーディネーターが、インターンシップに参加した学生と企業等の間をつなぐことで、双方のサポートが出来た。また、学生に対してインターンシップ前後の研修を実施し、事前のインターンシップへの心構えや、事後の振り返りと今後の目標設定などを助けることで、学生の学びをトータルでサポートできた。

## 三重大学地域拠点サテライト

「地域拠点サテライト」では、県内全域を三重大学の教育研究フィールドと位置付け、多様な地域特性を有する4つの地域サテライト(伊賀サテライト、東紀州サテライト、伊勢志摩サテライト、北勢サテライト)を展開している。各地域サテライトにおいては、自治体・教育機関等との連携および協力をもとに、特色豊かな活動拠点が置かれ、教員や学生がフィールドワーク等の実践的な教育研究活動を行っている。

また、これら4つの地域サテライトが地元企業や自治体と大学を繋ぐハブ機能としての役割を担うことで、地域課題の発見・共有、共同研究・共同プロジェクト等を通じた課題解決等に全学的に取り組みながら、三重大学の教育研究力の向上に加え、地域創生や地域の人材育成に貢献している。

### 伊賀サテライト実績

- ・地域社会に対する研究成果の還元を目指して、「伊賀忍者忍術学講座」「伊賀古文書講座」を開催した。
- ・伊賀地区中小企業との共同研究増加、伊賀市・名張市との自治体プロジェクト増加に向けて以下のセミナー等を開催した。  
▽9月3日「平成30年度第1回環境農林水産フォーラム」  
▽2月5日「産学官連携セミナーin伊賀」

### 東紀州サテライト実績

- ・地域の将来を担う基幹人材(企業人材、行政人材)の育成に向けて、「紀北町チャレンジプラス事業」「紀北町まちおこし次世代育成事業」「大台創生塾」「紀宝町元気塾」が自治体主催で実施されており、それぞれ講師として参画した。
- ・関係自治体・市民を対象に、三重大学の活動への理解促進、更なる連携の増加、研究成果の還元を目的として以下のセミナー等を開催した。  
▽12月14日「ICTを活用した林業活性化構想について」(セミナー)  
▽12月17日、1月28日、3月17日「天満荘セミナーよるしゃべ」(セミナー)  
▽2月15日「2018年度東紀州産業振興学舎地域連携事業報告会」
- ・東紀州地域の小学校14校に延べ40回、中学校4校に延べ5回、市町教育委員会に延べ65回訪問し、本学教職大学院の長期実習受け入れや、平成30年度より始まった南部地域での教育実習の実施等、教育学部にとって重要な実習のスムーズな実施に向けた環境整備を行い、教育人材育成に貢献した。

### 伊勢志摩サテライト実績

- ・伊勢志摩地区の行政職員及び本学職員の人材育成と官学連携の基盤強化を目的とした「伊勢志摩サテライト交流会」(テーマ別研修会)を開催した。
- ・「海女」に関する歴史や民俗、水産、絵画・映像など多様な観点から三重大学の研究成果を紹介する海女学講座を開催した。
- ・南伊勢町の将来を牽引する若手人材を養成することを目的とした「南伊勢まちづくりリーダー研修」に、コーディネーターとして参画した。
- ・産学官連携、研究成果の社会還元を目的に、以下のセミナー等を開催した。  
▽3月1日「平成30年度第2回環境農林水産フォーラムin鳥羽」

### 北勢サテライト実績

- ・平成31年2月1日に北勢サテライト知的イノベーション研究センターを設置した。産学官連携を通じたSociety5.0・SDGsの実現を目指す地域産業の成長に寄与するため、多面的な視点から課題を発見し、異分野融合により解決方法を見出し、成果の社会実装を推進することを目的とする。
- ・また、地域課題解決やSociety5.0・SDGsの実現支援のため、幅広い方を対象にした専門的な議論を展開する各種研究会を順次設置予定であり、平成30年度は2つの研究会を設置した。平成31年2月8日・3月8日にSDGs研究会、3月1日に健康福祉システム開発研究会を実施し、自治体職員、一般企業等職員、三重大学の教員や学生等、延べ64名の参加があった。



▲開所式の写真

### 伊賀サテライト

Iga Regional Satellite Campus

担当エリア 名張市、伊賀市

伊賀サテライトの目標(旗)  
固有文化と地域資源の活用で地域再生に寄与する拠点

具体的活動内容  
忍等々の歴史・文化、医薬品企業との連携、森林資源の活用等

### 北勢サテライト

Hokusei Regional Satellite Campus

担当エリア 四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曽岬町、東員町、菟野町、朝日町、川越町

北勢サテライトの目標(旗)  
日本のモノづくりの神髄を体感し富を生み出す拠点

具体的活動内容  
自動車、石油化学、食品化学企業等との産学連携事業、企業人材のリカレント教育、モノづくり企業との連携による学生・若手教員の育成等

### 東紀州サテライト

Higashi-Kishu Regional Satellite Campus

担当エリア 尾鷲市、熊野市、大台町、大紀町、紀北町、御浜町、紀宝町

東紀州サテライトの目標(旗)  
地域資源で富を生み力強い子供が育つことを支える拠点

具体的活動内容  
へき地教育、水産増養殖・加工業との連携、森林資源や観光資源の活用等

### 伊勢志摩サテライト

Ise-Shima Regional Satellite Campus

担当エリア 伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、南伊勢町

伊勢志摩サテライトの目標(旗)  
歴史ある自然との共生・共存の思想を世界に発信する拠点

具体的活動内容  
食と観光産業による地域創生の研究(歴史文化の交流、海女文化、水産資源の活性化、食品の6次産業化、観光資源の活用など)、地域人材の育成等

## 県内就職率向上のための様々な取組

平成 27 年度から、三重大学長が三重創生ファンタジスタ資格、インターンシップ、共同研究等について対話をするため、県内企業・団体への訪問を行っている。また、学生に三重県内の様々な地域や企業を知ってもらうため、三重大学キャリア支援センターが主となって様々な取組を実施した。

### 三重大学長による県内企業訪問

平成 27 年度から平成 30 年度までに延べ 248 の企業、団体を、COC+ 校である三重大学の学長が訪問し、三重創生ファンタジスタ資格の啓発等を行うことで、県内企業の三重創生ファンタジスタ資格への理解をより深めることに繋がった。

### 企業説明会&マッチング会

平成 30 年 9 月 26 日(水)、学生と企業がゆっくりと対話できる「企業説明会&マッチング会」を開催し、学生 12 名、県内企業 10 社が参加した。学生からは「企業の方とじっくりお話をすることができたので、有意義な時間だった」「三重県の企業の魅力を知ることができてよかった」等の声があった。



当日の詳細はこちら



### 三重県内企業研究会

三重県の魅力的な優良企業を発見できる!

# 三重県内企業研究会

50社

日程 11/28(水) 13:00▶16:10

場所 講堂(三環ホール)

対象 1~3年生、修士1年生

申込 ユニ/就職支援メニューより参加登録を。  
※締切11/16(金)

服装 私服(首飾物でかまいません)

主催 キャリア支援センター(就職支援チーム)

問い合わせ先 059-231-9810

### 三重県内企業研究会

■三重県内企業研究会

日 時: 平成30年11月28日(水) 13:00~16:10

目 的: 三重県内の優良企業(本社・事業所含む)による企業研究会を開催することにより、地元企業の理解を深める。

内 容: 各社のPRタイム、企業説明20分×4回(ターム制)

参 加: 256名

プレミアムエースセミナー

これからの自身のキャリアを考える。就職活動を向かえる前に若手社員(OBOG)の話を聞こう!

### 就職ガイダンス プレミアムエースセミナー

企業若手社員によるトークイベント  
-就職活動について-  
-学生から社会人になって-

■参加企業(予定)7社  
住友電装株式会社/太陽化学株式会社  
井村屋グループ株式会社  
三交不動産株式会社/株式会社三重銀行  
ジャパンマテリアル株式会社  
全国農業協同組合連合会三重本部

開催日時:12月19日(水) 16:30-18:00  
開催場所:環境・情報科学館(メール館)  
参加対象:1年・3年の全学部および修士1年  
参加申込:ユニバ「就職支援」メニューより事前登録  
12/5(水)受付締切

問い合わせ先:099-231-9810(就職支援チーム)

食品業界研究会

平成31年2月13日(水)、「食品業界研究会」を開催し、学生51名、企業7社が参加した。参加企業のPRの後にポスターセッションを行い、通常の企業説明会よりも近い距離で話すことができ、参加学生が積極的に質問する様子が見られた。



学内企業説明会

平成31年3月4日(月)~7日(木)に学内企業説明会を開催し、学生延べ3,477名、企業600社(うち県内108社)が参加した。

2020年卒対象 三重大

## 学内企業説明会

第1部/10:00~12:50  
第2部/14:00~16:50

優良企業  
600社が  
三重大に集合!!

午前の部、午後の部合わせて  
毎日150社が参加!!

3/4(月)  
3/5(火)  
3/6(水)  
3/7(木)

未来へのスタート

当日の詳細はこちら



### 就職ガイダンス プレミアムエースセミナー

日 時:平成30年12月19日(水)16:30-18:00  
目 的:三重県内に本社を置く優良企業の就業説明とともに、若手社員よりパネルディスカッションにて社会人になってどうかを伝えてもらう。  
先輩がどう就職活動をして、志望企業に入り、現在どう仕事と向き合っているのを知ってもらい、自身の就職活動に備える。

内 容:企業プレゼン、パネルディスカッション、質疑応答  
参 加:35名(人文15名、教育1名、工学5名、生物資源14名)

■アンケート結果

【学生より】  
・若手社員ならではの話を赤塚さんに聞くことができた。  
・さまざまな業界を比べるような話を聞くことができた。  
・7社という多くはない数だったが、詳しく聞くにはちょうどよかった。  
・その会社ごとの特徴やいいところをわかりやすく書いてあったのが良かった。  
・OBOGの話が聞ける貴重な経験だった。

### ■ガイダンスの様子

■まとめ  
各企業に事前にプレゼン、ディスカッションテーマに対する準備をしていただいたことで、スケジュールが滞ることなく進んだ。当日は参加学生からの積極的な質問が複数あり、若手社員からぶっちゃけたトークをもらったことにより全体として盛り上がった。またガイダンス終了後、個人が関心のある企業へ質問に行く姿が多数見受けられ、参加した学生には有益な就職ガイダンスとなった。

中小企業との共同研究スタートアップ促進事業・地域貢献活動支援事業

三重大では中小企業との共同研究の促進や地域貢献活動の創造及び推進を目的に助成支援を行っており、平成30年度は48の共同研究及び41の地域貢献活動に対して支援を行った。

平成30年度 中小企業との共同研究スタートアップ促進事業審査結果及び採択一覧

番号	申請者 所属	申請区分	研究題目
1	人文学部	継続	三重県内の中小企業の異業種交流を通じた経営者の経営能力の向上とその支援方法についての研究
2	教育学部	継続	簡易人型ロボットと3Dプリンタのプログラミング教育への応用
3	教育学部	継続	食品用乳酸菌製剤の製造技術の確立
4	教育学部	新規	観光交流拠点施設のネットワーク構築による広域的観光商品の開発
5	教育学部	新規	ヒノキ等森林資源からのアロマオイル抽出とその成分分析
6	医学部	継続	羽毛原料の安全性品質評価技術の開発
7	工学研究科	継続	自動車用エアロパーツの開発
8	工学研究科	継続	高耐久性コリリトフリー型温度インジケータの開発
9	工学研究科	継続	PTFE平膜を用いる膜分離活性汚泥法における膜表面劣化の改善
10	工学研究科	継続	アルミ電解コンデンサ用高機能二塩基酸の耐熱安定性の向上
11	工学研究科	継続	宿泊施設の厨房の業務効率化と災害時安全性確保に関する実践的研究
12	工学研究科	新規	工場内ロボットシステムの故障診断システムの調査及び診断アルゴリズムの開発
13	工学研究科	新規	炭素繊維強化複合材料(CFRP)を対象とした切り粉レスな穴あけ加工方法の開発
14	工学研究科	新規	土壌浸潤ろ過を用いる簡便な尿処理法の開発に関する研究
15	工学研究科	新規	表面プラズモンセンサーを用いた屈折率計の作製に関する研究
16	工学研究科	新規	ローソク素材の評価
17	工学研究科	新規	ダイマー酸の還元によるダイマーゼオール合成法の開発
18	工学研究科	新規	プラスチックマグネットの最適化・高品質化に関する調査研究
19	生物資源学研究科	継続	山間地域を活性化させるためのニュータイプキノコの開発
20	生物資源学研究科	継続	ショウガ・ゆず等地域資源作物抽出物の肥満の改善・予防に関する機能性評価
21	生物資源学研究科	継続	特異な食品加工工場残渣(高糖度・酸性廃シロップ処理液)のバイオガス化による工場循環型エネルギーシステムの構築
22	生物資源学研究科	継続	木質系バイオマス組成分析のための標準木粉の開発
23	生物資源学研究科	継続	高周波併用フリーズドライ法における農産物の乾燥・殺菌同時処理に関する基礎研究
24	生物資源学研究科	継続	プリ醤油の抗肥満効果をはじめとした生体調節作用に関する研究
25	生物資源学研究科	継続	高採算性生薬原料栽培事業の構築を目指した生薬原料の用途拡充の検討
26	生物資源学研究科	継続	羽毛原料中に棲息する微生物叢解析および検査技術の開発
27	生物資源学研究科	新規	柑橘類の有機無農薬栽培指針の確立
28	生物資源学研究科	新規	松阪市旭野地区における枝豆栽培体系の確立
29	生物資源学研究科	新規	附帯施設演習林のスギを用いた三重大ブランド商品の開発
30	生物資源学研究科	新規	1次使用済みバッテリー-補完直流太陽光発電システムによる小型空調スペースの構築
31	生物資源学研究科	新規	地域資源作物抽出物の機能性に対するレスチン等の増強効果
32	生物資源学研究科	新規	水産加工機械および加工ラインの洗浄効率向上
33	生物資源学研究科	新規	完全閉鎖型植物工場で栽培されるリーフレタス'フリリアイス'の収量および品質を向上させる専用培養液の開発
34	生物資源学研究科	新規	飼料用イネの品質向上に向けた生産体系の構築
35	生物資源学研究科	新規	有用微生物を活用した次世代型農業技術開発における分析・評価手法の確立
36	生物資源学研究科	新規	養殖用ウナギ飼料への椎茸栽培廃菌床添加効果に関する研究
37	地域イノベーション学研究科	継続	老朽化が進む公共施設の保守従事者の作業環境改善と安心感を提供する太陽光利用照明システム
38	地域イノベーション学研究科	継続	生産現場および市場が求めるアブラナ科野菜品種に有用な分子育種手法の開発
39	地域イノベーション学研究科	継続	分散系スキニング製剤の品質データベース構築のための定量評価技術の確立
40	地域イノベーション学研究科	新規	自社製品(電動機応用)の技術を活用したマイクロ水力発電市場への新事業展開
41	地域イノベーション学研究科	新規	無欠陥SiC表面処理法の開発とそのSiC上への高品質AINテンプレート作製
42	教養教育機構	継続	多言語作業マニュアルの作成と活用: 接客場面における情報共有とリスク回避のためのコミュニケーション行動調査
43	教養教育機構	継続	DCブラシレスモーターの低速回転域で発生する騒音の評価と対策
44	地域イノベーション推進機構	継続	時空間データベースとAR空間を連携させた防災・減災ツールの開発研究
45	地域イノベーション推進機構	継続	トマトの果実内発芽の原因遺伝子の同定
46	地域イノベーション推進機構	新規	土壌改良資材の投入による畑作物生長・堆肥熟成促進効果の検証と微生物叢を含む土壌環境の変動
47	地域イノベーション推進機構	新規	フォトバイオリクターによる海産藻類上養殖技術の開発
48	地域拠点サテライト	新規	水耕栽培植物工場の環境調査・研究(水質、細菌、温度計測等)

平成30年度 地域貢献活動支援事業採択一覧

申請者		活動テーマ
番号	所属	
1	人文学部	海女漁村の歴史的子文書の調査研究～志摩市越前郷蔵文書の文化財指定に向けて～
2	人文学部	エコフィールドの利活用による地域産物・産品の振興
3	教育学部	東紀州地域の星空の観光資源化(神々が愛した星空発信プロジェクト)
4	教育学部	三重県産, 科学技術に関わる地域人材を育成する産学官連携プログラムの実施
5	教育学部	「論理的思考能力を育成するプログラミング学習の教材開発と東紀州地域での支援活動」
6	教育学部	三重大学隣接中学校区の学校園における学習及び活動支援
7	教育学部	東紀州地域における小学校外国語(英語)教育のシステム開発と支援活動
8	教育学部	科学的思考能力獲得のための高校生の探究活動の指導
9	教育学部	桑名市における不登校の未然防止の研究
10	医学系研究科	歯科のない病院における口腔ケアの現状の把握と標準化の試み
11	医学系研究科	地域社会参加型研究を通して地域の課題解決に取り組む
12	医学系研究科	地域住民の就労と治療の両立を促進するためのリテラシー教育プログラムの開発と, 地域での展開
13	医学部附属病院	まず予防! 家族で取り組む糖尿病発症予防
14	医学部・医学系研究科 (自然科学系技術部)	日常生活における身近なものと学校授業での知識をリンクさせる事の出来る科学実験
15	工学研究科	三重県員弁郡東員町 町立小・中学校および公共施設の協調的運営とその建築的整備に関する研究
16	生物資源学研究科	三重県の中大規模木造建築設計者の育成と空き家対策
17	生物資源学研究科	伊賀地域における農地地すべり懸念判断に向けた支援活動
18	地域イノベーション学研究科	伊勢市の一次産業に関する課題抽出
19	地域イノベーション学研究科	地域に根ざした人的並びに生物資源の有効活用-大台町の地域観光施設を中心拠点とした健康長寿対策に関わる人材育成・再教育の支援-
20	教養教育院	三重大学平倉演習林で採集された昆虫標本の市民によるカタログ化と成果発信
21	地域人材教育開発機構	地域日本語ボランティア教師用教材「日本語ボランティアこれだけは! (板)」の開発
22	地域人材教育開発機構	三重大学地域イノベーション推進機構先端科学研究支援センター動物実験施設と久居農林高校との実験動物飼育に関するインターンシップと校外学習の試み
23	地域イノベーション推進機構	地方自治体における防災・減災に関する地域課題解決のための活動支援
24	地域イノベーション推進機構	地域防災課題解決に向けた地域実践活動の支援
25	地域拠点サテライト	中山間地における集落機能等維持に関する調査と連携活動
26	人文学部	三重県におけるアートマネージメント養成プログラムの開発
27	教育学部	外国人児童生徒の学びの継続を目指す支援活動-キャリア形成につながる大学見学ツアーの実施-
28	医学系研究科	「地域でのアクションリサーチで, 健康増進を改善する」
29	工学研究科	光技術による産学官の連携と地域産業の振興
30	生物資源学研究科	三重大学オリジナル酒米品種「弓形珠」を活用した多気町地酒ブランド作りへの貢献
31	生物資源学研究科	東紀州サテライトを拠点とした地域プロジェクト型インターンシッププログラムの開発
32	生物資源学研究科	東紀州におけるICTを活用した科学的組織栽培支援
33	生物資源学研究科	宮川用水のバイパス内のタイワンシジミ詰まり問題解決に向けて
34	生物資源学研究科	津のお米の味と品質を豊付ける生育診断・環境評価手法の開発と実践
35	生物資源学研究科	地域の農業水利施設管理の高度化と標準化言語を利用した汎用化
36	生物資源学研究科	志摩の里海と海女文化を支える種根資源の増殖のための取り組み
37	地域拠点サテライト	東紀州サテライトを拠点とした奥野地域の小中高の児童・生徒に対する「木育」プログラムの開発と実施
38	教育学部	津市における「子どもの体力・運動能力向上のための推進活動」と「教員の学びの支援ネットワークの構築」
39	工学研究科	「伊勢河崎商人館」における展示計画を通じた景観まちづくり活動の推進
40	生物資源学研究科	三重県のセルロースナノファイバー(CNF)事業の活性化支援
41	生物資源学研究科	地元テレビ局や気象予報士との協働による三重の「気象力」向上プロジェクト

平成30年度  
高等教育コンソーシアムみえ  
(COC+事業の継続性)

## 高等教育コンソーシアムみえの実施会議

### ●総会

事業計画や予算、決算、規約の改廃、役員を選出などに関すること。

その他運営に関する重要な事項並びに三重県の高等教育のあり方、将来像等についての検討に関すること。

＜構成メンバー＞平成 30 年度 各構成機関の長

三重大学	四日市大学	皇學館大学
鈴鹿大学	鈴鹿医療科学大学	三重県立看護大学
四日市看護医療大学	鈴鹿大学短期大学部	三重短期大学
高田短期大学	ユマニテク短期大学	鈴鹿工業高等専門学校
鳥羽商船高等専門学校	近畿大学工業高等専門学校	三重県

### ●企画運営委員会

高等教育コンソーシアムみえの企画、運営、評価、広報に関すること。

＜構成メンバー＞平成 30 年度 県内全 14 高等教育機関と三重県の各構成機関が推薦者

### ●地域貢献部会

学生の地域活動支援に関すること。

地方創生に取り組む市町、地域の支援に関すること。

その他コンソーシアムの地域貢献に関すること。

＜構成メンバー＞平成 30 年度 県内全 14 高等教育機関と三重県の各構成機関が推薦者

## 会議の主な実績

### ●総会（平成 30 年度 6 月、3 月開催）

- ・事業計画の決定、前年度の決算の審議
- ・事務局規程の改正、受託事業規程等の制定
- ・コーディネーターの採用
- ・高等教育コンソーシアムみえへの平成 32 年度以降の自立についての協議
- ・新部会設置の提案

### ●企画運営委員会（平成 30 年度 5 月、10 月、2 月開催、臨時開催平成 30 年度 9 月、3 月）

- ・事業計画（案）の作成、決算報告（案）の作成
- ・事務局規程（案）の作成
- ・FD・SD の合同開催（案）の作成及び実施
- ・次年度の単位互換科目増加に向けた検討及び実施
- ・高等教育コンソーシアムみえへの平成 32 年度以降の自立について計画提案
- ・COC+ を高等教育コンソーシアムみえに移管するための方策を検討

### ●地域貢献部会（平成 30 年度 5 月、7 月、10 月、1 月開催）

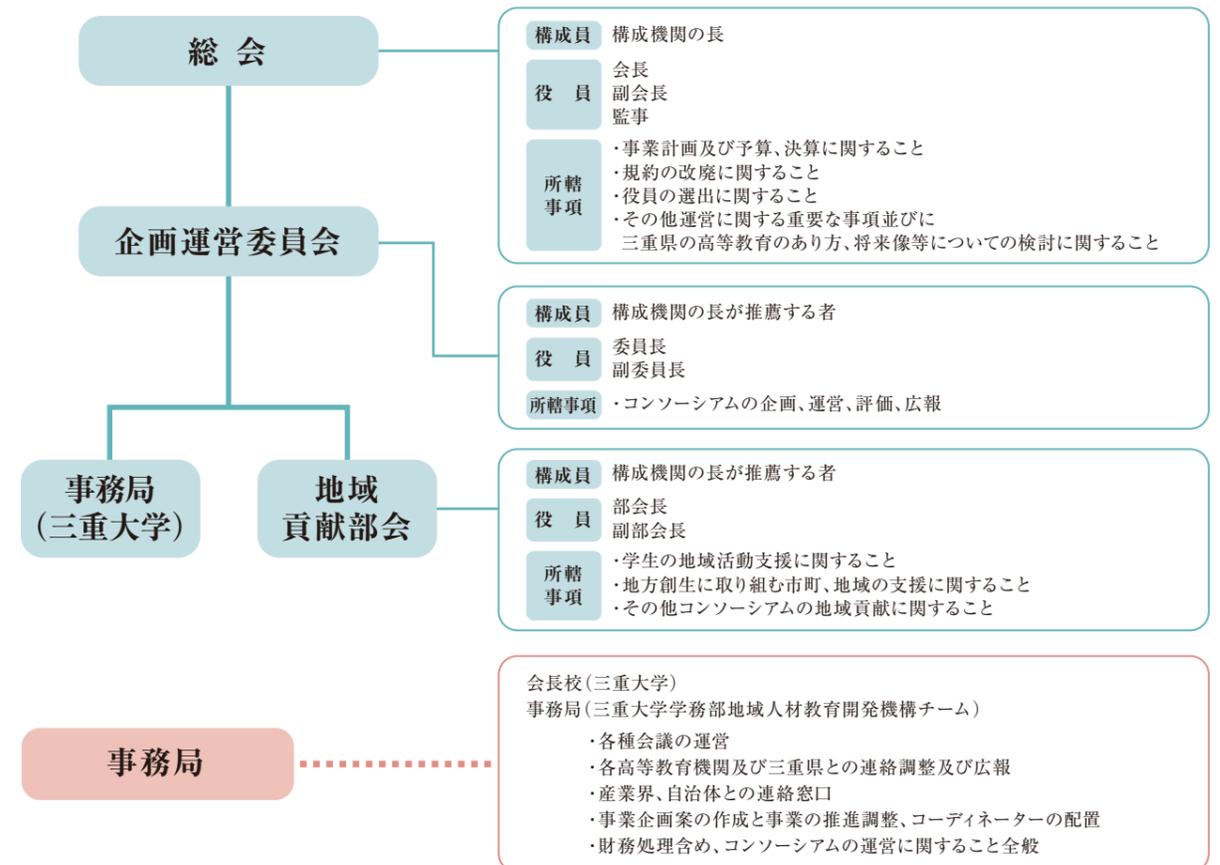
- ・前年度実施したニーズ調査の結果確認
- ・受託事業規程（案）等の作成
- ・「みえまちキャンパス」の企画及び実施
- ・三重県南部地域就職イベントの企画
- ・受託事業（鈴鹿市、南伊勢町）の進捗管理

### ●自立化検討に関する WG

WG1：高等教育機関が更なる連携を深めてコンソーシアムとして実施することの検討や各校の特色を活かしたもので合同実施できるものを協議

WG2：WG1 で協議した結果として、新たな部会の設置を提案

## 組織図



# 高等教育コンソーシアムみえ

高等教育コンソーシアムみえ(以下、「コンソーシアムみえ」と記載)は、県内全高等教育機関と三重県で構成された組織であり、平成28年3月に設立された。COC+の後継組織として位置づけられており、①三重創生ファンタジスタや単位互換協定等の教育プログラム②受託事業③企業研究会等の県内企業を知る取組④みえまちキャンパス等の地域活動支援⑤FD/SDの充実⑥コンソーシアムの情報発信を中心に運営している。

## コーディネーターの雇用

平成29年度との大きな差異は、コーディネーターの存在である。平成30年7月に地域活性化推進コーディネーターを1名雇用し、①コンソーシアムの自立化、魅力向上に向けた高等教育機関間の調整及び種々提案②県内企業及び自治体へのコンソーシアム広報及び事業受託のための情報収集③受託事業における担当教員のマッチング④コンソーシアムパンフレットの作成⑤他コンソーシアムの調査等、幅広く業務を担当した。現在、コンソーシアムのあるべき姿やCOC+補助期間終了後を見据えた検討をコーディネーターが中心に行っており、COC+継承に向けた動きはより進展している。

## コンソーシアムパンフレット

県内企業や自治体等へコンソーシアムを理解いただくことは、県内就職率向上に加え、協賛金や賛助会費獲得に向けた重要なミッションになるため、これまでの活動内容をまとめたパンフレットを作成し、⑥情報発信を行った。



## 平成30年度単位互換の実施

平成30年度は3つの高等教育機関で14授業を開放し、7高等教育機関52名の学生が他高等教育機関学生と交流することができた。

**県内高等教育機関の授業が受講できます！**

県内全ての高等教育機関と三重県で構成される高等教育コンソーシアムみえでは、平成20年に単位互換協定を締結し、各高等教育機関の授業を相互に履修できるようにしました。平成29年度は以下の14の授業を単位互換履修として実施し、52名の学生が、積極的に受講してください。なお、各授業の履修条件や履修料の状況は、各機関のホームページをご覧ください。

No.	科目名	高等教育機関	担当教員	授業形態	開講時期	履修可能人数	履修料
1	地域経済論	四日市大学	千原 繁	講義	前期	5名程度	-
2	地域経済学	四日市大学	高野 浩文	講義・実習	前期	5名程度	-
3	地方創生論	四日市大学	佐藤 真樹子	講義・実習	前期	5名程度	-
4	仏教学Ⅰ	高田短期大学	横山 正典	講義	前期	5名程度	5,000円
5	仏教学Ⅱ	高田短期大学	伊藤 智彦	講義	前期	5名程度	5,000円
6	仏教学Ⅲ	高田短期大学	伊藤 智彦	講義	後期	5名程度	5,000円
7	仏教学Ⅳ	高田短期大学	横山 正典	講義	後期	5名程度	5,000円
8	日本語理解科授業(言語の歴史と文化)	三重大	鈴木 幸子	講義	前期	5名程度	5,000円
9	現代社会理解科授業(言語の歴史)	三重大	鈴木 幸子	講義	後期	5名程度	5,000円
10	三重大(言語文化)	三重大	菅野 博二	実習	前期	20名程度	5,000円
11	現代社会理解科授業(言語の歴史)	三重大	菅野 博二	実習	前期	20名程度	5,000円
12	現代社会理解科授業(言語の歴史)	三重大	鈴木 幸子	実習	前期	20名程度	-
13	現代社会理解科授業(言語の歴史)	三重大	菅野 博二	実習	後期	20名程度	-
14	自然環境リサーチⅠ	三重大	坂本 竜彦	実習	前期	50名以内(50名程度)	-

※各授業の履修条件は各機関のホームページをご覧ください。

※履修料は各機関のホームページをご覧ください。

※単位互換履修料は各機関のホームページをご覧ください。

※単位互換履修料は各機関のホームページをご覧ください。

お問い合わせ先  
高等教育コンソーシアムみえ事務局  
三重大学学務部地域人材教育開発機構チーム 担当: 矢野・天海・杉浦  
TEL: 059-221-9949 Mail: chiiki@jinzai@ab.mie-u.ac.jp

## ▲平成30年度単位互換科目一覧

- なお、前述にある
- ②受託事業
  - ③企業研究会等の県内企業を知る取組
  - ④みえまちキャンパス等の地域活動支援
  - ⑤FD/SDの充実 については、後述する。(報告書P.87～90)

## 平成31年度単位互換の計画

平成31年度の単位互換の計画では、7高等教育機関で43授業を開放することとなり、単位互換制度を充実させることができた。今後は、学生が受講しやすい集中講義の増加や時間帯の工夫、LMSを用いた展開等、様々な手法について検討を行っていく。

**高等教育コンソーシアムみえ**

**2019年度 単位互換履修生募集**

県内全高等教育機関の学生が履修できます！

普段受講できない 県内高等教育機関の授業を履修しよう！

授業料 無料

出願方法・履修手続

- 所属学部の窓口へ所定の期間内に出願書類を提出してください。
- 開講科目シラバス・出願書類等は、WEBで確認してください。

申込受付期間

前期 2019年2月12日(火)～3月4日(月)

後期 2019年7月8日(月)～8月5日(月)

出願書類等の詳細はこちら

詳しくはWEBで!

URL: <http://conso-mie.jp/cis.html>

高等教育コンソーシアムみえ 単位互換協定参加高等教育機関

三重大 三重県立看護大学 四日市大学 日南市看護大学 桑名医療科学大学  
鈴鹿大学 彦根短期大学 三重大短期大学 鈴鹿大学短期大学部 高田短期大学 ユニコム短期大学  
鈴鹿工業高等専門学校 鳥羽短期大学 鈴鹿大学工業高等専門学校

No.	科目名	高等教育機関	担当教員	授業形態	開講時期	履修可能人数	履修料
1	地域経済論	四日市大学	千原 繁	講義	前期	5名程度	-
2	地域経済学	四日市大学	高野 浩文	講義・実習	前期	5名程度	-
3	地方創生論	四日市大学	佐藤 真樹子	講義・実習	前期	5名程度	-
4	仏教学Ⅰ	高田短期大学	横山 正典	講義	前期	5名程度	5,000円
5	仏教学Ⅱ	高田短期大学	伊藤 智彦	講義	前期	5名程度	5,000円
6	仏教学Ⅲ	高田短期大学	伊藤 智彦	講義	後期	5名程度	5,000円
7	仏教学Ⅳ	高田短期大学	横山 正典	講義	後期	5名程度	5,000円
8	日本語理解科授業(言語の歴史と文化)	三重大	鈴木 幸子	講義	前期	5名程度	5,000円
9	現代社会理解科授業(言語の歴史)	三重大	鈴木 幸子	講義	後期	5名程度	5,000円
10	三重大(言語文化)	三重大	菅野 博二	実習	前期	20名程度	5,000円
11	現代社会理解科授業(言語の歴史)	三重大	菅野 博二	実習	前期	20名程度	5,000円
12	現代社会理解科授業(言語の歴史)	三重大	鈴木 幸子	実習	前期	20名程度	-
13	現代社会理解科授業(言語の歴史)	三重大	菅野 博二	実習	後期	20名程度	-
14	自然環境リサーチⅠ	三重大	坂本 竜彦	実習	前期	50名以内(50名程度)	-

## 自立化に向けた検討

平成28年3月に創設した本コンソーシアムは、平成32年度に自立化することを想定し、これまで自立化のあり方について検討してきた。その一つの方策として、その道筋を見出すためのコーディネーターの雇用が挙げられるが、平成30年度は検討を更に深め、自立化検討WGを立ち上げるとともに、各高等教育機関の入試及び就職支援部署との協議を行った。

## ■各種取組の提案(5月)

全高等教育機関を対象に、コンソーシアムで実施してほしい、あるいは委託できる内容について照会をかけた。結果、「入学志願者確保または県内就職に向けた取組」10件、「高等教育機関の魅力向上に向けた取組」9件、「地域のシンクタンク事業」6件、「収入確保」2件の意見があり、5月のコンソーシアム企画運営委員会に提起した。

## ■具体の取組の試算(8月)

全高等教育機関から提出された、種々取組を精査し、そのうち特に実現の可能性がある取組について、時期、費用試算、効果及び各種事業実施を検討する部会の構成案をまとめた。また、コーディネーターにおける自立化に向けた提案をまとめ、9月のコンソーシアム臨時企画運営委員会に提起した。

## ■自立化検討WG1の設置(10月)

9月のコンソーシアム臨時企画運営委員会及び10月のコンソーシアム企画運営委員会での協議を経て、自立化に向けては、その方向性を再度確認し、入口や出口戦略に注力するのであれば、その担当部署と協議を行えるよう道筋をつけることとした。企画運営委員会の下に自立化検討WG1を設置することに並行して、入試部署及び就職支援部署との協議を行うこととした。

## ■私立大学入試広報連絡協議会との意見交換(11月)

私立大学で構成される「私立大学入試広報連絡協議会」とコンソーシアム関係者との意見

交換を行った。協議の結果、人口戦略の充実  
は出口戦略の成果を伴ってこそであり、まずは  
出口戦略を協議する就職支援部署と意見交換  
することとした。

#### ■自立化検討WG1の実施(11月)

自立化に向けた方向性を探ることを目的に、  
自立化検討WG1を組織した。協議の結果、ま  
ずは高等教育機関のメリットを創出すること  
が第一であり、FD/SDを中心に検討を行うこ  
とが確認され、FD/SDについて検討を行う、  
自立化検討WG2を組織することとした。よっ  
て、コンソーシアム全体の方向性を検討する  
場合は自立化検討WG1、具体の取組につい  
て検討する場合は自立化検討WG2を実施し、  
自立化に向けた動きを加速化させることが  
確認された。

#### ■自立化検討WG2の実施(12月)

FD/SDを中心に検討した自立化検討WG2  
では、WG長を鈴鹿医療科学大学に担当して  
いただいた。協議の結果、別の協議体である  
県内高等教育機関におけるFD/SDの検討メン  
バーをコンソーシアムのFD/SDを検討する部  
会構成メンバーに位置づけ、連動して協議  
できるよう交渉することとし、カリキュラム  
コーディネーターやアドミッションオフィサー  
等の専門人材を養成していく方向で、新た  
に部会を立ち上げるについて確認された。

#### ■企画運営委員会での部会提案(2月)

FD/SDを検討する部会について、自立化  
検討WG2より提案があり、総会にて最終審  
議することが確認された。また、自立化策  
定プランについて協議し、多様な収入源の  
あり方や2020年度以降の事業計画につい  
て確認した。

#### ■臨時企画運営委員会での協議(3月)

多様な収入源の確保に向けた協議の他、  
会費の導入について提案があり、2019年  
度に向け、会費、受託事業、協賛金等の  
収入源をより具体化させるため、コンソ  
ーシアム全体で精力的に取り組む旨確認  
された。

本コンソーシアムでは、設立以降、構成  
機関による事業負担金の拠出により事業を  
実施してきた。若者の県内定着や地域貢  
献を掲げる中、三重創生ファンタジスタは  
COC+を通じて、県内高等教育機関が教  
育分野における協働により成し得た成果  
であり、COC+終了後もコンソーシアム  
で継続していくことが確認されている。  
COC+を発展的に続けていけるよう、今  
後も検討が進められていく予定である。

## 受託事業の実施

コンソーシアムみえでは、所属する構成  
機関の担当教職員が県内市町の抱える課  
題解決にかかる地域貢献や、コンソ  
ーシアムみえの組織運営を継続的に  
おこなっていくために、受託事業を  
平成29年度に1件実施した。平成30  
年度も県内市町より受託事業を  
実施することとなった。今年度は  
コンソーシアムみえのコーディネ  
ーターが受託事業の現場にも関  
わり、担当教職員と連携するなど  
コンソーシアムみえの地域貢  
献において重要な役割を担った。

#### 南伊勢町事前復興策定計画事業

南伊勢町の事前復興計画策定事業へ  
コンソーシアムみえとして参画した。  
南伊勢町では、大規模災害が起  
こった際に、事前にどのような  
形で復興すべきか、どのような  
準備が必要であるかなどの  
検討を町として進める必要  
性があつた。

昨年度コンソーシアムみえとして、  
三重県内地域のニーズ調査を行  
った際に、本件については、  
コンソーシアムみえに依頼が  
あり、この経緯からコンソ  
ーシアムみえとして受託が  
決定した。

コンソーシアムみえとしては、  
三重大学水木千春助教及び、  
皇學館大学近藤玲介准教授が  
ワークショップに加わり、当  
事業における専門家としての  
知見を提供した。



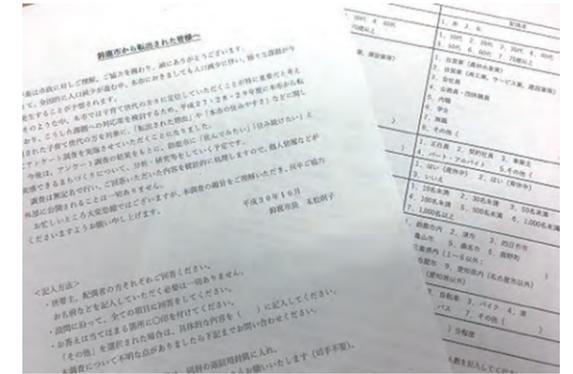
▲ワークショップの様子

#### 鈴鹿市人口減少対策調査研究事業

鈴鹿市の人口動態についての調査の  
依頼があり、コンソーシアムみえ  
として、受託することとなつた。  
鈴鹿医療科学大学の河尻純平助教  
が主担当となり、住民データの  
分析、アンケート調査、ヒア  
リング調査等を行った。

アンケートの結果は、今後鈴鹿  
市の施策検討のための資料と  
して活用されることとなり、  
鈴鹿市の人口減少に係る対策  
調査研究として、高等教育機  
関のシーズが活用されること  
となった。

南伊勢町と共に、鈴鹿市にお  
いても受託事業をコンソ  
ーシアムみえとして実施する  
ことで高等教育機関のシーズ  
を地域貢献に活用する事例  
となった。



▲アンケートとヒアリングを用いて、  
鈴鹿市の人口動態について検討した。

## みえまちキャンパス

平成31年2月21日(木)、コンソーシアムみえ主催の「みえまちキャンパスin四日市大学」が開催された。本イベントは、「みえ」の「まち」をキャンパスとして学び、活動している学生の発表の場として開催されている。本年度は、三重県内で地域活動に取り組む学生約40名が参加し、8団体がプレゼンテーション、11団体がパネル展示による発表を行った。

### 学生発表

本年度は、次の12団体が参加し、それぞれ地域での活動内容を報告した。報告後には、参加者と審査員の投票でプレゼンテーション部門の最優秀賞、優秀賞2団体、パネル部門のベストパネル賞を決定した。

プレゼンテーション部門最優秀賞は、鳥羽商船高等専門学校の「カキいれどき(改)」が受賞し、優秀賞には皇學館大学の「あばばい～伊勢志摩国立公園学生部会～」および四日市看護大学の「障害児支援サークル「くれよん」」が選ばれた。また、ベストパネル賞も「カキいれどき(改)」が選ばれ、ダブル受賞となった。

「かきいれどき(改)」は、三重県で盛んにおこなわれているカキ養殖の種苗生産段階の課題を解決しようとするもので、産業と直結する非常に高度な取り組みがおこなわれていた。

最後に、審査員を代表して皇學館大学の板井正斉審査員長より講評があり、課題をみつけるだけでなく実際に解決する活動を行ったこと、複数の学校が連携して行った活動があったことなどについて高い評価があり、今後の学生たちの地域活動にエールを送った。

参加団体一覧

団体名	プレゼン	パネル
みえ食旅パスポート利用促進PJ	○	○
TMK未来デザインプロジェクト	○	○
新聞カフェ	○	○
伊勢河崎商家リノベーションPJ	○	○
あばばい～伊勢志摩国立公園学生部会～	○	○
明和町内の「山の神」の位置情報がわかるアプリ開発グループ	○	○
障害児支援サークル「くれよん」	○	
カキいれどき(改)	○	○
皇學館みらい対話団		○
三重創生ファンタジスタクラブ		○
学生情報局		○
留学生会		○

### 会場の様子



▲プレゼンテーション部門の様子



▲審査員からの質疑の様子



▲パネル部門の様子



▲岩崎学長(四日市大学)による表彰の様子

## FD/SD合同開催

コンソーシアムみえでは、発足当初より、所属する構成機関の教職員向けに、合同のFD/SDの開催と、各高等教育機関で既に実施しているFD/SDについて、情報を共有することを実施してきた。平成30年度は、高等教育機関における、教育の質や成果等様々なことが求められる中で、『高等教育機関連携を活かした「高度専門職」の育成とデザインワークショップ』と題して、高等教育機関の連携を活かし、どのような高度専門職養成の仕組みがデザインできるかを検討することを目的として、講義とその後のワークショップ形式で開催した。

### 高度専門職養成の講義

「高度専門職養成の動向とカリキュラム・コーディネーターの育成」というテーマで、三重大大学の山本裕子准教授より、高度専門職が求められるようになった背景やカリキュラム・コーディネーターの養成方法などの説明があり、続いて宮下伊吉准教授より、「アドミッション・オフィサーの養成」テーマに、AOの役割や養成プログラムなどの紹介と、AOの今後の方向性についての報告があった。最後に、黄文哲講師より、「インスティテューショナル・リサーチチャーの養成」について、IRerの具体的な業務やデータに基づいて、高等教育機関におけるIRの活用方法などの報告があった。



▲講演の様子

### 参加者によるワークショップ

講演後のワークショップでは、「事務職員がIRerを担うのは難しい」ことや、「この先、本当に必要とされるカリキュラム・コーディネーターの技能を身につけるにはどうしたら良いか」、「教員と事務職員の役割分担はどのようにしたら良いか」といった意見が寄せられ、活発な意見交換が行われた。

各高等教育機関関係者が様々な意見交換ができる貴重な時間を過ごすことができたこと、皇學館大学齋藤平教授より挨拶があり、閉会した。



◀ワークショップの様子

### 参加者の声

- ・今後もこのようなFD/SDを続けていき、様々な教職員に参加してもらいたい。
- ・カリキュラム・コーディネーターは必要だと思うが、相当に高い能力が求められると感じた。

## 企業研究会

三重大大学キャリア支援センター（就職支援チーム）協力のもと、伊勢志摩、東紀州、伊賀、北勢の4つの地区を学生が実際に訪れ、地域や地元企業の魅力を知り、その地域で働くこと、暮らすことをイメージするための企画を実施した。このうち高等教育コンソーシアムみえとしても企業研究会 in 東紀州および、高等教育コンソーシアムみえコーディネーターが企業研究会 in 北勢に参加した。

### 企業研究会 in 東紀州

【日時】

平成30年10月6日(土)

【内容】

鬼ヶ城見学、花の窟見学、パーク七里御浜果汁搾汁工場見学・試飲、企業研究会、那智黒石磨き体験、夢古道おわせ支配人講話

【参加者】

三重大学生29名、皇學館大学生1名、三重短期大学生20名、企業・団体13団体

東紀州を初めて訪れる学生が、地元企業を知るだけでなく、世界遺産を知り、東紀州を知ってもらうきっかけとなった。企業研究会では、企業の取組やこの地域で挑戦し続ける企業の姿を学生が感じることができた。



### 企業研究会 in 北勢

【日時】

平成30年12月15日(土)

【内容】

アクアイグニス散策、希望荘から伊勢湾を展望、企業研究会、萬古焼絵付け体験、ゲストスピーカーによる講話

【参加者】

三重大学生41名、皇學館大学生3名、企業・団体・自治体21団体

アクアイグニス見学では、地産地消を活用するなど事業展開について学び、伊勢湾展望にて三重の自然を再発見する機会となった。企業研究会では、県内の今まで知らなかった企業やイメージだけを持っていた企業に直接会い、話を聞くことで、県内企業についても、選択の視野に入れることができた。



# 平成30年度 資料一覧

## 各種制作物

平成30年度に制作した印刷物等一覧。

### 三重大学合格者向け資格案内チラシ



### 三重創生ファンタジスタ (ベーシック) 資格案内チラシ



## 平成30年度三重大学三重創生ファンタジスタ 資格認定副専攻ガイド

**三重創生ファンタジスタ 資格認定副専攻ガイド**

**■ 副専攻コースとは**  
三重大学では、2016(平成28)年度より、文部科学省「創(創)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の一環として、三重創生ファンタジスタ資格を養成すべく、資格認定副専攻コースが設定されました。

**■ 資格認定副専攻コースとは**  
資格認定副専攻コースの大きなメリットは、卒業まで学修した内容の履修が卒業要件の一部として認められ、卒業要件の大半を卒業時点で満たすことができることです。また、卒業まで学修した内容の履修が卒業要件の一部として認められ、卒業要件の大半を卒業時点で満たすことができることです。

**■ 三重創生ファンタジスタ**  
資格認定副専攻コースの大きなメリットは、卒業まで学修した内容の履修が卒業要件の一部として認められ、卒業要件の大半を卒業時点で満たすことができることです。

**■ 副専攻コースの進修方法**  
副専攻コースは、専攻科の授業と並行して履修することになります。履修の順序は、専攻科の授業と並行して履修することになります。

**■ 副専攻コースの履修条件**  
副専攻コースの履修には、専攻科の授業と並行して履修することになります。履修の順序は、専攻科の授業と並行して履修することになります。

**■ 副専攻コースの卒業要件**  
副専攻コースの卒業には、専攻科の授業と並行して履修することになります。履修の順序は、専攻科の授業と並行して履修することになります。

**■ 副専攻コースの問い合わせ先**  
副専攻コースに関するお問い合わせは、三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻センターまでお問い合わせください。

**■ 副専攻コースの問い合わせ先**  
副専攻コースに関するお問い合わせは、三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻センターまでお問い合わせください。

**■ 副専攻コースの問い合わせ先**  
副専攻コースに関するお問い合わせは、三重創生ファンタジスタ資格認定副専攻センターまでお問い合わせください。



### 企業向け三重創生ファンタジスタ資格啓発チラシ

**三重創生ファンタジスタ**

三重県の宝を  
活用してみよう

三重創生ファンタジスタとは  
地域課題に対して思いやりを持って、主体的に活躍する人材です！

文科系科学系「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」において、三重県全体の企業、自治体と連携して推進し、三重県の特色を深く知り、地域の課題解決に役立つ人材「三重創生ファンタジスタ」を育成しています。

三重県学生と、三重県内企業・自治体、地域の高校生・大学生と連携し、地域課題を解決し、地域を活性化させる。

三重県学生は、三重県内企業・自治体、地域の高校生・大学生と連携し、地域課題を解決し、地域を活性化させる。

三重県学生は、三重県内企業・自治体、地域の高校生・大学生と連携し、地域課題を解決し、地域を活性化させる。

**STEP 1 三重創生ファンタジスタ(ベーシック)資格**

三重県内の企業・自治体、事業者の研修等を通じて、地域が抱える課題に対して思いやりを持って主体的に活躍する力を養成します。

地域志向  
— 異業種連携  
— リーダーシップ  
— 情報発信・分析力  
— コミュニケーション能力

**STEP 2 三重創生ファンタジスタ(アドヴァンス)資格**

ベーシックで培った地域への思いやりに加え、地域が抱える課題の解決に主体的に活躍する力を養成します。

地域課題解決力  
— リーダーシップ  
— 情報発信・分析力  
— コミュニケーション能力



### 三重創生ファンタジスタ資格紹介パンフレット

**三重創生ファンタジスタ資格  
紹介パンフレット**

三重創生ファンタジスタ  
地(知)の拠点



### 平成29年度報告書

地(知)の拠点大学による  
地方創生推進事業(COC+)  
地域イノベーションを推進する  
三重創生ファンタジスタの養成

平成29年度  
事業報告書



### 三重創生ファンタジスタNews Vol.1-6

**三重創生ファンタジスタNews**

三重創生ファンタジスタ養成に貢献した情報をお知らせするニュースレターです！

COC+と三重創生ファンタジスタとは？

3/19号です。地域志向の深まりを促すイベント  
もあつきました。4/12(日)には10月19日(水)に  
開催される「三重県学生と、三重県内企業・自治体  
と連携して推進し、三重県の特色を深く知り、  
地域の課題解決に役立つ人材「三重創生ファンタジスタ」  
を育成しています。」というテーマで、三重県内企業・自治体、  
地域の高校生・大学生と連携し、地域課題を解決し、  
地域を活性化させる。

学生が三重の企業に訪問

地域の若手社員と対話できる  
イベント開催



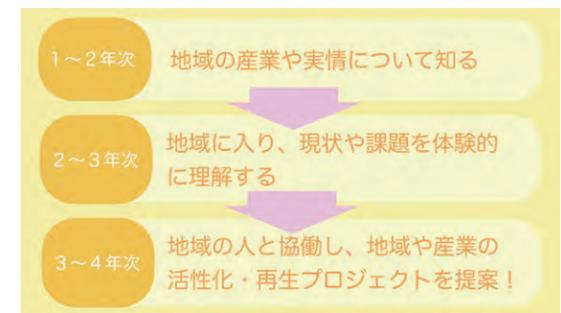
### COC+ 啓発ビデオ

新入生や一般の方向けに、COC+ の取組を分かりやすく紹介する啓発ビデオを作成し、新入生オリエンテーションや三重創生ファンタジスタ資格説明会などで活用した。また今後開催予定のシンポジウムや各種報告会においても動画を流しながら説明していく計画である。

啓発ビデオでは、三重創生ファンタジスタの授業風景などの動画が流れた後、資格制度についての基礎的な説明を行っている。



全体として2分程度の短い動画にまとまっており、CMのように様々なシーンで流すことを想定している。また授業風景などの動画を繋げるといった活用方法も考慮しており、各高等教育機関に配布し、活用を促進して三重創生ファンタジスタの普及啓発を図っていく。



また、三重創生ファンタジスタの資格取得イメージを学年ごとのカリキュラムに基づいて図式化しており、地域志向科目から地域実践交流科目、地域イノベーション科目へとステップアップしていく様子が理解できるようになっている。



後半では、三重創生ファンタジスタを目指す学生と、三重県内に就職した卒業生のインタビューをそれぞれ収録し、三重のことを学ぶモチベーションや意義、将来的にどのように活用できるかを説明している。

